四　A三電波　電話　音聲、音樂又ハ其ノ他ノ音響ニ相當スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

五　A四電波　電寫　永續的ニ複寫スル爲靜止影像ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

六　A五電波　雷視　靜止又ハ移動スル事物ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

七　B電波　振幅ガ最大ニ達シタル後漸次低減スル振動ノ逐次ノ列ヨリ成ル電波　電波ノ列ハ電信符號ニ依リ之ヲ操作スルモノトス

前項第三號及第五號ノ電波ノ可聽周波ハ毎秒五百「サイクル」以上ナルコトヲ要ス

第十七條　私設無線電信無線電話ノ發射電波ハ出來得ル限リ必要ナラザル電波ヲ伴ハザルモノナルコトヲ要ス

第十八條　私設無線電信無線電話ニ使用スル電波ノ周波數（單位ニ毅サイクル「キロサイクル」トス以下KCヲ以テ示ス）ハ成ルベク之ヲ正確且安定ニ維持スルコトヲ要ス

第十九條　私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ハ電信、電話其ノ他ノ電線路ニ障碍ヲ及ボスベキ誘導ヲ生ゼズ且人畜又ハ物件ニ危害ヲ及ボス虞ナキモノナルコトヲ要ス

第二十條　私設無線電信無線電話ノ送信及受信裝置ハ周波數ノ變更及送信ヨリ受信ヘ又ハ受信ヨリ送信ヘノ切替ヲ敏速ニ行ヒ得ルモノナルコトヲ要ス

私設無線電話ニシテ公衆通信ノ用ニ供スルモノニ在リテハ同時送受話方式ナルコトヲ要ス

第二十一條　私設無線電信無線電話ノ空中線電力ハ所要通達距離ニ照シ最小ナルコトヲ要ス

第二十二條　私設無線電信無線電話ノ受信裝置ハ同調銳敏ナルモノニシテ其ノ空中線ニ誘發スル高周波電流ガ他ノ無線電信無線電話ヲ妨害セザルモノナルコトヲ要ス

第二十三條　削除

第二十四條　私設無線電信ノ送信裝置ハB電波ヲ發射セザルモノナルコトヲ要ス但シ實驗用私設無線電信又ハ船舶ニ施設スル電源用變壓器入三百「ワット」未滿ノ私設無線電信ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條　私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外別表第一號ノ區別ニ依ル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノナルコトヲ要ス

船舶又ハ航空機ニ施設スル私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ニ付テハ所轄遞信局長ノ許可ヲ受ケ之ヲ前項ノ外通信上必要ナル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノト爲スコトヲ得

第二十六條　私設無線電信無線電信ノ裝置ニハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外避雷其ノ他ノ保安上必要ナル設備ヲ施シ且機器及其ノ裝置ノ保守上必要ナル計器及豫備品竝送受信裝置及電源設備接續圖面ヲ備付クベシ

第二十七條　船舶安全法第四條第一項第一號及第二號ニ該當スル船舶（同條第二項ニ依リ無線電信ノ施設ヲ免除サレタル船ノヲ除ク以下無線電信強制船ト稱ス）ニ施設スル私設無線電信ハ通信室内ニ非常燈ヲ備付クベシ

船舶ニ私設無線電信ヲ施設スル場合ハ通信室ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ通話等ノ通信設備ヲ施スベシ航空機ニ私設無線電信無線電話ヲ施設スル場合無線通信士席ガ操縱士席ヨリ離隔スルトキハ其ノ兩席間ニ付亦同ジ

（參照）　船舶安全法　（三篇三六ノ五九頁）

第二十八條　船舶ニ施設スル私設無線電信無線電話ニシテ一五〇kc以下ノ周波數又ハ四〇〇〇kc以上ノ周波數ヲ發射シ得ル裝置ヲ有スルモノニ在リテハ少クトモ千分ノ五ノ確度ヲ有スル周波數計又ハ之ニ相當スルモノヲ備付クルコトヲ要ス

第二十九條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ通信室内ニ正確ナル時計（無線電信強制船舶ニ在リハ秒針ヲ有スルモノナルコトヲ要ス）ヲ備付クベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者ハ無線通信士ヲシテ前項ノ時計ヲ毎日一回以上「グリニッヂ」標準時ニ照合セシムベシ

第三十條　無線電信強制船舶ニ施設スル私設無線電信ノ主送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇kcノ周波數ニ於テ空中線電力七十五「ワット」以上ナルカ又ハ晝間百九十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三十一條　船舶ニ施設スル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スル補助設備ヲ裝置スベシ

一　獨立ノ電源ヲ有スルコト

二　獨立ノ高電壓發生裝置ヲ有スルコト

三　連續シテ六時間以上使用シ得ルコト

四　送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇kcノ周波數ニ於テ空中線電力五十「ワット」以上ナルカ又ハ晝間百五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト但シ無休ノ執務ヲ要セザルモノニ付テハ空中線電力二十五「ワット」以上ナルカ又ハ晝間九十五キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ得

五　受信裝置ハA二又ハB電波五〇〇kcノ周波數ヲ受信シ得且鑛石檢波ノ方式ニ依リテモ受信シ得ルコト

六　直ニ全能力ヲ以テ使用シ得ルコト

前項ノ補助設備ハ最高滿載吃水線上成ルベク高ク船舶ノ上部安全ナル位置ニ裝置スルコトヲ要ス

主裝置前二項ノ條件ヲ具備スルトキハ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十二條　無線電信強制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スル私設無線電信ニシテ公衆通信ノ用ニ供セザルモノニ付テハ所轄遞信局長ニ於テ船體ノ構造上補助設備ヲ裝置スルコトヲ不適當ト認メタル場合ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラズ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十三條　船舶設備規程ニ依リ總噸數五千噸以上ノ旅客船ニ裝置スル無線方位測定機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二　二八五kc乃至五一五kcノ周波數帶ニ於テ成ルベク正確ニ眞方位ヲ測定シ得ルコト

三　良好ナル感度ヲ有スルコト

前項ノ無線方位測定機ヲ航海船橋又ハ通信室以外ノ場所ニ裝置シタル場合ハ其ノ裝置場所ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ電話等ノ通信設備ヲ施スベシ

無線方位測定機ノ較正曲線ハ裝置後速ニ之ヲ作製シ所轄遞信局長ヘ提出スベシ

（參照）船舶設備規程

第百四十六條　總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ無線方位測定機ヲ備フベシ

第三十四條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ裝置スル警急自働受信機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二　警急符號ニ依リ起動シタルトキハ航海船橋、通信室及主任無線通信士室ニ備付ノ可聽警報裝置ヲ連續的ニ動作セシメ之ガ停止ハ通信室ニ備付ノ開閉器ニ依リテノミ爲シ得ルコト

第三十五條　船舶設備規程ニ依リ船舶ニ備フル救命艇ニ裝置スル無線電信設備ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　A二又ハB電波五〇〇kcノ周波數ニ依リ送受シ得ルコト

二　連續シテ三時間以上使用シ得ルコト

三　送信裝置ハ空中線電力十「ワット」以上ナルカ又ハ書間五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト

四　受信裝置ハ眞空管式ニシテ且鑛石檢波器ニ切替使用シ得ルコト

五　機器ハ機械的振動ニ堪フルコト

六　操艇ノ爲送受信ニ妨害ヲ受ケザルコト

七　有效ナル蔽圍設備ヲ有スルコト

第三十五條ノ二　本章ニ規定スル私設無線電信無線電話ノ機器及裝置竝附屬具ノ具備スベキ條件ノ細目ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

第三章　無線通信士

（參照）船舶設備規程

第十四條　長國際航海ニ從事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ內一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ內二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ

第三十六條　長國際航海ニ從事スル第一種船ノ發動機救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ

探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及動源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一八メートルノ幅ニ亘リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セラルルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス

第三十六條　私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事スル者ハ之ヲ無線通信士ト稱シ無線通信士資格檢定規則ニ依リ相當資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

第三十六條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ前條ノ規定ニ拘ラズ無線通信士資格檢定規則ニ依ル資格ヲ有セザル者ヲシテ私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事セシムルコトヲ得

一　所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ實驗用私設無線電信無線電話若ハ無線電信法第二條第六號ニ依リ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル私設無線電信無線電話又ハ之ニ準ズベキモノノ通信ニ從事セシムル場合

二　外國各地間ノミヲ航行スル船舶又ハ航空機其ノ他外國ニ在ル船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニシテ前條ノ規定ニ依リ得ザル特殊ノ事由アルモノニ付テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ內地目的地ニ到著スル迄國際電氣通信條約附屬無線通信規則第十條ニ依リ外國主管廳ノ交付シタル證明書ヲ有スル者ヲシテ當該無線電信ノ通信ニ從事セシムル場合但シ從事スベキ通信ノ範圍ハ左ノ區別ニ依ル

證明書ノ種別	從事シ得ル通信ノ範圍
第一級無線電信通信士證明書	第一級無線通信士ノ從事シ得ル無線通信
第二級無線電信通信士證明書	第二級無線通信士ノ從事シ得ル無線通信
無線電信通信士特別證明書	第三級及航空無線通信士ノ從事シ得ル無線通信

三　遞信省ニ於テ又ハ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル講習所ニ於テ所定ノ席上課程ヲ修了シタル者ヲシテ無線通信ノ實務練習ヲ爲サシムル場合但シ從事スベキ通信ノ範圍ハ別ニ之ヲ告示ス

第三十七條　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第一種及第二種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外指定無線通信士資格檢定合格證書（船舶）ヲ受有スル者ニシテ左ノ區別ニ從ヒ各下記ノ期間船舶無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者ナルコトヲ要ス

當該無線電信ノ通信執務時間	五年以上	三年以上	二年以上	一年以上
第一種甲	○	○	○	○
第一種乙		○	○	○
第二種甲			○	○
第二種乙				○

第三十八條　航空機ニ施設シタル私設無線電信ノ主任無線通信士ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外指定無線通信士資格檢定合格證書（航空機）ヲ受有スル者ニシテ航空機無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者又ハ航空機ニ乘務シタル經歷アル者ナルコトヲ要ス

第三十九條　私設無線電信無線電話（船舶ニ施設シタル私設無線電信ヲ除ク）ニ配置スベキ無線通信士ノ資格及員數ニ付テハ之ヲ指定スルコトアルベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外別表第二號ニ依リ無線通信士ヲ配置スベシ

第四十條　私設無線電信無線電話ノ施設者其ノ無線通信士ヲ選任

又ハ解任シタルトキハ其ノ都度附錄第二號樣式ニ依リ之ヲ所轄逓信局長ヘ届出ヅベシ但シ選任ノ場合ハ身分證明書（實驗用私設無線電信無線電話ニ限ル）履歴書、體格檢査證書及無線通信士資格檢定合格證書寫ヲ添附スベシ

第四十一條 逓信大臣ハ私設無線電信無線電話ノ無線通信士ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ之ガ解任ヲ命ズルコトアルベシ

第四十二條 無線通信士ハ第六章ノ檢査吏員ヨリ其ノ資格檢定合格證書ノ呈示ヲ求メラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ呈示スベシ

第四章 逓信執務時間及聽守時間

第四十三條 私設無線電信無線電話ノ通信執務時間ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ依ルベシ

一 船舶ニ施設スル私設無線電信

第一種甲 總噸數一萬噸以上ノ旅客船ニ施設シタルモノ — 無休

第一種乙 總噸數三千噸以上一萬噸未滿ノ旅客船及總噸數五千五百噸ヲ超ユル旅客船ニ非ザルモノ — 無休

第二種甲 無線電信強制船舶ニシテ第一種ニ該當セザル船舶ニ施設シタルモノ — 一日十六時間

第二種乙 無線電信強制船舶ニ非ザル船舶ニ施設シタルモノニシテ公衆通信ヲ取扱フモノ第三種乙ニ該當スルモノヲ除ク — 一日八時間

第三種甲 第一種、第二種及第三種乙ニ該當セザルモノ — 不定

第三種乙 總噸數三百噸未滿ノ漁船ニ施設シタルモノ — 不定

（通信執務時間割ハ國際電氣通信條約附屬無線通信規則附錄第四號表ニ規定スル區別ニ依ルベシ）

私設無線電信無線電話ニ於テ必要アルトキハ通信執務時間外ニ於テモ臨時通信ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第二種ニ屬スルモノニ在リテハ通信執務時間割ニ拘ラズ成ルベク當該船舶ノ入港前六時間以上連續執務スベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第三種ニ屬スルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日午前九時及午後五時ヨリ各三十分間五〇〇kcノ周波數ニ依リ成ルベク聽守スベシ

第四十五條 削除

第五章 運用

第四十六條 私設無線電信無線電話ノ使用ハ左ノ各號ニ從フコトヲ要ス但シ船舶又ハ航空機ノ遭難通信、海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全上緊急ノ性質ヲ有スル通信（以下緊急通信ト稱ス）及航行上ノ危險警戒ニ必要ナル通信（以下安全通信ト稱ス）ニ關スル場合竝船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線通話ニ於テ報時、氣象報、水路

告示、傳染病情報其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全ニ必要ナル事項ニ關スル一般艦船又ハ航空機宛公報ノ放送ヲ受信スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 無線電信無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事通信ニ支障ナキニ限ルコト

二 船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノノ使用ハ航行中ニ限ルコト

三 實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ他ノ無線通信無線通話ノ通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

第四十七條 實驗用私設無線電信無線電話ニ依ル機器ノ實驗ニハ擬似空中線回路ヲ使用スベシ但シ特ニ電波（B電波ヲ除ク）ノ發射ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話ニ依ル發信ヲ再送信スルコトヲ得ズ

第四十九條 實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話トノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ他ノ實驗用無線電信無線電話トノ間ニ自己又ハ對手ノ施設者名、機器裝置場所、裝置方式、空中線電力、使用周波數感度又ハ實驗時刻ヲ照復スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ニ依ル通信ニハ秘密ノ意義ヲ有スル語辭ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五十條 私設無線電信無線電話ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキニ限リ其ノ施設者ニ於テ施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ妨ゲズ

一 遭難、緊急又ハ安全通信ニ關シ他ノ無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

二 氣象若ハ時刻ノ承合、方位測定又ハ機器調整ノ爲他ノ無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

三 無線電信機又ハ無線電話機ヲ裝置スル電信官署又ハ電話官署ノ指示ニ從ヒ之ト交信ヲ必要トスルトキ

四 軍事通信ノ必要ニ依リ軍用無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

五 船舶ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ稅關港務部用無線電信無線電話ヨリ稅關官制第一條第九號乃至第十二號ノ事務ノ必要ニ依リ交信ヲ求メラレタルトキ又ハ地方長官若ハ地方自治體施設ノ海港檢疫若ハ港内取締事務用無線電信無線電話ヨリ當該事務ノ必要ニ依リ交信ヲ求メラレタルトキ

六 漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ漁業監督官廳用船舶無線電信無線電話ヨリ漁業監督事務上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキ

七 漁獵通信ニ關シ道府縣所屬水産事業指導用無線電信無線電話ト漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

前項第四號ニ依ル海軍無線電信トノ間ノ交信ハ別ニ告示スル海軍用電報取扱規約ニ準據スベシ

第五十一條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ノ補助設備及警急自働受信機ノ運用ニ關シテハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一 補助設備ニ付テハ當該船舶ノ航行中毎日一回直ニ其ノ全能力ヲ以テ使用シ得ル狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

二 警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ行フモノニ在リテハ當該船舶航行中毎日一回其ノ機能ヲ試驗スルコト

三 警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ爲サントスルトキハ之ヲ空中線ニ接續シテ其ノ機能ヲ試驗シ可働狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

四 前各號ノ事項ニ付テハ其ノ都度之ヲ船長又ハ船橋ニ於ケル當直職員ニ通知スルコト

第五十二條 私設無線電信無線電話ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外「グリニッヂ」標準時ニ依ル毎時ノ十五分及四十五分ヨリ三分間(以下沈默時間ト稱ス)B電波ニ依ル一切ノ發信及其ノ他ノ電波ニ依ル四六〇kc乃至五五〇kcノ周波數ノ發信ヲ爲スベカラズ船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中其ノ通信執務時間ヲ通ジ沈默時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ

船舶無線電信ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタル私設無線電信ハ沈默時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ當該時間ガ通信執務時間外ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中前條第二項ノ規定ニ依ルノ外通信執務時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條ノ二 五〇〇kcノ周波數ヨリ五kcヲ超エザル間隔ヲ有スル周波數ヲ使用スル陸上無線電信ノ通達距離内ニ在ル私設無線電信ハ第四十四條及前二條ノ規定ニ依ル五〇〇kcノ周波數ノ聽守上注意スルコトヲ要ス

第五十四條 電信官署ヨリ無線電信ニ依リ私設停信符號 ——— ヲ發信シタルトキハ更ニ私設復信符號 ——— ヲ發信スル迄又電話官署ヨリ無線電話ニ依リ「私設停止」ヲ發信シタルトキハ更ニ「私設解除」ヲ發信スル迄其ノ通達距離内ニ於ケル總テノ私設無線電信無線電話ニ依ル通信ヲ停止スベシ

第五十五條 前條ノ規定ハ緊急ノ際ニ於テ軍用無線電信無線電話ヨリ同樣ノ發信ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外通信ノ區別ニ從ヒ別表第三號ニ依ルベシ

第五十七條 私設無線通信ノ通信ハ「モールス」符號ニ依リ其ノ方法ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ遵フベシ

一 呼出ヲ爲サントスルトキハ之ニ先チ受信機ヲ最良ノ感度ニ調整シ他ノ通信中ナリヤ否ヲ確ムベシ若シ通信中ナルトキハ其ノ終了後ニ非ザレバ呼出ヲ爲スベカラズ

二 呼出ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ 對手者(被呼者)呼出符號 ——— 三回以下

ロ 前置符號 ——— 一回

ハ 自己呼出符號 ——— 三回以下

三 應答ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ但シ直ニ通信事項ヲ受信シ得ザル特殊ノ事由アルトキハ可送符號ニ代フルニ可待符號 ———— 及概定可待時間ヲ送信スベシ

イ 對手呼出名呼出符號 ——— 三回以下

ロ 前置符號 ——— 一回

ハ 自己呼出符號 ——— 一回

ニ 可送符號 ———— 一回

四 第二號ノ呼出ヲ爲スモ被呼者ノ應答ナキトキハ二分間以上ノ間隔ヲ以テ更ニ二回呼出ヲ爲シ尙應答ナキトキハ十五分間以上ヲ經タル後ニ非ザレバ再ビ其ノ呼出ヲ爲スベカラズ

五 自己ノ通達距離内ニ在ル無線電信ヲ探呼セントスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ 探呼符號 ———— 三回以下

ロ 前置符號 ——— 一回

ハ 自己呼出符號 ——— 三回以下

ニ 可送符號 ——— 一回

六 被呼者ノ應答アリタルトキハ直ニ所要ノ通信ヲ開始シ其ノ終ニ左ノ符號ヲ送信スベシ

イ 終信符號(和文)(歐文) ———— 一回

ロ 自己呼出符號 ——— 一回

ハ 可送符號 ——— 一回

七 被呼者通信ヲ了解シタルトキハ直ニ解信符號 ———— ヲ送信スベシ

八 相互ノ通信完了シタルトキハ互ニ結了符號 ———— 及呼出符號ヲ交換スベシ

九 實驗用私設無線電信ノ通信ニシテ對手者ノ呼出ヲ必要トセザルモノニ在リテハ先ヅ自己ノ發射セントスル周波數及他ノ必要ト認ムル周波數ニ依リ一應聽取シ他ノ通信ヲ妨ゲザルコトヲ確メタル後左ノ符號ヲ順次送信シタル上更ニ一分間聽守ヲ行ヒ他ノ無線電信無線電話ヨリ停止ノ要求ナキ場合ニ限リ調整符號 ———— ノ發信ヲ開始シ其ノ終ニ終信符號 ———— 及自己呼出符號ヲ送ルベシ此ノ場合ニ於テ調整符號 ———— ノ發信ハ三分間ヲ超ユベカラズ私設無線電信ノ裝置工事又ハ周波數測定若ハ機器調整ノ爲發信ヲ必要トスル場合亦同ジ

イ 實驗符號 ———— 三回

ロ 前置符號 ——— 一回

ハ 自己呼出符號 ——— 三回

第五十七條ノ二 航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ呼出符號ハ通信連絡成リタル後左ノ各符號ヲ以テ自己呼符號ニ代フルコトヲ得

一 無線電信ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字

二　無線電話ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字又ハ呼出名稱

第五十七條ノ三　私設無線電信無線電話ニ依リ遭難通信、安全通信及第六十二條ノ二ノ規定ニ依ル通信ヲ爲ストキハ左ノ區別ニ依ル電波ヲ使用スルコトヲ要ス

一　船舶ニ施設シタルモノ又ハ船舶無線電信無線電話ト交信スル目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二又ハB電波五〇〇kc

無線電信　A三電波一六五〇kc

二　航空機ニ施設シタルモノ又ハ航空機無線電信無線電話ト交信スル目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二電波三三三kc又ハ六二一〇kc

無線電話　A三電波三三三kc又ハ六二一〇kc

第五十八條　私設無線電信ニ依リ遭難通信ヲ發信スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シ引續キ遭難ノ船舶又ハ航空機ノ名稱、位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ傳送スベシ

イ　遭難符號 ｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜　三回

ロ　前置符號 ｜｜｜｜　一回

ハ　自己呼出符號　三回

前項ノ遭難通信ニハ特ニ必要ナシト認メタル場合ヲ除クノ外警急符號十二秒ノ無ノ後ニ續リ各一秒ノ無サハ四秒時、隔テ無ノ間隔ハ一秒トス ヲ前置スベシ此ノ場合ニ於テハ事情ノ許ス限リ該符號ト遭難符號トノ間二二分間ノ間隔ヲ置クコトヲ要ス

第五十九條　私設無線電信ニ於テ遭難通信ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ他ノ一切ヲ中止シテ該遭難通信ヲ受信シ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外應答、傍受其ノ他遭難通信ノ爲最善ノ措置ヲ爲スベシ

前項ニ依リ應答スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

イ　對手呼出符號　三回

ロ　前置符號 ｜｜｜｜　一回

ハ　自己呼出符號　三回

ニ　解信符號 ｜｜｜　三回

ホ　遭難符號 ｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜　一回

第六十條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ當該船舶又ハ航空機ノ遭難ニ際シ其ノ位置判明セザルトキハ無線方位測定機ヲ有スル他ノ無線電信ヲシテ位置ヲ測定スルヲ得シムル爲事情ノ許ス限リ自己ノ呼出符號ヲ連續送信スベシ

第六十一條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ緊急通信ヲ爲ス爲他ノ無線電信ヲ呼出サントスルトキハ其ノ呼出ノ前ニ緊急符號 ｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜ ヲ三回送信スベシ

私設無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ一切ノ通信ヲ中止シ少クトモ三分間繼續聽守スベシ此ノ場合ニ於テハ緊急通信行ハレザルカ又ハ該通信ガ終了シタルコトヲ確認シタル後ニ非ザレバ再ビ通信ヲ開始スルコトヲ得ズ

第六十二條　私設無線電信ニ依リ安全通信ヲ發信セントスルトキハ該通報ヲ入手シタル即刻沈默時間中ナルトキハ其ノ終末ニ左ノ符號ヲ順次送信シタル上通報ノ種類列、次、讓渡、遭難等ヲ冠シ該通報ヲ二回送信シ次ノ沈默時間ノ終末ニ於テ更ニ之ヲ二回送信スベシ

一　安全符號 ｜｜｜　三回

二　前置符號 ｜｜｜　一回

三　自己呼出符號　三回

私設無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ其ノ發信中總テノ通信ヲ中止スベシ

第六十二條ノ二　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ醫師ノ乘組メル船舶ニ設置シタル電信官署ヲ探呼セムルスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スヘシ

一　醫療符號 ｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜　三回

二　前置符號 ｜｜｜　一回

三　自己呼出符號　三回

四　可送符號 ｜｜｜　一回

第六十三條　第五十七條及前六條ノ規定ハ私設無線電話ニ依ル通信ニ準用ス但シ左ノ符號ハ各下記ノ語辭ニ代フベシ

一　遭難符號　「メーデー」又ハ「遭難」

二　緊急符號　「パン」又ハ「緊急」

三　安全符號　「セキユリテ」又ハ「警報」

四　前置符號　「コチラハ」

第六十四條　私設無線電信無線電話ハ遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲ス場合ニ限リ特ニ必要トスル電力又ハ電波ノ型式若ハ周波數ノ使用ヲ妨ゲズ

第六十五條　私設無線電信ニ依リ遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲ス場合送信速度ハ原則トシテ一分時ニ和文七十字歐文十六語ヲ超エザルコトヲ要ス

第六十五條ノ二　第三十一條ニ依ル補助設備ニシテB電波ヲ發射スルモノハ左ノノ場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

一　遭難通信ヲ行フトキ

二　主送信裝置故障ノ爲使用シ得ザルトキ

三　第五十七條第九號ニ依ル發信ニシテ特ニ電波ノ發射ヲ必要トスルトキ

第六十六條　船舶ニ施設シタル私設無線電信電信官署ノ通達距離內ニ入リタルトキハ當該電信官署ヨリノ自己ノ概略方位、距離及進行方位ヲ通知スベシ其ノ通達距離ヲ去ラントスルトキ亦同ジ

第六十七條　私設無線電信無線電話ハ船舶又ハ航空機ニ施設シタル無線電信無線電話ヨリ機器調整上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキハ支障ナキ限リ他ノ通信ニ妨害ヲ與ヘザルコトヲ確メタル上之ニ應ズベシ

第六十八條　遞信大臣ハ特ニ指定シタル無線通信監視局ヲシテ私設無線電信無線電話ノ使用ノ適否及通信ノ秩序ニ關シ之ヲ監視セシム

○告示第六百二十七號大正六年八月二日

私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依ル無線通信監視局

ヲ左ノ通定ム（昭和五、第九四一號八、一二、第二九七二號改正）

銚子無線電信局　落石無線電信局　函館無線電信局　新潟郵便局
潮岬無線電信局　下津井無線電信局　若狭無線電信局　札幌無線電信局
角島無線電信局　幌延無線電信局　大分無線電信局　大泊無線電信局
長崎無線電信局　那覇無線電信局　鹿兒島郵便局　惠須取無線電信局

船舶内ニ設置シタル無線電信局

○關東局告示第三十三號（昭和十三年七月四日）

専用通信施設規則第六十八條ニ依ル無線通信監視局ハ之ヲ關東逓信官署逓信局トシ其ノ機器裝置場所及呼出符號ハ左ノ通トス

昭和八年關東廳告示第百五十號ハ之ヲ廢止ス

機器裝置場所	呼出符號
大連市周水屯大連航空無線通信局（第一裝置）	JDW
大連汽船株式會社所屬汽船青島丸（第二裝置）	JQRG

○樺太廳告示第八十九號（昭和十二年八月十二日）

私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依ル無線通信監視局ヲ左ノ通指定ス

大正十年樺太廳告示第百五十四號ハ之ヲ廢止ス

大泊無線電信局一惠須取無線電信局

○臺灣總督府告示第百七十五號（大正十四年十二月九日）

昭和八年逓信省令第六十號私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依リ無線通信監視ヲ左ノ通指定ス

本告示ハ大正十四年十二月十六日ヨリ之ヲ實施ス

基隆無線電信局一鷲鑾鼻無線電信局

○南洋廳告示第四號（大正十四年六月一日）

私設無線電信無線電話規則第六十八條ニ依リ無線通信監視局ヲ左ノ通指定ス

パラオ郵便局一ヤップ郵便局　ボナペ郵便局
トラック郵便局一サイパン郵便局一ヤルート郵便局

○朝鮮總督府告示第百四十二號（昭和十年三月十三日）

昭和十年三月十五日ヨリ私設無線電話規則第六十八條ノ規定ニ依リ無線通信監視局ヲ左ノ通リ指定ス

昭和四年朝鮮總督府告示第五百四號昭和十年三月十四日限リ之ヲ廢止ス

第六十九條　逓信大臣ハ無線通信監視局ヲシテ公衆通信上、軍事上又ハ無線電信無線電話混信防遏上ノ必要ニ應ジ私設無線電信無線電話ニ對シ其ノ使用電力、電波ノ型式、周波數又ハ交信ノ順位、速度ヲ指示セシメ其ノ他臨機ノ措置ヲ命ズシムルコトアルベシ

第七十條　無線通信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ直接當該無線通信士ニ對シ其ノ通信ヲ停止セシム

第七十一條　無線通信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信ニ關シ前二條ノ規定ニ依リ必要ナル通信ヲ發スルトキハ自局呼出符號ニ無線通信監視符號ー－－－－－－－－（無線電信ニ依ル場合）又ハ「鑑視」（無線電信ニ依ル場合）ヲ冠シ一般通信ト之ヲ區別ス

第七十二條　私設無線電信無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ機器、附屬具ノ除却ニ關シ直接當該從事者ニ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ別ニ其ノ旨ヲ當該施設者ヘモ通知ス

第六章　檢査

第七十三條　所轄逓信局長第十條若ハ第四十條ノ屆出ヲ受ケタルトキ又ハ檢査吏員所屬官廳ニ於テ第七十五條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ檢査吏員ヲ派遣シ機器及其ノ裝置並無線通信士ノ資格及員數ヲ檢査セシメタル上檢定證書ヲ交付ス但シ特ニ必要ナシト認ムルトキハ檢査ヲ省略スルコトアルベシ

前項ノ檢査吏員ニ於テ當該私設無線電信無線電話ノ使用開始上特ニ必要アリト認ムルトキハ直ニ假檢定證書ヲ交付ス

第七十四條　逓信大臣又ハ逓信局長ハ隨時檢査吏員ヲ派遣シ私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置、無線通信士ノ資格及其ノ員數、運用狀況並關係書類等ヲ檢査セシム

第七十五條　檢査吏員私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ガ規定ノ條件及許可ヲ得タル工事設計ニ適合セザルコトヲ認メ又ハ其ノ無線通信士ガ規定ノ資格及員數ニ適合セザルコトヲ認メタルトキハ檢査吏員ノ所屬官廳ハ當該無線電信無線電話ノ施設者（船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ在リテハ其ノ施設者又ハ當該船舶ノ船長若ハ當該航空機ノ機長）ニ其ノ旨ヲ通知シタル上第七十三條ノ檢定證書若ハ假檢定證書ヲ返還セシメ又ハ檢査不合格通知書ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ當該私設無線電信無線電話ハ其ノ使用ヲ停止スベキモノトス

私設無線電信無線電話規則

前項ノ場合ニ於テ私設無線電信無線電話ノ施設者機器及其ノ裝置ヲ改修シ又ハ無線通信士ヲ適當ニ配置シタルトキハ檢査吏員ノ所屬官廳ヘ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第七十六條　檢査吏員ノ所屬官廳ニ於テ檢査ノ結果ニ付當該私設無線電信無線電話ノ施設者ニ對シ指示又ハ通知ヲ爲ス必要アリト認メタルトキハ檢査吏員ヲシテ第七十八條ノ無線電信無線電話檢査簿ニ其ノ要旨ヲ記入セシメ指示又ハ通知ニ代フルコトアルベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者檢査吏員ノ所屬官廳ヨリ指示ヲ受ケタルトキハ直ニ相當措置スベシ

第七章　雜則

第七十七條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ檢定證書、無線通信士氏名及資格、無線電信法罰則並施設目的ノ要綱ヲ通信室內見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第七十八條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ附錄第三號樣式ノ無線電信無線電話檢査簿（以下無線電話檢査簿ト稱ス）ヲ設備シ檢査ノ都度之ヲ檢査吏員ニ呈示スベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者第七十六條第二項ニ依リ措置シタルトキハ其ノ措置顚末ヲ無線檢査簿ニ記錄（無線通信士ヲシテ記錄セシムルコトヲ勸ケズ）スベシ

無線檢査簿ハ其ノ使用終了後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第七十九條　私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ無線通信日誌（以下日誌ト稱ス）ヲ設備シ無線通信士ヲシテ左ノ事項ヲ記錄セシ

メ日誌使用終了後二年間保存スルコトヲ要ス

一　無線通信士ノ氏名資格等級及服務方法

二　他ノ無線電信無線電話ト通信ノ都度左ノ事項

イ　通信開始及終了ノ月日時刻

ロ　対手無線電信無線電話ノ名稱（場合ニ依リ國際呼出符號呼出名稱又ハ機器設置場所等ヲ附記スベシ）

ハ　自己及対手無線電信無線電話ノ使用周波數

ニ　通信ノ種別（專用通信、電報通信、氣象又ハ遭難通信等ノ種別ヲ記載スベシ）

ホ　対手無線電信無線電話トノ間ノ概定距離

ヘ　通信狀況（空電及混信ノ有無等ヲ附記スベシ）

ト　対手無線電信無線電話ヨリ通知ヲ受ケタル事項ノ大要（船舶又ハ航空機ノ位置、針路、電波到着命令、救援電報ノ種類等後日參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ）

三　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程（發、著、寄港又ハ寄地名及其ノ月日時刻ヲ記載スベシ）

四　船舶ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日正午及午後八時ニ於ケル位置

五　補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況（機器ニ故障アリタルトキハ其ノ狀況及原因究措置顛末ヲ記載スベシ）

六　補助設備電源用二次電池ヲ充電シタルトキハ其ノ充電時間、充電電流及充電前後ノ電壓

七　發射周波數ノ偏差ヲ測定シタルトキハ其ノ結果（偏差甚ダシキトキハ其ノ措置顛末ヲ附記スベシ）

八　遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲シタル事實及之ニ關スル措置顛末

九　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話ヲ認メタル事實

十　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ外國ニ於テ無線電信無線電話ノ裝置若ハ使用ニ關シ臨檢若ハ制限セラレタル事實竝之ニ關スル措置顛末

十一　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

十二　前各號ノ外參考トナルベキ事項

第八十條　私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ日誌及無線檢査簿ニ依リ左ノ事項ヲ簡明ニ抄錄シ附錄第四號樣式ノ表紙ヲ附シ一月毎ニ（船舶ニ施設シタルモノニシテ當該船舶ノ航行一月以上ニ及ブモノハ定期港ニ入港毎ニ）陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ遞信大臣ニ、船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ所轄遞信局長ニ提出スベシ

一　無線通信士ノ氏名資格等級及服務方法

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程ノ概要

三　陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ一日平均ノ交信度數、交信延時分及交信セル對手無線電信無線電話數

四　通信概況（對手無線電信無線電話トノ通信成績等ヲ記載スベシ）

五　無線電信無線電話檢査吏員所屬官廳ヨリ檢査ノ結果ニ付指示ヲ受ケタル事項及之ニ對スル措置顛末

六　補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況

七　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法經過及結果

八　前各號ノ外參考トナルベキ事項

第八十一條　遞信大臣又ハ所轄遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ日誌、無線檢査簿又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第八十二條　私設無線電信無線電話ノ施設者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ都度狀況ヲ具シ其ノ旨ヲ遞信大臣ヘ屆出ヅベシ

一　外國ニ於テ特ニ無線電信無線電話ノ裝置及使用ヲ制限セラレタルトキ但シ其ノ制限ガ告示セラレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　遭難、緊急又ハ安全通信ヲ爲シタルトキ

三　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話アリト認メタルトキ

第八十三條　第六條、第十條、第十二條、第十三條又ハ第七十五條ニ依リ差出ス書類ハ電報ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十四條　本令ニ依リ遞信大臣ヘ差出ス書類ハ總テ其ノ施設地又ハ施設船舶ノ定繫港若ハ施設航空機ノ定置場ノ所轄遞信局長ヲ經由スベシ

附　則

第八十五條　本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十七條第一項、第二十九條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ船舶安全法第三十條ノ一般規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年十月遞信省令第四十六號私設無線電信規則ハ之ヲ廢止ス

第八十六條　日本船舶ニ非ザル船舶ニ裝置シタル無線電信無線電話ニ付テハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ船舶安全法第三十條ノ一般規定施行ノ日迄仍從前ノ例ニ依ル

第八十七條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信ハ其ノ發射スル電波ノ型式ニ關シテハ陸上ニ施設シタルモノハ昭和九年十二月三十一日迄、船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノハ昭和十四年十二月三十一日迄第二十四條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第八十八條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル船舶ニ施設シタル私設無線電信無線電話ハ其ノ送信周波數、無線通信士ノ資格員數、通信執務時間又ハ聽守時間ニ關シテハ昭和九年六月三十日迄第二十五條、第三十九條第二項、第四十三條又ハ第四十五條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得前項ノ無線電信無線電話ニシテ特殊ノ事由アルモノニ付テハ所轄遞信局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ期間ヲ延伸スルコトヲ得

附　則（昭和十三年十二月二十六日省令第九十二號）

第八十九條　本令ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十條　本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信ニシテB電波一三六四kcノ周波數ヲ發射スルモノハ昭和十八年十二月三十一日迄第二十四條ノ規定ニ拘ラズ同周波數ヲ使用スルコトヲ得

第九十一條 本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ昭和十四年八月三十一日迄第五十六條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附　則（昭和十七年十月三十日 省令第百八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信無線電話ノ裝置工事又ハ保守ニ付テハ所轄遞信局長ノ許可ヲ受ケ當分ノ内第六條ノ二ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

昭和十七年七月勅令第六百十九號第一條ノ規定ニ依リ海軍大臣ノ管理ニ屬スル船舶ニ施設スル私設無線電信無線電話ノ裝置工事ニ付テハ當分ノ内第六條ノ二ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶ニ施設スル私設無線電信ニ配置スベキ無線通信士ノ資格及員數ニ付テハ戰時中第三十九條ノ第二項ノ規定ニ拘ラズ別表第四號ニ依ルベシ

本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル船舶ニ施設シタル私設無線電信ノ無線通信士及通信執務時間ニ付テハ昭和十八年十月三十一日迄第三十七條、第三十八條、第四十三條及前項ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別表第一號（第二十五條參照）

施設ノ區別		發射電波ノ型式及周波數kc		受信電波ノ型式及周波數kc
陸上ニ施設スル私設無線電信無線電話	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數		特ニ指定スル電波ノ型式及周波數
		A二又ハB	三七五(1)	A一及A二又ハB
		同	四二五(3)	
		同	五〇〇	一〇〇kc乃至二〇〇〇kc(2)
船舶ニ施設スル私設無線電信	一五〇〇kc乃至一七一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	一六五〇	A三及A二又ハB 一〇〇kc乃至二〇〇〇kc
船舶ニ施設スル私設無線電信	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶及一五〇kc以下ノ周波數ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB	三七五	A一及A二又ハB 一九〇kc乃至五五〇kc
		同	五〇〇	
		A一	一二五	
		同	一三六(3)	
		同	一四三	
航空機ニ施設スル私設無線電信	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4)	三三三	A三及A二又ハB 一九〇kc乃至五五〇kc
		A二	五〇〇(5)	
	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇〇kcノ周波數帶内ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4)	六二一〇	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數
航空機ニ施設スル私設無線電信	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	三三三	A三及A二又ハB 一九〇kc乃至五五〇kc
	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇〇kcノ周波數帶内ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	六一二〇	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數

註

(1) 無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スルモノニ在リテハA二又ハB電波一三六四kcヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(2) 時刻、氣象、航行上ノ危險警戒ニ關スル放送等ノ受信上必要アルモノニ付テハ最小周波數ヲ一五kcト爲スコトヲ得

(3) 公衆通信用周波數トス

(4) 外國（滿洲ヲ除ク）ニ航行スル航空機ニ在リテハA一及A二電波ヲ發射スルモノナルコトヲ要ス

(5) 海洋ノ上空ヲ航行スル航空機ニ施設スルモノニ限ル

別表 第二號（第三—九條參照）

無線電信ノ種別		無線通信士最少限資格及員數			
		第一級	第二級	第三級	聽守員數
通信執務時間無休ノモノ		一人	一人	一人	
通信執務時間一日十六時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノ	一			
	其ノ他ノモノ	一	一		
通信執務時間一日八時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノ	一	一		
	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間八時間ヲ超ユルモ四十八時間以内ノモノ	一			
	其ノ他ノモノ	一			
通信執務時間不定ノモノ	總噸數五百未滿ノ漁船ニ施設シタルモノ	二	二	一人	一
	其ノ他ノモノ	一			

別表 第三號（第五十六條參照）

（一）船舶ニ施設シタルモノ

通信ノ區別	呼出及應答 A一	呼出及應答 A二	呼出及應答 A三	呼出及應答 B	其ノ他ノ	其ノ他ノ	其ノ他ノ	其ノ他ノ
	一四三 ke	三七五(1) ke	一六五〇 ke	一三六四(2) 四二五 ke	一二五 ke	三七五(1) 四一〇	一三六四 一六五〇	一八九〇
	三七五(1) 四一〇	四一〇		五〇〇	一三六四	一六五〇	一八九〇	
	五〇〇	五〇〇						
	一三六四	一三六四						
	一六〇〇	一六〇〇						
			一六五〇					
			一七〇〇					
				一三六四(2) 四二五 ke				

		電信官署又ハ電話官署トノ間ノ通信上必要アルトキ
四一四〇	六二一〇	一四三　五〇〇
四一四〇	六二一〇	五〇〇
四四四〇	六六五〇	一六五〇
		五〇〇
四一四〇	六二一〇	一二五(3)　一三〇　一三六(3)　一四三(4)　三七五(1)　四一〇　四二五　四五四　五〇〇(5)　一三六四　一六〇〇　一八九〇
四一四〇	六二一〇	三七五(1)　四一〇(3)　四二五(3)　四五四　五〇〇(5)　一三六四　一六〇〇　一八九〇
四四四〇	六六五〇	一六五〇　一七〇〇
		四二五(3)　五〇〇(5)　一三六四(2)

四一四〇　五五二〇　六二一〇　八二八〇　一二四二〇	
四一四〇　五五二〇　六二一〇　八二八〇　一二四二〇	
四四四〇　六六五〇　八八八〇　一三三〇〇　一七七〇〇	
四一三〇　四一四〇　五五二〇　五五四〇　六二一〇　六二三〇　八二六〇　八二八〇　一一〇四〇　一一〇八〇　一二四二〇　一二四六〇　一六五二〇　一六五六〇	
四一三〇　四一四〇　五五二〇　五五四〇　六二一〇　六二三〇　八二六〇　八二八〇　一一〇四〇　一一〇八〇　一二四二〇　一二四六〇　一六五二〇　一六五六〇	
四四四〇　六六五〇　八八八〇　一三三〇〇　一七七〇〇	

方位測定通信ヲ行フトキ	三七五 五〇〇(6)	三七五 五〇〇(6)		三七五 五〇〇(6)	三七五 五〇〇(7)	三七五 五〇〇(7)		三七五 五〇〇(7)
海運局港務部用無線電信又ハ地方長官若ハ地方自治體施設ノ海港檢疫若ハ港內取締事務用無線電信トノ間ニ通信ヲ行フトキ	四一〇 五〇〇(8)	四一〇 五〇〇(8)		五〇〇(8)	四一〇 一三六四	四一〇 一三六四		四二五 一三六四
漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ漁業監督官廳用船舶無線電信無線電話又ハ道府縣所屬水産事業指導用無線電信無線電話トノ間ニ通信ヲ行フトキ	五〇〇 一三六四	五〇〇 一三六四	一六五〇 四四四〇	五〇〇 一三六四(2)	一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇	一三六四 一六〇〇(3) 一八九〇	一六五〇 一七〇〇 四四四〇	一三六四(2)
施設者ヲ異ニスル漁船無線電信無線電話相互間ニ漁獵ニ關スル通信ヲ行フトキ	一三六四	一三六四	一六五〇	一三六四(2)	一三六四 一六〇〇(3)	一三六四 一六〇〇(3)	一六五〇 一七〇〇	一三六四(2)

				一八九〇	一八九〇		

(二) 航空機ニ施設シタルモノ

通信ノ區別	呼出及應答 A二	呼出及應答 A三	其ノ他 A一	其ノ他 A二	其ノ他 A三
施設者所屬無線電信無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ又ハ電信官署若ハ電話官署トノ通信上必要アルトキ	kc 三三三 五〇〇(10) 六二一〇	kc 三三三 六二一〇	kc 三二〇 三三三(9) 三四〇 五〇〇(5)(10) 五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇	kc 三二〇 三三三(9) 三四〇 五〇〇(5)(10) 五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇	kc 三三三(9) 五六六〇 六二一〇(9) 六五九〇 一一一一〇 一六七五〇
方位測定通信ヲ行フトキ	三三三 五〇〇		三三三 五〇〇(5)	三三三 五〇〇(5)	

註

(1) 無線羅針業務ヲ妨害セザルコトヲ要ス
(2) 外國ノ無線電信無線電話特ニ放送無線電話ニ混信ヲ與ヘザルコトヲ要ス
(3) 通常通信周波數トス但シ原則トシテA電波ヲ發射スルモノニ在リテハ一三六kc及四二五kcハ船舶内電信官署若ハ電話官署、幌莚、函館、銚子、下津井、角島、鹿兒島、南大東島、木浦、鎭南浦、淸津、基隆、臺東、大泊又ハパラオノ各電信官署トノ間ノ通信ニ、一二五kc及四一〇kcハ前記以外ノ陸上電信官署若ハ電話官署トノ間ノ通信ニ使用スルモノトス
(4) 呼出及應答ニ伴フ通信ノ準備ニ使用スルモノトス
(5) 特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ通信ニ混信ヲ生ゼズ且當該通信（第六十六條ノ規定ニヨル通信其ノ他極メテ簡單ナル通信ニ限ル）ガ數分以内ニ完了スルコトヲ確認スル場合ニ限リ使用スル事ヲ得
(6) 三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル但シ方位測定業務ヲ行フ陸上無線電信ニシテ電信官署タルモノトノ間ノ呼出應答ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
(7) 三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限リ呼出應答ヲ妨害セザル條件ノ下ニ使用スルコトヲ得
(8) 四一〇kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル
(9) 五分間以内ノ通信ヲ行フ場合ニ限ル
(10) 船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信トノ間ニ通信ヲ行フ場合ニ限ル

別表

第四號

無線電信ノ通信執務時間		無線通信士ノ最少限資格及員數		
		第一級	第二級	第三級
第一種	甲	二	二	一
第一種	乙		二	一
第二種	甲	一	一	一
第二種	乙	一	一	一
第三種	甲	一	一	一
第三種	乙			

備考

一 無線通信士二名以上配置ヲ要スルモノニ在リテハ當分ノ間第三十六條第三號ノ練習生徒ヲ以テ最下級無線通信士ノ代務ヲ爲サシムルコトヲ得

二 通信執務時間第一種及第二種ニ屬スルモノト雖モ當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間十六時間ヲ超エザルモノニ付テハ所轄遞信局長ノ認可ヲ得テ左ノ區別ニ依リ下級無線通信士ノ配置ヲ省略スルコトヲ得

區別	配置スベキ最低員數
航續時間八時間以上	二人
航續時間八時間以上十六時間以下ノモノ	一人
航續時間八時間未滿ノモノ	

附錄第一號樣式（第五條參照、用紙美濃紙）

私設無線電信無線電話規則

甲 船舶無線ノ例（航空機ニ施設スルモノニ在リテハ之ニ準ズルモノトス）

私設無線電信（無線電話）施設願

年　月　日

何市何區何町何番地
何汽船株式會社
社長　何　某　㊞

何遞信局長　殿

當社所屬汽船　何　丸ニ私設無線電信（無線電話）施設致度
私設無線電信無線電話規則第五條ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一 施設ノ目的
（航行ノ安全ニ備ヘ施設者所屬海運事業用船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供シ尙電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スルヲ以テ目的トス）

二 施設ニ必要トスル事由

（海難ニ際シ人命救助ニ資シ併テ海運事業經營上ノ敏活ヲ計リ尙船舶安全法ニモ從ハンガ爲本施設ヲ必要トス）

三　機器裝置船舶

船名　丸（船名ニハ例則ヲ附シ他與交ニ依ル船名ヲモ附記スルコト）

四　工事設計（主設備、補助設備毎ニ記入スルコト）

（一）通信方式

單信
ブレイタイン
二重通信
同時送受話
式等
秘密通信

（二）書間所要通達距離（主設備ニ付テハ之ヲ要セズ）

（三）電源設備（左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト）

區別	種類	容量	箇數	電壓	電流	回轉數	製造者	備考
「何」用原動機								
「何」用「何」流發電機								
「何」用蓄電池	チューブル型（等）	六時間放電率ニ於ケル						無線施設以外ニモ共用スル場合ハ其ノ使用スル最大電力ヲ記入スルコト

（四）送信（話）裝置

（イ）空中線電力「キロワット」（又ハ「ワット」）

（ロ）電波ノ型式及周波數（電信機發ノ型式及送信周波數ヲ記入スルコト）

（ハ）方式（「クエンチトスパーク」式自動發振真空管式、主發振真空管式、水晶制御真空管式等）

（ニ）送信（話）可能周波數（自「キロサイクル」至「キロサイクル」）

（ホ）周波數變更裝置（手働又ハ自働式等ノ區別）

（ヘ）製造者

（ト）各機器ノ種類（左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト）

（火花式ノ場合）

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	備考
「何」流電動機									
高周波發電機									
變壓機				一次 二次					
火花間隙						火花周波數ヲ記入スルコト			

（眞空管式ノ場合）

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	用途
「何」用「何」流電動機									
「何」用「何」流發電機									
「何」用變壓器									
「何」用整流眞空管（名稱ヲ記入スルコト）		（一箇ノ入力）	プレートフヰラメント						

「何」用發振眞空管	（同）	（同）		ブレートフキラメント
「何」用變調眞空管	（同）	（同）		ブレートフキラメント
「何」用增幅眞空管	（同）	（同）		ブレートフキラメント
水晶發振子				
送話器				

（五）受信（話）裝置

（イ）方式（オートダイン式、スーパーヘトロダイン式等）

（ロ）使用眞空管數　箇

（ハ）增幅器　高周波　段（眞空管名）
　　中間周波　段（同　）
　　低周波　段（同　）

（ニ）受信可能周波數　自「キロサイクル」至「キロサイクル」

（ホ）製造者

（六）空中線及饋電線（各空中線毎ニ記入スルコト）

形狀（T型、逆L型等）

大サ（引込部長サ　メートル　水平部長サ　メートル　水平部條數　條）

高サ　メートル（最高齎戴吃水線上ヨリ水平部迄ノ高サ）

（七）無線方位測定設備

（イ）方式（型式證明番號）

（ロ）空中線設備

（ハ）航海船橋トノ連絡裝置

（ニ）受信裝置、增幅裝置（五）ニ準ジ記入スルコト

（八）救命艇內無線電信設備（一）乃至（五）ニ準ジ記入スルコト

（九）警急自働受信設備

（イ）型式證明番號

（ロ）受信裝置、增幅裝置（五）ニ準ジ記入スルコト）

（ハ）可聽警報設備

五　通信執務時間

六　通信室ニ於ケル特殊ノ設備

（一）航海船橋トノ連絡裝置

（二）時計

（三）非常燈

七　工事地及工事者

八　落成期限

九　船舶關係事項

（一）船舶番號（建造中ノモノニシテ登錄未濟ノトキハ其ノ旨記入スルコト）

（二）汽船帆船ノ別

（三）旅客船貨物船又ハ漁船等ノ別

（四）信號符字

（五）旅客定員數

（六）航行區域

（七）總噸數

（八）船體ノ大サ（長サ及幅）

（九）就航方面

（十）船籍港

（十一）定繫港（內地ニ於ケル主ナル碇泊港ヲ定繫港トスルコト）

（十二）所有者

十　添附圖面

（一）空中線、通信室、機械室、二次電池ノ位置ヲ示セル船體ノ平面圖及斷面圖

（二）電源設備接續圖

（三）送信（話）裝置接續圖

（四）受信（話）裝置接續圖

（五）送受信相互連絡關係圖

（六）空中線ノ形狀及大サヲ示セル圖面

（七）電線配置圖（電線ノ種類及大サヲ記入スルコト）

（八）無線方位測定設備ノ接續圖

（九）警急自働受信設備ノ接續圖

（十）救命艇內無線電信設備ノ接續圖

乙　陸上無線ノ例

私設無線電信（無線電話）施設願

年　月　日

何市何區何町何番地

何　某　㊞

逓信大臣　殿

何々ニ私設無線電信（無線電話）施設致度私設無線電信無線電話規則第五條ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一　施設ノ目的（何電信局トノ間ニ電報送受ノ爲施設者ノ專用ニ供ス　何々地ニ於テ當社ノ事業用ニ供ス　無線電信（警報電波）ノ研究及模造ニ關スル實驗ニ專用ス　何無線電信局ノ爲スル報時遠信ノ受信ニ專用ス）ルヲ

以テ目的トス）

二　施設ヲ必要トスル事由（必要トスル事由ヲ詳記スルコト）

三　機器裝置場所

（イ）（何市何區何町何番地何構內）

（ロ）發射空中線ノ正確ナル地理的位置（實驗用私設無線電信無線電話ヲ除ク）

（ハ）受信空中線ノ正確ナル地理的位置（無線羅針施設ニ限ル）

四　工事設計（主設備、補助設備每ニ記入スルコト）

（裝置場所二箇所以上ノ場合ニハ各別ニ記入スルコト特ニ例示セザルモノハ船舶無線ノ例ニ依リ記入スルコト）

（一）通信方式（無線標識施設ニ在リテハ發射方式（無指向式、指向式、回轉式、可變指向式等）無線標識及無線羅針施設ニ在リテハセクター（擬定セラレタルモノ）ヲ記入スルコト）

（二）晝間所要通達距離

（三）電源設備

（四）送信（話）裝置

（五）受信（話）裝置

（六）空中線及接地

（イ）電柱

種類及形式

高サ

柱數

（ロ）空中線（送信用及受信用ニ分チ種別（無指向性、枠型、短波指向性空中線其ノ他）、數量ヲ記入シ其ノ詳細ハ添附圖面（六）ニ於テ線種、形狀、寸法等ヲ記入スルコト）

（ハ）空中線饋電線（ロ）ニ準ズルコト）

（ニ）接地（ロ）ニ準ズルコト

（七）空中線擬似回路（之ヲ設備スルモノニ在リテハ其ノ種類及容量ヲ記入スルコト）

（八）發射電波ノ測定方法（受信裝置ノミノ場合ハ之ヲ要セズ）

五　通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ幾與實驗ヲ必要トスル時間ヲ記入スルコト豫メ使用期間確定スルモノニ在リテハ使用期間自何年何月何日至何年何月何日ト附記スルコト）

六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類、方法及實驗者ノ略歷

七　工事者

八　落成期限

九　添附圖面

（一）機器裝置場所及其ノ附近ノ圖面

（二）電源設備接續圖

（三）送信（話）裝置接續圖

（四）受信（話）裝置接續圖

（五）送受信相互連絡關係圖

（六）空中線及空中線饋電線ノ形狀及大サヲ示セル圖面

（七）電線配置圖（電線ノ種類及太サヲ記入スルコト）

附錄第二號樣式（第四十條參照、用紙美濃紙）

選任又ハ解任ノ別	同上月日	資格等級	氏名	執務スベキ無線電信又ハ無線電話ノ位置又ハ名稱	通信執務時間	聽守時間	公衆通信取扱所設置ノ有無	電信官署トノ間ニ歐文電報ヲ送受スル業務ノ有無及其ノ送受電報ノ種類	船舶ニ施設シタル無線電信ノ場合 船舶ノ出入スル各港名	船舶ノ旅客定員	船舶ノ總噸數

右及屆出候也

年　月　日

住所

氏　名　印

所轄遞信局長宛

附錄第三號樣式（第七十八條參照、紙質ノ大サ、縱約十九糎、橫約二十七糎）

檢査年月日	年　月　日	檢査吏員所屬官廳
檢査地		檢査吏員官氏名
指示又ハ通知事項		
指示ヲ受ケタル事項ニ對スル措置顛末		

無線電信無線電話檢査簿

備考

一　紙質ハ模造紙（四六判六十斤以上）ヲ使用スベシ

二　百枚ヲ以テ一綴トシ表紙ヲ附スベシ

附錄第四號樣式（第八十條參照、紙質ノ大サ、縱約十九糎、橫約二十七糎）

年　月分又ハ自　年　月　日至　年　月　日分）

無線電信（無線電話）通信日誌抄錄

（施設者）

（機器裝置場所）

◉官廳用無線電信無線電話規則

（大正九年十一月遞信省令第百十七號）

官廳用無線電信無線電話規則

第一條　明治三十三年勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ハ左ニ揭グルモノニ限リ陸上ニ施設スルモノニ在リテハ遞信大臣、船舶ニ施設スルモノニ在リテハ所轄遞信局長ノ承認ヲ受ケ之ヲ施設スルコトヲ得但シ第六號ノ二ニ依ルモノハ承認ヲ受ケスシテ之ヲ施設スルコトヲ得（大正一三、三第九號一五、五第一八號昭和三、一一第五十號改正）

一　航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

二　特定ノ事務ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事務ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

三　電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ特定ノ事務ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五　無線電信又ハ無線電話ノ學術研究又ハ機器ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六　無線電信又ハ無線電話ニ依ル報時通信又ハ氣象通信ノ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六ノ二　無線電話ニ依ル放送事項聽取ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

七　前各號ノ外遞信大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

第一條ノ二　前條但書ニ依リ無線電話ヲ施設シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ十日以内ニ所轄遞信局長ニ屆出ツヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ（昭和三、一一第五七號改正）

一　施設者名

二　機器裝置場所

三　機器ノ種類（混信防止式ナルトキハ混信防止式ノ簡略ヲ附記ノコト）

四　受信可能周波數

五　施設年月日

前項屆書ニハ聽取セムトスル放送無線電話ノ施設者ニ對スル聽取契約書ヲ添附スヘシ

第二條　遞信大臣ハ公衆通信上必要ト認ムルトキハ官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ヲ廢止セシメ又ハ其ノ設備ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三條　私設無線電信無線電話規則及放送用私設無線電話規則（第七條第十三條第十四條第一項但書及第一項第第十五條乃至第十七條ヲ除ク）ノ規定ハ官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス但シ私設無線電信無線電話規則第三十六條及第四十條ノ規定ハ第一條第五號又ハ第六號ニ依リ陸上ニ施設シタル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ、私設無線電信無線電話規則第七十九條及第八十條ノ規定ハ第一條第五號ニ依リ陸上ニ施設シタル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用セス（大正一四、三第一三號昭和三、一一第七號、一三第八號、一三第六二號改正）

附　則

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條　本令施行前官廳ニ於テ施設シ現ニ其ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ハ本令ニ依リ之ヲ施設シ其ノ使用ヲ開始シタルモノト看做ス

第六條　前條ニ依ル官廳用ノ無線電信又ハ無線電話ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ三十日内ニ私設無線電信規則第六條各號ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

◉無線方位測定規則

（昭和八年十二月遞信省令第六十一號）

無線方位測定規則

目　次

第一章　總　則
第二章　無線羅針業務
第三章　無線標識業務
附　則

無線方位測定規則

第一章　總則

○船舶局及海岸局ニ於テ船舶航行ノ安全上無線電信ニ依ル方位測定ニ關スル通信ヲ爲スノ必要アリト認メタル場合ハ昭

無線方位測定規則

和二年五月七日遞信省令第十四號無線方位測定通信規則及無線電報規則第七條ニ依リ無料ニテ之ヲ取扱相成度依命

（電務局長ヨリ逓信局、通信官署ヘ通牒昭和二、五九電業第七四八號）

○今般無線電報規則ノ無線方位測定規則及無線電報取扱規程等改正ヲ加ヘラレ候處右實施ニ付テハ船舶局及海岸局ニ於ケル方位測定ニ付テハ仍昭和二年五月九日電業第七四八號通牒ニ依ルコト（電務局ヨリ逓信局、通信官署ヘ通牒昭和八、一二、二九電業第三八二二號要領）

第一條 電波ノ發射ニ依リ行フ方位測定業務ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 方位測定業務ヲ分チテ左ノ二種トス

一 無線羅針業務　船舶無線電信ト無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル陸上無線電信（以下無線羅針局ト稱ス）トノ間ノ方位測定ニ關スル通信

二 無線標識業務　標識符號ヲ發射スル目的ヲ以テ施設シタル無線標識施設（以下無線標識ト稱ス）ノ業務及無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ト無線電信ノ裝置ヲ有スル無線標識局（以下無線標識局ト稱ス）又ハ船舶無線電信ト交信ノ目的ヲ以テ施設シタル陸上無線電信ニシテ無線羅針局若ハ無線標識局ニ非ザルモノ（以下陸上無線電信ト稱ス）トノ間ノ方位測定ニ關スル通信

第三條 方位測定業務ニ使用スベキ電波ノ型式及周波數ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外原則トシテ左ノ區別ニ依ルベシ

一 無線羅針業務

（イ）船舶無線電信ヨリ無線羅針局ニ對スル呼出及方位測定ノ請求　當該無線羅針局ノ聽守電波

（ロ）船舶無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル符號ノ送信其ノ他　A二又ハB電波三七五kc（三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノハ五〇〇ノ周波數ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得）

（ハ）無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリノ呼出又ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他方位測定ノ結果ノ傳送　當該無線羅針局ニ割當テタル電波

二 無線標識業務

（イ）無線標識ヨリ標識符號ノ發射　A一又ハA二電波二八五kc乃至三一五kcノ周波數帶ニ於テ當該無線標識ニ割當テタル周波數

（ロ）船舶無線電信ヨリ無線標識局又ハ陸上無線電信ニ對スル呼出及標識符號送信ノ請求　當該無線標識局又ハ陸上無線電信ノ聽守電波

（ハ）無線標識局又ハ陸上無線電信ニ於テ船舶無線電信ヨリ　無線標識局ニ在リテハA一又ハA電波二八五kc乃至三一五kcノ周波數帶ニ於テ當該無

ノ呼出又ハ標識符號送信ノ請求ニ對スル應答其ノ標識　線標識局ニ割當テタル周波數、陸上無線電信ニ在リテハ當該陸上無線電信ニ於テ通常符號ノ送信　通信ニ使用スル電波

第四條 無線羅針局ニ關スル左ノ事項ハ別ニ告示ス

一 名稱

二 呼出符號

三 位置　受信空中線及發射空中線（場合ニ依リ第四號ノ主務線羅針局ノ發射空中線）ノ地理的位置ヲ經緯度ヲ以テ表ハス

四 船舶無線電信ト交信ヲ爲サザル無線羅針局（以下副羅針局ト稱ス）ナルトキハ副無線羅針局ニ於ケル方位測定ニ關シ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス無線羅針局（以下主務羅針局ト稱ス）ノ名稱及呼出符號

五 聽守電波ノ型式及周波數

六 測定電波ノ型式及周波數　船舶無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル符號ノ送信ニ使用スベキ電波ノ型式及周波數以下同ジ

七 方位通知電波ノ型式及周波數　無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ニ對シ方位測定ノ結果ノ傳送ニ使用スベキ電波ノ型式及周波數以下同ジ

八 通常方位測定區域　通常方位ノ測定ヲ爲シ得ベキ海上ニ於ケル區域ヲ方位及距離ヲ以テ表ハス以下同ジ

九 其ノ他必要ナル事項

第五條 無線標識、無線標識局及無線標識業務ヲ取扱フ陸上無線電信ニ關スル左ノ事項ハ別ニ之ヲ告示ス

一 名稱

二 呼出符號

三 位置　發射空中線ノ地理的位置ヲ經緯度ヲ以テ表ハス

四 發射電波ノ型式及周波數

五 聽守電波ノ型式及周波數

六 標識符號

七 無線標識ニ於ケル標識符號ノ發射ニ關シ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス連絡無線電信アルトキハ其ノ名稱及呼出符號

八 通常方位測定區域

九 其ノ他必要ナル事項

第六條 無線羅針局及ハ無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ私設無線電信無線電話規則第六十條ニ依ル發信ヲ認メタルトキハ直ニ方位測定ヲ爲シタル上其ノ結果ヲ船長及救助上最便宜ノ位置ニ在ル他ノ無線電信ニ通知スベシ（船舶無線電信ニ在リテハ自己ノ位置ヲ送スベシ）

第七條 本令中船舶無線電信ニ關スル規定ハ航空機無線電信ニ付之ヲ準用ス但シ使用電波ノ型式及周波數ニ付テハ原則トシテ左ノ區別ニ依ルベシ

一 無線羅針業務

（イ）航空機無線電信ヨリ無線羅針局ニ對スル呼出及方位測定ノ請求　當該無線羅針局ノ聽守電波

(ロ)航空機無線電信ニ於テ方位測定ニ供スル符號ノ送信其ノ他	A一又ハA二電波三三三kc	
(ハ)無線羅針局ニ於テ航空機無線電信ヨリノ呼出及ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他方位測定ノ結果ノ傳送	當該無線羅針局ニ割當テタル電波	

二　無線標識業務

(イ)無線標識ヨリ標識符號ノ發射	A一又ハA二電波一九四kc乃至三六五kcノ周波數帶ニ於テ當該無線標識ニ割當テタル周波數	
(ロ)航空機無線電信ヨリ無線標識局又ハ陸上無線電信ニ對スル呼出及標識符號送信ノ請求	當該無線標識局又ハ陸上無線電信ノ聽守電波	
(ハ)無線標識局又ハ陸上無線電信ニ於テ航空機無線電信ヨリノ呼出又ハ方位測定ノ請求ニ對スル應答其ノ他標識符號ノ送信	無線標識局ニ在リテハA一又ハA二電波一九四kc乃至三六五kcノ周波數帶ニ於テ當該無線標識局ニ割當テタル周波數、陸上無線電信ニ在リテハ當該陸上無線電信ニ於テ通常通信ニ使用スル電波	QTE?

第八條　本令ニ規定ナキ事項ハ一般ノ無線電信通信方法ニ關スル規定ニ依ルベシ

第二章　無線羅針業務

第九條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ該無線羅針局ノ通常方位測定區域内ニ入リタルトキ之ヲ爲スベシ

第十條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ該無線羅針局ヲ呼出シ其ノ呼出ニ引續キ左ノ區別ニ從ヒ之ニ該當スル事項ヲ略符號ヲ以テ送信スベシ此ノ場合船舶無線電信ニ於テ該無線羅針局ノ測定電波ニ非ザル電波ヲ以テ方位測定ニ供スル符號ヲ送信セントスルトキハ該略符號ノ次ニ電波ノ使用型式及周波數ヲ送信スベシ

區別	事項	略符號
一　當該無線羅針局ニ對シ直接方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	當船ノ眞方位如何	QTE?
二　主無線羅針局及副無線羅針局ニ依ル方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	貴局ノ宰領スル無線羅針局ヨリノ當船ノ眞方位如何	
三　主無線羅針局又ハ副無線羅針局ノミニ依ル方位測定ノ請求ヲ爲ストキ	、、、(呼出符號)ヨリノ當船ノ眞方位如何	

四　主無線羅針局及副無線羅針局ニ依ル位置ノ測定ノ請求ヲ爲ストキ　貴局ノ宰領スル無線羅針局ノ爲シタル測定ニ基ク當船ノ位置ヲ示サレタシ　QTF?

第十一條　船舶無線電信ニ於テ主無線羅針局又ハ副無線羅針局ノミニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ主無線羅針局ヲ呼出シ之ニ前條ノ方法ニ依リ必要ノ事項ヲ送信スベシ此ノ場合ニ於テハ略符號「QTE?」ノ次ニ該無線羅針局ノ呼出符號ヲ添送スベシ

第十二條　船舶無線電信ニ於テ二以上ノ無線羅針局(主要無線羅針局ヲ同ジクスル域合ヲ除ク)ニ對シ方位測定ノ請求ヲ爲サントスル場合各無線羅針局ノ聽守電波同一ナルトキハ事情ノ許ス限リ各局ヲ一括呼出シタル上同時ニ方位測定ヲ爲サシムベシ

第十三條　主無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリ方位測定ノ請求ヲ受ケタルトキハ自局限リ測定ヲ爲スベキ場合ヲ除クノ外副無線羅針局ニ對シ方位測定ノ準備ヲ爲スベキ旨ヲ通知スベシ副無線羅針局ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ方位測定ノ準備ヲ完了シ其ノ旨ヲ主無線羅針局ニ通知スベシ

第十四條　無線羅針局ニ於テ船舶無線電信ヨリ方位測定ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ測定ノ準備ヲ完了シタルトキハ該船舶無線電信ニ對スル應答ニ際シ方位測定ニ供スル符號ヲ送信スベキ旨(可送符號ヲ)(ヲ送ス)ヲ通知スベシ

第十二條ニ依リ一括呼出ヲ受ケタル無線羅針局ハ其ノ呼出符號ノ「アルフアベツト」順ニ從ヒ前項ノ方法ニ依リ通知スベシ

第十五條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ニ對シ方位測定ニ供スル符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ所定ノ電波ニ依リ該無線羅針局ニ於ケル方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ自己ノ呼出符號ヲ其ノ長點ヲ稍長クシテ五十秒間反覆送信スベシ

第十六條　副無線羅針局ニ於テ方位測定ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ直ニ主無線羅針局ニ通知スベシ

第十七條　無線羅針局ニ於テ方位測定ノ結果ヲ船舶無線電信ニ通知セントスルトキハ當該無線羅針局(方位測定ヲ爲シタル無線羅針局)所在地ノ地方標準時ニ依リ「〇〇〇一(午前〇時一分)」ヨリ「二四〇〇(午後十二時)」ニ至ル四位ノ數字ヲ以テ表ハス方位測定時刻ヲ送信シ之ニ引續キ左ノ區別ニ從ヒ之ニ該當スル事項ノ略符號及「〇〇〇」ヨリ「三五九」ニ至ル三位ノ數字ヲ以テ表ハス當該無線羅針局(方位測定ヲ爲シタル無線羅針局)ヨリノ眞方位又ハ經緯度ヲ以テ表ハシタル地理的位置ヲ送信スベシ

區別	事項	略符號
一　無線羅針局ニ於テ其ノ方位測定ノ結果ヲ通知スルトキ	貴船ノ眞方位ハ當局ヨリ、、、度ナリ	
二　主無線羅針局ニ於テ自局又ハ副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ノミヲ通知スルトキ	、、、(呼出符號)ヨリノ貴船ノ眞方位ハ、、、度ナリ	QKE

三　主無線羅針局ニ於テ自局及副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ヲ取纒メ通知スルトキ

四　主無線羅針局ニ於テ自局及副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ニ基ク當該船舶ノ位置ヲ通知スルトキ

貴船ノ眞方位ハ、、、、（呼出符號）ヨリ、、、、度、、、、（呼出符號）ヨリ、、、度ナリ

當局ノ宰領スル無線羅針局ニ於テ自局ノ爲シタル測定ニ基ク貴船ノ位置ハ緯度、、、、、經度、、、、、ナリ

第十八條　主無線羅針局ニ於テ自局若ハ副無線羅針局ニ於ケル方位測定ノ結果ノミヲ又ハ之ヲ取纒メ船舶無線電信ニ通知セントスルトキハ前條ノ方法ニ依ルノ外眞方位ヲ表ハス數字ノ前ニ之ヲ測定シタル無線羅針局ノ呼出符號ヲ送信スベシ

第十九條　船舶無線電信ニ於テ無線羅針局ヨリ方位測定ノ結果ノ通知ヲ受ケタルトキハ照校ノ爲該無線羅針局ニ對シ方位測定時刻及方位又ハ位置ヲ表ハス數字ヲ受信シタル順序ニ依リ送信スベシ

第二十條　無線羅針局ニ於テ前條ノ送信ニ誤リナキコトヲ認メタルトキハ解信符號ー――ーヲ送信スベシ

第二十一條　主無線羅針局ト副無線羅針局トノ間ノ連絡ハ電信電話ノ連絡アル場合ハ之ニ依リ其ノ連絡ナキ場合ハ無線電信無線電話ニ依リ之ヲ爲スベシ

第三章　無線標識業務

第二十二條　無線方位測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ無線標識局ニ對シ標識符號ノ送信ヲ請求セントスルトキハ該無線標識局ノ通常方位測定區域ニ入リタルトキ之ヲ呼出シ其ノ呼出ニ引續キ左ノ事項ニ該當スル略符號ヲ送信スベシ

事項	略符號
標識符號ノ送信ヲ乞フ	QTG?

第二十三條　無線標識局ニ於テ船舶無線電信ヨリノ請求ニ依リ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ一分間標識符號ヲ成ルベク其ノ長點ヲ稍長クシテ送信スベシ

第二十四條　無線標識局又ハ無線標識ニ於テ濃霧等ニ際シ其ノ附近ニ在ル船舶無線電信ニ對シ繼續シテ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ一分間間隔ヲ以テ前條ノ送信ヲ反覆スベシ

第二十五條　無線方位ノ測定機ノ裝置ヲ有スル船舶無線電信ニ於テ陸上無線電信ニ對シ標識符號ノ送信ヲ請求セントスルトキハ第二十二條ノ方法ニ準ジ其ノ請求ヲ爲スベシ

第二十六條　前條ノ請求ヲ受ケタル陸上無線電信ニ於テ標識符號ノ送信ヲ爲サントスルトキハ第二十三條ノ方法ニ準ジ船舶無線電信ニ於ケル方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ之ヲ送信スベシ

第二十七條　船舶無線電信ニ於テ濃霧等ニ際シ衝突ヲ豫防スル目的ヲ以テ其ノ附近ニ在ル船舶無線電信ニ對シ自己ノ所在ヲ知ラシメントスルトキハ附近船舶無線電信ニ於ケル方位測定上必要ナル最少限度ノ電力ヲ以テ自己ノ呼出符號、位置、針路、速力其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ前後ニ「QTM」ノ略符號ヲ附シ且送信符號ノ長點ヲ稍長クシテ送信スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年五月遞信省令第十四號無線方位測定通信規則ハ之ヲ廢止ス

◉船舶職員法

（明治二十九年四月法律第六十八號）

（改正　明治三十八年三月第六九號　昭和四年四月第四六號　昭和八年三月第一二號）

第一條　日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條　海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長
甲種一等運轉士
甲種二等運轉士
乙種船長
乙種一等運轉士
乙種二等運轉士
丙種船長
丙種運轉士
機關長
一等機關士
二等機關士
三等機關士

船舶職員法

遞信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條　各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條　海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ體格檢査及學術試驗ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ遞信大臣ニ於テ學術試驗ニ合格スト認ムル者ニハ學術試驗ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

小形船舶ニ乘組ム船舶職員ノ有スヘキ海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ學術試驗ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコトヲ得

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得ス又前條ノ體格檢査及學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

三　瘋癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當ナル者

四　海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

五　海技免狀ノ行使停止中ノ者

六　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

遞信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ管海官廳ヲシテ體格檢査ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條　左ニ揭クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一　外國各港間ノミヲ航行スル船舶

二　漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三　特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條　此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ於テハ船舶借入人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員ト爲リタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法併合罪ノ例ヲ用ヰス

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本船舶ニ非サル船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ揭クルモノニ準用スルコトヲ得

第九條ノ三　朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ遞信大臣ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ第五條ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ト看做ス

第九條ノ四　地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附　則

第十條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞臣大臣之ヲ定ム

前項ニ揭ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條　此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條　遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運行ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條　遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

附　則　（明治三十八年三月法律第六十九號附則）

此ノ法律施行前海員名簿ニ登錄セラレタル者ハ海技免狀原簿ニ登錄セラレタル者ト看做ス

此ノ法律施行ノ際現在スル日本船舶ニハ命令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十八年十二月三十一日マテ從前ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

附　則　（昭和四年四月法律第四十六號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和五年二月勅令第二五號ヲ以テ昭和五年五月十日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行後引續キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間內ニ限リ仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得

本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

附　則　（昭和八年三月法律第十二號附則）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年二月勅令第十八號ヲ以テ昭和九年三月一日ヨリ施行）

第一號表

（其ノ一）　船長及運轉士定員表

航行區域	船舶種類	總噸數	船舶職員	免狀種類	定員
平水區域	汽船	五百噸未滿	長	乙種二等運轉士免狀	一
		千五百噸未滿	長	乙種一等運轉士免狀	一
		千五百噸以上	船長	乙種船長免狀	一
			一等運轉士	乙種一等運轉士免狀	一
沿海區域	汽船	二百噸未滿	長	乙種二等運轉士免狀	一
			船長	乙種一等運轉士免狀	一
		千噸未滿	一等運轉士	乙種二等運轉士免狀	一
		千噸以上	船長	乙種船長免狀	一
			一等運轉士	乙種一等運轉士免狀	一
	帆船	二十噸以上	船長	丙種運轉士免狀	一
近海區域	汽船	五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	乙種二等運轉士免狀	一
		千噸未滿	船長	乙種船長免狀	一
			一等運轉士	乙種一等運轉士免狀	一

航行區域	海區域													遠			
船舶	船									帆船			汽				
噸數	二千噸未滿			五千噸未滿			五千噸以上				二百噸未滿	二百噸以上		三千噸未滿ノ旅客船又ハ五千噸未滿ノ非旅客船			
船舶職員	船長	一等運轉士	二等運轉士	船長	一等運轉士	二等運轉士	船長	一等運轉士	二等運轉士	三等運轉士	船長	船長	一等運轉士	船長	一等運轉士	二等運轉士	船長
免狀種類	乙種船長免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	甲種船長免狀	乙種船長免狀	甲種二等運轉士免狀	甲種船長免狀	乙種船長免狀	甲種二等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	丙種運轉士免狀	丙種船長免狀	丙種運轉士免狀	甲種船長免狀	甲種一等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀	甲種船長免狀
定員	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

航行區域	洋區域									
船舶	船			帆船						
噸數	三千噸以上ノ旅客船又ハ五千噸以上ノ非旅客船			二百噸未滿		五百噸未滿		五百噸以上		
船舶職員	一等運轉士	二等運轉士	三等運轉士	船長	一等運轉士	船長	一等運轉士	船長	一等運轉士	二等運轉士
免狀種類	甲種一等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀	甲種一等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀	甲種船長免狀	甲種一等運轉士免狀	甲種船長免狀	甲種一等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀
定員	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備考 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數十石ヲ以テ總噸數一噸ニ換算ス
本表ノ定員ハ船長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

（其ノ二） 機關長及機關士定員表

航行區域	機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員
平	四百馬力未滿	機關長	三等機關士免狀	一
	七百馬力未滿	機關長	二等機關士免狀	一

航行區域	水區域				沿海區域								近				
機關公稱馬力	千二百馬力未滿		千二百馬力以上		三百馬力未滿	五百馬力未滿	七百馬力未滿		二千馬力未滿		二千馬方以上		二百五十馬力未滿	四百馬力未滿	六百馬力未滿		千二百馬力未滿
船舶職員	機關長	一等機關士	機關長	一等機關士	機關長	機關長	機關長	一等機關士	機關長	一等機關士	機關長	一等機關士	機關長	機關長	機關長	一等機關士	機關長
免狀種類	二等機關士免狀	三等機關士免狀	一等機關士免狀	二等機關士免狀	三等機關士免狀	二等機關士免狀	二等機關士免狀	三等機關士免狀	一等機關士免狀	二等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	三等機關士免狀	二等機關士免狀	二等機關士免狀	三等機關士免狀	一等機關士免狀
定員	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

航行區域	海區域										遠洋						
機關公稱馬力		二千馬力未滿		四千馬力未滿			四千馬力以上				二千馬力未滿		三千馬力未滿			五千馬力未滿ノ旅客船又ハ三千馬力	
船舶職員	一等機關士	機關長	一等機關士	機關長	一等機關士	二等機關士	機關長	一等機關士	二等機關士	三等機關士	機關長	一等機關士	機關長	一等機關士	二等機關士	機關長	一等機關士
免狀種類	二等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	二等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	一等機關士免狀	二等機關長免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀	二等機關士免狀	機關長免狀	一等機關士免狀
定員	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

区域	船舶種類	職員名簿	免狀種類	定員
以上ノ非旅客船	二等機關士	一等機關士免狀		一
	三等機關士	二等機關士免狀		一
五千馬力以上ノ旅客船	機關長	機關長免狀		一
	一等機關士	一等機關士免狀		一
	二等機關士	一等機關士免狀		一
	三等機關士	一等機關士免狀		一

備考　本表ノ定員ハ機關長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

（參照）
舊第一號表（昭和四年四月法律第四十六號施行前ノモノ）

航路	船舶種類	總噸數	職員名簿	免狀種類	定員
遠洋	汽船	五百噸未滿	機關長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			一等機關士	一等機關士甲種一等運轉士	一
			二等機關士	二等運轉士甲種二等運轉士	一
		五百噸以上	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			一等機關士	一等機關士甲種一等機關士	一
			二等機關士	二等運轉士甲種二等運轉士	一
			機關長	一等機關士甲種一等機關士	一

航路	船舶種類	總噸數	職員名簿	免狀種類	定員
近海航路	汽船	二百噸未滿	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			機關長	二等機關士乙種二等機關士	一
		千噸未滿	船長	一等運轉士乙種一等運轉士	一
			機關長	一等機關士乙種一等機關士	一
		千噸以上	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			機關長	二等運轉士甲種二等運轉士	一
			一等機關士	一等機關士甲種一等機關士	一
	帆船	二百噸未滿	船長	二等運轉士甲種二等運轉士	一
		五百噸未滿	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
		五百噸以上	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
沿海航路	汽船	百噸未滿	船長	一等運轉士乙種二等運轉士	一
			機關長	三等機關士乙種二等機關士	一
		二百噸未滿	船長	一等運轉士乙種一等運轉士	一
			機關長	二等機關士乙種一等機關士	一
		五百噸未滿	船長	一等運轉士乙種一等運轉士	一
			機關長	一等機關士乙種二等運轉士	一
		五百噸以上	船長	一等運轉士乙種一等運轉士	一
			機關長	一等機關士乙種一等機關士	一
			一等機關士	二等運轉士乙種二等機關士	一
	帆船	二百噸未滿	船長	二等運轉士丙種運轉士	一
		二百噸以上	船長	一等運轉士丙種運轉士	一
水平路航	汽船	二百噸未滿	船長	一等運轉士丙種運轉士	一
			機關長	三等機關士乙種二等運轉士	一
			一等機關士	二等運轉士乙種二等機關士	一
		五百噸以上	船長	一等運轉士丙種運轉士	一
			機關長	一等機關士乙種一等機關士	一
			一等機關士	二等運轉士乙種一等運轉士	一
			二等機關士	二等運轉士乙種二等機關士	一
			三等機關士	一等運轉士丙種運轉士	一
	帆船	二百噸未滿	船長	二等運轉士丙種運轉士	一
		五百噸以上	船長	一等運轉士丙種運轉士	一
路航	船	五百噸以上	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			一等機關士	二等運轉士甲種二等運轉士	一
			二等機關士	一等運轉士甲種一等機關士	一
		二百噸以上	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
			機關長	一等機關士甲種一等機關士	一
			一等機關士	二等運轉士甲種二等運轉士	一
		二百噸未滿	船長	一等運轉士甲種一等運轉士	一
		一石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニハ其ノ積石數十石ヲ以テ總噸數一噸ノ割合ニ換算シ本表ヲ適用ス			

◉船舶職員法ヲ外國船舶ニ準用ノ件

（大正元年十月勅令第三十一號）

船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正二年一月ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶職員法施行細則

（昭和五年二月十五日遞信省令第一號）（同年五月十日ヨリ施行）

改正

昭和六年十一月省令第五一號（同年十一月二十一日ヨリ施行）
昭和八年五月（同日ヨリ施行）
昭和九年十月省令第二四號（同年三月一日ヨリ施行）
昭和十年二月省令第二五號（同年九月二十日ヨリ施行）
昭和二年二月省令第二八號（同年三月一日ヨリ施行）
昭和二年七月省令第八號（同年五月一日ヨリ施行）
昭和四年十月省令第四六號（同年七月十五日ヨリ施行）
昭和六年六月省令第六五號（同日ヨリ施行）

（昭和十七年一月二日同日ヨリ施行）
（十日省令第八號）

第一章　海技免狀

第一條　船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀及其ノ行使範圍ハ第一號表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　船舶職員法第五條第二項ニ依リ遞信大臣ニ於テ學術試驗ニ合格スト認ムル者及其ノ者ニ授與スベキ海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

船舶職員法第五條第三項ニ依リ授與スル海技免狀ハ小型船丙種運轉士免狀、小型船乙種二等運轉士免狀及小型發動機三等機船關士免狀ニ限ル

第三條　船舶職員ノ有スベキ海技免狀ハ上級ノモノヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

各海技免狀ノ階級ノ上下ハ第二號表ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　船舶職員法第九條ノ三ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

第二章　船舶職員

第四條ノ二　本令ニ於テ近海區域トハ船舶安全法施行規則第二十八條ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ニ掲グル近海區域第一區又ハ同第二區ヲ謂ヒ二區以上ノ近海區域ヲ連續シタルモノ又ハ近海區域第三區ハ之ヲ遠洋區域トス

第五條　漁船ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ付テハ第三號表ニ依ル但シ機關ヲ有スル漁業帆船ノ機關部職員ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ルコトヲ得

母船式業漁ニ從事スル附屬漁船ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ付テハ最寄海務局長ノ認可ヲ受ケ第三號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條　機關ヲ有スル帆船ニ乘組マシムベキ機關部ノ職員ニ付テハ第四號表ニ依ルコトヲ得

第六條ノ二　船舶安全法施行規則第三十三條ノ規定ニ依リ航行區域カ指定セラレタル場合ト雖モ當該區域ヲ航行區域トスル船舶ノ職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ指定前ノ航行區域ニ付定メラレタル範圍内ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

第六條ノ三　船舶安全法施行規則第三十五條ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖船舶職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ガ航行ヲ認可セラレタル區域ニ付定メラレタル範圍内ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

第七條　前四條ニ掲グル船舶ヲ除キ船舶職員法第七條各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ最寄海務局長ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲グル船舶職員ヲ減ジ又ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムルコトヲ得

第八條　船舶所有者第五條第二項又ハ前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ海務局長ニ提出スベシ

一　船舶ノ種類、名稱、總噸數、速力及機關ノ種類、公稱馬力

二　特殊ノ構造ヲ有スル船舶ナルトキハ其ノ構造

三　特殊ノ目的ニ專用スル船舶ナルトキハ其ノ目的、期間及航程

四　航行スベキ區域

五　輕減セムトスル船舶職員ノ名稱

六　相當ノ技能ヲ有スル者ヲシテ船舶職員ノ職ヲ執フシメムトスルトキハ其ノ者ノ氏名及海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ種類、海技免狀ヲ有セザル者ナルトキハ其ノ者ノ海上履歷

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメザルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ付テハ船舶職員ヲ雇入レ難キ場合ニ限ル

一　外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ最終港迄回航スルトキ

二　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生ジ補充ノ手續中ナルトキ

三　內地又ハ臺灣ト外國トノ間ヲ航行スル船舶ガ外國ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生ジ內地又ハ臺灣ノ港迄歸航スルトキ

四　平水區域又ハ沿海區域ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ガ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀受有者ヲ乘組マシメタルトキ

五　航行中船舶職員ニ缺員ヲ生ジタルトキ

六　他船ニ曳カレテ航行スルトキ

七　入渠、修繕又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ船舶ノ航行ノ用ニ供セザルトキ

八　管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號乃至第三號又ハ第七號ノ場合ニ於テ船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメザルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ該當スルコトヲ又第七號ノ場合ニ於テハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セザル期間ヲ明カニシ內地又ハ臺灣ニ在リテハ管海官廳、外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ遲滯ナク其ノ旨屆出ヅベシ此ノ場合管海官廳又ハ領事官若ハ貿易事務官ハ必要アリト認ムルトキハ適當ト認ムル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

船舶安全法施行規則第三十七條ノ規定ニ依リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セズシテ船舶ヲ回航スルニ當リ第四條ノ二ニ定ムル遠洋區域ヲ航行スルトキハ近海區域ニ相當スル船舶職員、近海區域ヲ航行スルトキハ沿海區域ニ相當スル船舶職員、沿海區域ヲ航行スルトキハ平水區域ニ相當スル船舶職員ヲ各乘組マシムルコトヲ得

第一項第五號規定ニ該當スル船舶ガ最初ニ到著シタル港ニ於テ缺員トナリタル船舶職員ヲ雇入レ能ハザルトキハ其ノ船舶所有者又ハ船長ハ雇入レ能ハザル事由ヲ明カニシ之ヲ最寄管海官廳ニ屆出デ次ニ入港スル港迄之ヲ補充セズシテ航行スルコトヲ得此ノ場合管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ適當ト認ムル者ノ乘組ヲ命ズルコトヲ得

前各項ノ規定ハ日本船舶ガ朝鮮、樺太、關東州若ハ南洋群島ノ各港間又ハ此等ノ港ト內地、臺灣若ハ外國ノ港トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ船長及機關長以外

ノ船舶職員ノ乗組ヲ省略スルコトヲ得

一　内地又ハ臺灣ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶

二　平水ノ航行區域ヲ有シ始發港ヨリ最終港迄ノ航程三十海里未滿ノ航海ニ從事スル船舶

第十條ノ二　第四條ノ二ニ定ムル遠洋ノ航行區域ヲ有スル總噸數二百噸未滿ノ帆船ノ船長ハ丙種船長免狀、一等運轉士ハ丙種運轉士免狀ノ受有者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條ノ三　第二種甲又ハ第三種甲ノ從業制限ヲ有スル漁船ニシテ「ベーリング」海及第二種乙若ハ第三種乙ニ付規定スル區域内又ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十度、南ハ南緯十三度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域内ニ於テ從業スルモノハ第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ニ付定メラレタル船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得此ノ場合内地又ハ臺灣ニ在リテハ管海官廳外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ就キ其ノ旨當該船舶檢査證書ニ記載ヲ受クベシ

前項ノ場合總噸數三十噸未滿又ハ公稱馬力五十馬力未滿ノ船舶ニ在リテハ小形船乙種二等運轉士免狀、小形船丙種運轉士免狀又ハ小形發動機船三等機關士免狀ヨリ上級ノ免狀受有者ヲ乗組マシムルコトヲ要ス但シ第五條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　機關ノ公稱馬力

第十一條　船舶所有者ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ船舶ノ機關ノ公稱馬力ヲ算定スベシ但シ算式ニ依リ得タル數ガ百未滿ナルトキハ小數點以下ヲ、百以上千未滿ナルトキハ一位以下ヲ千以上ナルトキハ十位以下ヲ切捨ツベシ

一　往復汽機

$$W=\sqrt[3]{P}\times\left(\frac{N\times C^2\times\sqrt[3]{S}}{A}+\frac{H}{B}\right)$$

W ハ公稱馬力

P ハ汽壓制限（毎平方糎瓩）（毎平方吋封度）ニテ

N ハ低壓汽筩ノ數

D ハ低壓汽筩ノ徑（糎）（吋）ニテ

S ハ行長（糎）（吋）ニテ

H ハ汽罐ノ總受熱面積　平方米（平方呎）ニテ

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	七〇二〇〇（二〇）	一・三二七（三二）
强壓通風ナルトキ	七〇二〇〇（二〇）	一・〇三五（二九）

二　「タービン」汽機

$$W=\frac{H}{A\times\left(1+\frac{B}{P}\right)}$$

W、H、P ハ前號ニ同ジ

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	〇・三三〇（二四）	一・九七（二八）
强壓通風ナルトキ	〇・二〇四四（二・二）	一・九七（二八）

三　「ヂーゼル」式發動機

$$W=\frac{N\times D^2\times(\sqrt[3]{D}+A)}{B}$$

W ハ公稱馬力

N ハ汽筩ノ數

D ハ汽筩ノ徑

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	六（二・〇四一）	二九〇〇〇（一五・二九）
二「サイクル」單働發動機	六（二・〇四一）	一六一〇〇（八・四九）
四「サイクル」複働發動機	六（二・〇四一）	一四九〇〇（七・八六）
二「サイクル」複働發動機	六（二・〇四一）	八三〇〇（四・三八）
二「サイクル」両合吸鍔發動機	六（二・〇四一）	九三〇〇（四・九〇）

豫燃室ヲ有スル「ヂーゼル」式發動機ニ在リテハ算式ニ依リ得タルモノニ百分ノ八十ヲ乗ズベシ

四　「ヂーゼル」式ニ非ザル發動機

$$W=\frac{N\times D^2\times(\sqrt[3]{D}-A)}{B}$$

W、N、D ハ前號ニ同ジ

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウベシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	一（〇・三四）	三〇〇〇〇（一五・八三）
二「サイクル」單働發動機	一（〇・三四）	一六七〇〇（八・八〇）

往復汽機及「タービン」汽機ノ併用ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ發動機ノ原動機關ニ付之ヲ算定スベシ

電動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ發電機ノ原動機關ニ付之ヲ算定スベシ

第十二條　前條ニ該當セザル機關ヲ備フル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ船舶所有者ノ申請ニ依リ管海官廳之ヲ算定ス

第十三條　船長ハ船舶ノ機關ノ公稱馬力ノ算定書ヲ船内ニ備置キ當該官吏ノ要求アルトキハ之ヲ檢閲ニ供スベシ

當該官吏必要ト認ムルトキハ前項ノ算定書ノ訂正ヲ命ズルコトヲ得

第四章　登錄

第十四條　海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケムトスル者ハ當該船舶職員

試驗ヲ行ヒタル管海官廳（試驗ヲ行ヒタル官廳ニ以上ニ亘ルトキハ最後ノ官廳）ヲ經由シ第一號書式ノ申請書ヲ遞信省ニ提出スベシ

船舶職員試驗ニ合格シタル日ヨリ六十日以後ニ於テ前項ノ申請ヲ爲ス者ハ船舶職員法第六條第一項第一號、第二號及第六號ニ該當セザルコトノ證明書（申請ノ日ヨリ六十日以内ノ作成ニ係ルモノナルコト）ヲ申請書ニ添附スベシ

第十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登錄シ第二號書式ノ海技免狀ヲ授與ス

一 海技免狀ノ種類

二 氏名

三 本籍（外國ナルトキハ國籍）

四 出生ノ年月日

五 船舶職員試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六 合格ノ年月日

第十六條 前條ノ登錄ハ海員懲戒法ニ依リ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ニ付テハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決アル迄又海技免狀ノ行使ヲ停止セラレタル者ニ付テハ其ノ執行處分ヲ終ル迄之ヲ停止シ海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者ニ付テハ其ノ申請ヲ却下ス

第十七條 第十五條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ當該免狀受有者ハ其ノ事實アリアル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登錄ノ變更（及必要アルトキハ海技免狀ノ書換）ヲ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ登錄事項ノ變更ニ關スル戸籍ノ謄本又ハ抄本、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添附スベシ

第十八條 遞信省ハ前條ノ申請ニ依リ登錄ノ變更ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交付ス

第十九條 行政區劃ノ變更ニ因リ海技免狀受有者ノ本籍ニ變更ヲ生ジタルトキハ遞信省ニ於テ登錄ヲ訂正シ必要ノ場合ニハ無料ニテ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ本人ニ交付ス

海技免狀受有者前項ノ變更アリタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信省ニ屆出ヅベシ

第二十條 海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第一號、第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ二週間以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ提出シ登錄ノ抹消ヲ申請スベシ

船舶職員法第六條第二項ニ依リ體格檢査ノ結果同條第一項第三號ニ該當スト決定セラレタル者ニ付亦同ジ

海技免狀受有者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スベシ

登錄ノ抹消ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添附シ之ヲ遞信省ニ返還スベシ若シ之ヲ返還スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ屆出ヅベシ

第二十一條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ登錄ノ抹消ヲ爲ス

一 前條ノ申請ヲ受ケタルトキ

二 登錄ノ抹消ヲ申請スベキ場合ニ於テ所定ノ期間ニ之ヲ爲サザルトキ

三 不正ノ行爲ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ當該船舶職員試驗ガ無效ナルトキ

四 海員懲戒法第四十五條第三項ニ依リ海技免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登錄ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀受有者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スベシ

第二十二條 海技免狀受有者上級免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ下級免狀ニ對スル登錄ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス

前項ノ場合ニ於テ上級免狀ハ下級免狀ト引換ニ之ヲ交附ス

第二十三條 海技免狀受有者登錄又ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登錄ノ訂正又ハ海技免狀ノ書換ヲ申請スベシ

登錄ノ錯誤又ハ遺漏ガ第十五條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戸籍ノ謄本又ハ抄本外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添附スルヲ要ス

遞信省ハ第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交付ス

第二十四條 遞信省ハ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ訂正ヲ爲シ當該免狀受有者ニ之ヲ通知ス

前項ノ錯誤又ハ遺漏ガ免狀受有者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因ル場合ニ於テハ遞信省ハ必要ニ應ジ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ當該免狀受有者ニ交付ス

第二十五條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ遲滯ナク第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ再交付ヲ申請スベシ

遞信省ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請者ニ交付ス

第二十六條 第十八條、第十九條、第二十三條若ハ第二十四條ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケ又ハ前條ニ依リ海技免狀毀損ノ爲其ノ再交付ヲ受クル場合ニ於テハ之ト引換ニ舊免狀ヲ返還スベシ

第五章 手數料

第二十七條 左ノ各號ノ申請ヲ爲ス者ハ一件ニ付手數料一圓ヲ納付スベシ

一 第十七條又ハ第二十三條ニ依ル海技免狀ノ書換（記載事項ノ錯誤又ハ遺漏ガ免狀受有者ノ責ニ歸スベキ事由ニ因ル場合ニ限ル）

二 第二十五條ニ依ル海技免狀ノ再交付

前項第一號及第二號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第二十八條 手數料ノ納付ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書ニ添附シ之ヲ爲スベシ登錄稅ノ納付ニ付亦同ジ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スベキモノトス

第六章　雜則

第二十九條　海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキハ當該判決又ハ宣告確定後遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スベシ

一　判決又ハ宣告確定ノ年月日

二　判決又ハ宣告ヲ爲シタル裁判所ノ名稱

三　判決ニ付テハ刑ノ種類、期間及刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル場合ニ在リテハ其ノ猶豫期間

前項ノ海技免狀ハ當該事實ノ存スル間遞信省之ヲ領置ス

海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ該當スル事實止ミタル旨ヲ明カニシ申請ヲ爲ストキハ前項ノ海技免狀ハ之ヲ還付ス

第三十條　第十七條第一項、第十九條第二項、第二十條、第二十一條第三項、第二十三條第一項、第二十五條第一項又ハ前條第一項若ハ第三項ニ依リ申請書、屆書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スルニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條　海技免狀受有者ハ管海官廳又ハ當該吏員ノ要求アルトキハ海技免狀ヲ檢閲ニ供スベシ

第三十二條　海技免狀原簿ニ登錄ヲ爲シ又ハ之ヲ抹消シタルトキハ其ノ旨官報ニ公告ス

海技免狀滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第三十三條　本令ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶賃貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶賃借人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

第七章　罰則

第三十四條　第九條第二項及第四項、第十條ノ三第一項、第十三條第一項、第十七條第一項、第二十條、第二十三條第一項、第二十五條第一項、第二十九條第一項及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スベキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條　本令ハ昭和四年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條　明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則及明治十七年　農商務省達第十三號汽船公稱馬力算定方法ハ之ヲ廢止ス

第三十七條　本令施行前明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則ニ依リ爲シタル申請、屆出又ハ認可ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十八條　外國ノ湖川港內ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ領事官又ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ當分ノ內船舶職員ニ代ヘ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三十九條　昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依リ船舶職員トシテ就職スル者ハ遲滯ナク第五號書式ノ申請書二通ニ就職ノ期日及現ニ就職中ナル事實ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ引續就職者タル證明ヲ受クベシ

第四十條　前條ノ就職者下船シタルトキハ遲滯ナク下船ノ日ヲ明カニシ最寄管海官廳ニ其ノ旨屆出ヅベシ

第四十一條　昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依リ船舶職員トシテ就職中ノ者一時下船シ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以內ニ同一船舶ノ同一ノ職ニ復スルトキハ之ヲ引續就職者ト看做ス

前項ニ依リ復職スル者ハ其ノ都度第五號書式ノ申請書二通ニ引續就職者タル證明書及下船ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ復職ノ證明ヲ受クベシ

第四十二條　明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則第八條ノ規定ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十三條　明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則第八條ニ依ル效力ヲ一定區域ノ湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル乙種一等運轉士免狀、效力ヲ漁業帆船又ハ帆船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀、效力ヲ漁業帆船又ハ帆船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀及效力ヲ帆船ニ限リタル甲種船長免狀ハ第一條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得

附則（昭和九年二月省令第二五號附則）

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶安全法第三十五條ノ規定ニ依リ船舶檢査ニ關シ舊法ニ依ル船舶ニ付テハ同法第三十六條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クルニ至ル迄之ニ乘組マシムベキ船舶職員ニ關シテモ仍從前ノ例ニ依ル

昭和五年三月遞信省令第一號船舶職員法施行細則第一條ニ依ル湖川港三等機關士免狀及近海二等機關士免狀ハ第一條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得

近海二等機關士免狀ハ近海汽船二等機關士免狀ノ上級免狀トス

第一號表

效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀表

效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀	行使範圍
小形丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ帆船、第一種、第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ漁業帆船
漁船甲種船長免狀	漁船
汽船甲種船長免狀	汽船
湖川港汽船三等機關士免狀	湖川港內ノミヲ航行スル汽船（發動機船ヲ包含セズ）
沿岸丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數七十噸未滿ノ帆船
湖川港乙種二等運轉士免狀	一定區域ノ湖川港內ノミヲ航行スル汽船
小形船乙種二等運轉士免狀	沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ旅客定員ヲ有セザル汽船又ハ機關ヲ有スル帆船、第一種、第二種乙又ハ第三種

	乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未滿ノ漁業汽船又ハ機關ヲ有スル漁業帆船
沿岸乙種二等運轉士免狀	沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數四十噸未滿ノ汽船又ハ總噸數七十噸未滿ノ機關ヲ有スル帆船漁業汽船又ハ機關ヲ有スル漁業帆船
漁船乙種一等運轉士免狀	漁業汽船
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁業汽船
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船
汽船甲種二等運轉士免狀	汽船
漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁業汽船
漁船甲種一等運轉士免狀	漁船
汽船甲種一等運轉士免狀	汽船
漁汽船甲種船長免狀	漁業汽船
小形發動機船三等機關士免狀	公稱馬力五十馬力未滿ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力三十馬力未滿ノ發動機船
沿岸發動機船三等機關士免狀	公稱馬力百五十馬力未滿ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ平水ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力二百馬力未滿若ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力百馬力未滿ノ發動機船
發動機船三等機關士免狀	發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル發動機船
汽船三等機關士免狀	汽機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船（發動機船ヲ包含セズ）
近海發動機船二等機關士免狀	發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル發動機船
近海汽船二等機關士免狀	汽機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船（發動機船ヲ包含セズ）
發動機船二等機關士免狀	發動機船
發動機船一等機關士免狀	發動機船
發動機船機關長免狀	發動機船

備考　本表ニ掲グル效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀ノ行使範圍ハ效力ニ制限ヲ加ヘザル同種ノ免狀ノ行使範圍ヲ超ユルコトナシ

第二號表　海技免狀階級表

上級	下級
甲種船長免狀	甲種一等運轉士免狀
甲種一等運轉士免狀	甲種二等運轉士免狀　丙種二等運轉士免狀　甲種船長免狀
甲種二等運轉士免狀	丙種運轉士免狀
乙種船長免狀	乙種一等運轉士免狀

乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀
丙種船長免狀	丙種運轉士免狀
汽船甲種船長免狀	汽船甲種一等運轉士免狀
汽船甲種一等運轉士免狀	汽船甲種二等運轉士免狀　乙種一等運轉士免狀
汽船甲種二等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀
漁船甲種船長免狀	漁船甲種一等運轉士免狀
漁船甲種一等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀
漁船甲種二等運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀
漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀
漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀
漁船乙種一等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀
沿岸乙種二等運轉士免狀	小形船乙種二等運轉士免狀
沿岸丙種運轉士免狀	小形船丙種運轉士免狀
機關長免狀	一等機關士免狀
一等機關士免狀	二等機關士免狀
二等機關士免狀	三等機關士免狀
近海汽船二等機關士免狀	汽船三等機關士免狀
汽船三等機關士免狀	湖川港汽船三等機關士免狀
發動機船機關長免狀	發動機船一等機關士免狀
發動機船一等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀
發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀
近海發動機船二等機關士免狀	發動機船三等機關士免狀
發動機船三等機關士免狀	沿岸發動機船三等機關士免狀
沿岸發動機船三等機關士免狀	小形發動機船三等機關士免狀

同種免狀ニシテ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノハ效力ニ制限ヲ加ヘザルモノニ對シ又同種免狀ニシテ汽船又ハ漁船ニ限リ效力ヲ有スルモノハ漁汽船ニ限リ效力ヲ有スルモノニ對シ各上級トス

第三號表

（其ノ一）漁船船長及運轉士定員表

從業船舶制限		船舶職員	海技免狀	定員
第	總噸數			
汽	三十噸未滿	長	小形船乙種二等運轉士免狀	一
	二百噸未滿	長	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
	五百噸未滿	長	漁船乙種一等運轉士免狀	一

從業制限	船種	噸數	船舶職員	海技免狀	定員
第一種	汽船	五百噸以上	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
	帆船	三十噸未滿	船長	小形船丙種運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	沿岸丙種運轉士免狀	一
		二百噸以上	船長	丙種運轉士免狀	一
第二種乙又ハ	汽船	三十噸未滿	船長	小形船乙種二等運轉士免狀	一
		百噸未滿	船長	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		千噸未滿	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種二等運轉士免狀	一
		二千噸未滿	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
			二等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		五千噸未滿	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一

從業制限	船種	噸數	船舶職員	海技免狀	定員
第三種乙	汽船		二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
		五千噸以上	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一
			二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			三等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
	帆船	三十噸未滿	船長	小形船丙種運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	沿岸丙種運轉士免狀	一
		二百噸以上	船長	丙種船長免狀	一
			一等運轉士	沿岸丙種運轉士免狀	一
第二種甲	汽船	三百噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		千噸未滿	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
		五千噸未滿	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一

從業制限	船種	噸數	船舶職員	海技免狀	定員
又ハ第三種甲	汽船		二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
		五千噸以上	船長	漁汽船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			二等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			三等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
	帆船	三百噸未滿	船長	漁船甲種二等運轉士免狀但シ機關ヲ有スル帆船ニ限リ漁船乙種一等運轉士免狀ヲ充ツルコトヲ得	一
			一等運轉士	丙種運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁船甲種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁船甲種二等運轉士免狀	一
		五百噸以上	船長	漁船甲種船長免狀	一
			一等運轉士	漁船甲種一等運轉士免狀	一
			二等運轉士	漁船甲種二等運轉士免狀	一

備考　帆船ノ各欄中機關ヲ有スルモノニ限リ海技免狀ノ欄ニ規定スル小形船丙種運轉士免狀ハ小形船乙種二等運轉士免狀ヲ、沿岸丙種運轉士免狀ハ沿岸乙種二等運轉士免狀ヲ、丙種運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀又ハ漁船乙種一等運轉士免狀ヲ、丙種船長免狀ハ乙種船長免狀（從業制限第二種乙及第三種乙中二百噸以上五百噸未滿ノモノニ限リ乙種一等運轉士免狀）ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

（其ノ二）漁船機關長及機關士定員表

從業制限	公稱馬力	船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
第一種	五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一
	百五十馬力未滿	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀	一
	三百五十馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀	一
			汽機	汽船三等機關士免狀	一
	千五百馬力未滿	機關長	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	近海汽船二等機關士免狀	一
	二千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
			汽機	一等機關士免狀	一
		一等機關士	發動機	發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	二等機關士免狀	一
	二千馬力以上	機關長	發動機	發動機船機關長免狀	一
			汽機	機關長免狀	一
		一等機關士	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
			汽機	一等機關士免狀	一
	五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一

第二種	百五十馬力未滿	機關長	發動機
			沿岸發動機船三等機關士免狀
第二種	三百馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船三等機關士免狀
			汽船三等機關士免狀
第二種	六百馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			近海發動機船二等機關士免狀
			近海汽船二等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千五百馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	六百馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			近海發動機船二等機關士免狀
			近海汽船二等機關士免狀
第二種	三百馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船三等機關士免狀
			汽船三等機關士免狀
第二種	百五十馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			沿岸發動機船三等機關士免狀
			一

第二種	二千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	二千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千五百馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			近海發動機船二等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	六百馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船三等機關士免狀
			汽船三等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第二種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀

第三種	六百馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船三等機關士免狀
			汽船三等機關士免狀
第三種	二千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	二千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			機關長免狀
第三種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			近海發動機船二等機關士免狀
第三種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	三千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	三千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			機關長免狀
第三種	三千馬力未滿	二等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀

第三種	六百馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船三等機關士免狀
			汽船三等機關士免狀
第三種	二千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	二千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			近海發動機船二等機關士免狀
第三種	千馬力未滿	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	三千馬力以上	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	三千馬力以上	機關長	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			機關長免狀
第三種	三千馬力以上	二等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀

第三種	四千馬力未滿	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	二等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	三等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	一等機關士	發動機
			汽機
			發動機船一等機關士免狀
			一等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	二等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	三等機關士	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			二等機關士免狀
第三種	四千馬力以上	機關長	發動機
			汽機
			發動機船二等機關士免狀
			機關長免狀

備考

一、第二種乙又ハ第三種乙ト稱スルハ第二種又ハ第三種中東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域内ニ於テ從業スルモノヲ謂フ

二、第二種甲又ハ第三種甲ト稱スルハ第二種又ハ第三種中前號ニ規定スルモノヲ謂フ

第四號表（其ノ一）機關ヲ有ス帆船ノ船長及運轉士定員表

航行區域	總噸數	船舶職員		
沿	三十噸未滿	船長	小形船乙種二等運轉士免狀	海技免狀
				定員
				一

海區		船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
海區域	七十噸未滿	船長	沿岸乙種二等運轉士免狀		一
	七十噸以上	船長	乙種二等運轉士免狀		一
近海區域	五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士免狀		一
	五百噸以上	船長	乙種船長免狀		一
		一等運轉士	乙種一等運轉士免狀		一

（其ノ二）機關ヲ有スル帆船ノ機關部職員定員表

公稱馬力	船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一
百五十馬力未滿	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀	一
三百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀	一
		汽機	汽船三等機關士免狀	一
六百馬力未滿	機關長	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
		汽機	近海汽船二等機關士免狀	一
六百馬力以上	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
		汽機	一等機關士免狀	一

第五號表　海技免狀新舊對照表

舊海技免狀	新海技免狀
效力ヲ沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リタル丙種運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀
效力ヲ一定區域ノ湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀	湖川港乙種二等運轉士免狀
效力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未滿ノ汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀 效力ヲ漁船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀
效力ヲ漁船ニ限リタル乙種一等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀
效力ヲ漁業汽船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
效力ヲ漁船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀
效力ヲ汽船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀	汽船甲種二等運轉士免狀
效力ヲ漁業汽船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀
效力ヲ漁船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀	漁船甲種一等運轉士免狀
效力ヲ汽船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀	汽船甲種一等運轉士免狀
效力ヲ汽船ニ限リタル甲種船長免狀	汽船甲種船長免狀
效力ヲ湖川港內ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル三等機關士免狀	湖川港三等機關免狀

效力ヲ發動機船ニ限リタル三等機關士免狀	發動機船三等機關士免狀
效力ヲ發動機船ニ限リタル二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀
效力ヲ發動機船ニ限リタル一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀
效力ヲ發動機船ニ限リタル機關長免狀	發動機船機關長免狀

（第一號書式）

海技免狀原簿登錄申請書

一　登錄ヲ申請セムトスル海技免狀ノ種類

二　氏　名（振假名ヲ附スベシ）

三　本　籍

四　出生年月日

五　船舶職員試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六　合格年月日

七　現ニ受有スル海技免狀ノ種類及番號

八　海員懲戒法ニ依ル審判繫屬ノ有無

右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十四條ニ依リ及申請候也

年　月　日

申請者　氏　　名　印

現住所

遞信大臣宛

船舶職員法施行細則

第二號書式

花紋

第　號

道府縣（外國人ニ在リテハ國籍）

氏　　名

年月日生

年月日登錄

紋章

（免狀種類）免狀

明治二十九年法律第六十八號船舶職員法ニ依リ之ヲ授與ス

年　月　日

遞信大臣（爵）氏　　名印

備考

一　甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長、一等機關士及二等機關士（效力ヲ近海區域ニ限リタルモノヲ除ク）ノ免狀ハ其ノ裏面ニ英譯文ヲ附ス

一　前項ニ揭グル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其ノ他ノ免狀ハ紋章ハ桐章トス

（第三號書式）

海技免狀原簿登錄變更
海技免狀原簿登錄訂正
海技免狀書換　申請書

一　海技免狀ノ番號
二　海技免狀ノ種類
三　登錄ノ年月日
四　氏名　新（正）　舊（誤）　（振假名ヲ附スベシ）
五　本籍　新（正）　舊（誤）
六　出生ノ年月日　正　誤

右ノ通登錄變更訂正相成度戸籍謄本（抄本）及登錄稅手數料相添及申請候也
登錄免狀書換

年　月　日

申請者　氏　名　印
現住所

遞信大臣宛

備考　本書式中不用ノ事項ハ申請者ニ於テ抹消スベシ

（第四號書式）

海技免狀再交付申請書

一　海技免狀ノ番號
二　海技免狀ノ種類
三　登錄ノ年月日
四　氏名（振假名ヲ附スベシ）
五　本籍
六　出生ノ年月日（流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス）

右　年　月　日

ニ付再交付相成度手數料相添及申請候也

年　月　日

申請者　氏　名　印
現住所

遞信大臣宛

（第五號書式）

引續就職者證明申請書

一　船舶職員ノ名稱
二　海技免狀ノ種類及番號
三　氏名
四　就職年月日（　　）
五　船舶ノ番號、種類及名稱
六　總噸數又ハ機關ノ種類（汽機若ハ發動機ノ別）及公稱馬力
七　航行區域
八　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

右者昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依ル引續就職者ナルコトヲ證明相成度及申請候也

年　月　日

申請者　氏　名　印
現住所

（管海官廳宛）

（參照）船舶職員法施行細則別表（昭和九年二月省令第一號）拔萃

第三號表

（其ノ一）漁船（總噸數千噸未滿）船長及運轉士定員表

航路	船種	總噸數	船舶職員	海技免狀	定員
沿海航路	汽船	三十噸未滿	船長	小形船乙種二等運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		千噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
	帆船	三十噸未滿	船長	小形船丙種運轉士免狀	一
		三十噸以上	船長	沿岸丙種運轉士免狀	一
近海航	汽船	三十噸未滿	船長	小形船乙種二等運轉士免狀	一
		百噸未滿	船長	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁船乙種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	沿岸乙種二等運轉士免狀	一
		千噸未滿	一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
			船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	一
		三十噸未滿	船長	小形船丙種運轉士免狀	一

（其ノ二）漁船（公稱馬力千五百馬力未滿）機關部職員定員表

航路	公稱馬力	船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
沿海航	五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一
	百五十馬力未滿	機關長	發動機	沿海發動機船三等機關士免狀	一
	三百五十馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀	一
			汽機	三等機關士免狀	一
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	船長	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁船乙種一等運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁汽船甲種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁汽船甲種二等運轉士免狀	一
	帆船	二百噸未滿	船長	漁船甲種二等運轉士免狀	一
			一等運轉士	丙種運轉士免狀	一
		五百噸未滿	船長	漁船甲種一等運轉士免狀	一
			一等運轉士	漁船甲種二等運轉士免狀	一
		二百噸以上	船長	丙種船長免狀	一
			一等運轉士	沿岸丙種運轉士免狀	一
		二百噸未滿	船長	漁船甲種二等運轉士免狀	一

航路	馬力	職員名稱	機關種類	免狀種類	定員
近海航路	千五百馬力未滿	機關長	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	近海二等機關士免狀	一
	五十馬力未滿	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	一
	百十馬力未滿	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀	一
	三百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船三等機關士免狀	一
			汽機	三等機關士免狀	一
	六百馬力未滿	機關長	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	近海二等機關士免狀	一
	千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
			汽機	一等機關士免狀	一
	千五百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
			汽機	一等機關士免狀	一
		一等機關士	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	近海二等機關士免狀	一
遠洋航路	六百馬力未滿	機關長	發動機	發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	二等機關士免狀	一
		一等機關士	發動機	發動機船三等機關士免狀	一

第二號表

總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
二百噸未滿	機關長	三等機關士	一
千噸未滿	機關長	二等機關士	一
千噸以上	機關長	一等機關士	一

第三號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
		千噸未滿	船長	乙種船長	甲種一等機關士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ
			機關長	一等機關士	二等機關士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ
			一等機關士	二等機關士	三等機關士
		千噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種船長
			二等運轉士	甲種二等運轉士	乙種船長但シ總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士
	帆船	五百噸未滿	船長	丙種船長	甲種一等運轉士
		五百噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	丙種船長
			二等運轉士	甲種二等運轉士	丙種船長

航路	馬力	職員名稱	機關種類	免狀種類	定員
遠洋航路			汽機	三等機關士免狀	一
	千馬力未滿	機關長	發動機	發動機船一等機關士免狀	一
			汽機	一等機關士免狀	一
		一等機關士	發動機	近海發動機船二等機關士免狀	一
			汽機	近海二等機關士免狀	一

舊船舶職員法施行細則別表（大正十三年九月省令第三九號ヲ以テ改正ノ分）

第一號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	
			機關長	二等機關士	
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	
			一等運轉士	甲種二等運轉士	
			機關長	一等機關士	
			一等機關士	二等機關士	
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	一
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	
			一等運轉士	甲種二等運轉士	
近海航路	汽船	百噸未滿	船長	乙種二等運轉士	
			機關長	三等機關士	
		二百噸未滿	船長	乙種一等運轉士	
			機關長	三等機關士	
		五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士	
			一等運轉士	乙種二等運轉士	
			機關士	二等機關士	

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	
沿海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
		五百噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士
		五百噸以上	船長	乙種船長	甲種一等運轉士
	帆船	二百噸以上	船長	丙種船長	甲種一等運轉士

舊船舶職員法施行細則別表（大正九年一月省令第二號ヲ以テ改正ノ分）

第一號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士	一
			機關長	二等機關士	一
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士又ハ乙種船長	一
			一等運轉士	乙種一等運轉士	一
			機關長	二等機關士	一
			一等機關士	三等機關士	一
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士又ハ丙種船長	一
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	一
			一等運轉士	丙種運轉士	一
			船長	乙種二等運轉士	一

第二號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海航路	汽船	百噸未滿	機關長	三等機關士	一
		二百噸未滿	船長	乙種一等運轉士	一
			機關長	三等機關士	一
		五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士	一
			機關長	二等機關士	一
遠洋航路	汽船	五百噸未滿	一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種船長
			一等機關士	二等機關士	三等機關士
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士又ハ丙種船長
			一等運轉士	甲種二等運轉士	丙種運轉士
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士又ハ丙種船長
			一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士
		五百噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士又ハ丙種船長
			二等運轉士	甲種二等運轉士	丙種運轉士
		二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海航路	汽船	千噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士
			船長	乙種船長	甲種一等運轉士
			機關長	二等機關士	三等機關士
		千噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種一等運轉士
			船長	甲種船長	又ハ甲種一等運轉士又ハ乙種船長
			一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士
			二等運轉士	甲種二等運轉士	乙種一等運轉士但總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種二等運轉士
			機關長	機關長	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ
			一等機關士	一等機關士	二等機關士
沿海航路	帆船	五百噸未滿	船長	丙種船長	甲種二等運轉士
		五百噸以上	船長	甲種船長	甲種一等運轉士
			一等運轉士	甲種一等運轉士	甲種二等運轉士又ハ丙種船長
			二等運轉士	甲種二等運轉士	丙種運轉士
		二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
	汽船	五百噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士

◉船舶職員法取扱心得

昭和五年五月三日公達第四三九號

（同年五月十日ヨリ施行）

改正

（昭和六年十一月二十一日公達第九〇〇號 同日ヨリ施行）

（昭和九年二月九日公達第七八號 同年三月一日ヨリ施行）

（昭和十一年九月十九日公達第七四三號 同年九月二十五日ヨリ施行）

（昭和十二年七月三日公達第五〇七號 同年七月十五日ヨリ施行）

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
海航路	船	五百噸以上	船長	乙種船長	甲種一等運轉士
			機關長	一等機關士	二等機關士
			一等機關士	二等機關士	三等機關士
	帆船	二百噸以上	船長	丙種船長	甲種二等運轉士
			機關長	二等機關士	三等機關士
平水航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ三等機關士

第一條 船舶職員法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第七條ニ依リ海務局長ニ於テ船舶職員ヲ減ジ又ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムルコトヲ得ル船舶トハ海難救助船、曳船其他旅客若ハ貨物ノ運送以外ノ用途ニ專用スルモノ又ハ浚渫船、水上滑走船其ノ他船體若ハ機關ノ構造ガ普通ノ船舶ニ比シ著シク異ナルモノヲ謂フ

第二條 細則第八條ニ依ル申請ヲ認可セムトスルトキハ外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ關シテハ意見ヲ具シ申請書ヲ海務院ニ送付ノ上指揮ヲ受クベシ其ノ他ノ船舶ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルベク但シ之ニ依リ難キ場合ニ於テハ前段處置ヲ爲スベシ

一 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ船舶職員法（以下單ニ法律ト稱ス）第一號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ一段下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツル程度

二 平水ノ行航區域ヲ有スル發動機船ニシテ同一人ニ依リ操舵及機關運轉ヲ爲シ得ル構造ヲ有スルモノニ在リテハ機關長ノ乘組ヲ省略スル程度

三 近海又ハ沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ法律第一號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ一段下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充テ且運轉士及機關士各一名ヲ減ズル程度

四 細則第四條ノ二ニ定ムル遠洋ノ航行區域ヲ有スル海難救助船ニ在リテハ近海區域ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシムル程度

五 公稱馬力千馬力以上ノ曳船ノ機關部職員ニ付テハ第一號及第三號前段ノ規定ヲ適用セザルコト

六 從業制限第三種甲ニ該當スル母船式鯨漁業ニ從事スル附屬漁船ニシテ公稱馬力千馬力以上四百馬力未滿ノモノニ乘組マシムベキ機關部職員ニ付テハ細則第三號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ一段下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ之ニ充ツル程度

七 認可期間ハ前號ニ揭グル場合ヲ除キ一年以內ニ於テ適宜之ヲ定ムルコト

海務局長前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ第一號書式ノ認可書ヲ交付シ其ノ船舶ノ種類、名稱、總噸數、機關ノ種類、公稱馬力、航行區域（現實ニ就航スル區域）、所有者竝認可シタル事項、期間及事由ヲ七日以内ニ海務院ニ報告スベシ

第二條ノ二 細則第六條ノ二及第六條ノ三ニ該當スル場合ニ於テ航行ヲ認可セラレタル區域ガ遠洋區域ナルトキハ當該船舶ニ乘組マシムベキ海技免狀受有者ニ付海務院ノ指揮ヲ受クベシ

第三條 細則第九條第二項ニ依ル屆出アリタル場合同條第一項第一號乃至第三號ニ該當スルモノナルトキハ海技免狀受有者ヲ雇入レ難キ事由ノ有無ヲ調査スベシ此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ該免狀ニ相當スル外國政府ノ免狀ヲ受有スル者其ノ他相當ノ海上履歷ヲ有スル者ヲ乘組マシムベシ又同項第七號ニ該當スルモノナルトキハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セザル事實及期間ヲ調査シ若シ船舶所在ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ適當ナル看守人ヲ乘組マシムベシ

第四條 細則第十四條第一項ニ依ル登錄申請書ノ提出アリタルトキハ試驗合格者原簿等ニ照シ申請書ノ記載事項ヲ調査シ登錄稅納付書ニ貼附シタル印紙ヲ消印シ登錄申請書ニ「照合濟」及「登錄稅何圓納付濟」ノ印ヲ捺シ當該吏員之ニ認印シ該申請書ニ登錄稅納付書、當該試驗ノ際提出シタル受驗申請書又ハ體格檢査申請書、戸籍謄本及身分證明書ヲ添附シ一括書類ヲ海務院ニ送付スベシ但シ右申請書ガ船舶職員試驗ニ合格シタル日ヨリ六十日以後ノ提出ニ係ルトキハ細則第十四條第二項ニ依ル身分證明書ヲ添附スベシ

第五條 登錄ノ變更抹消訂正又ハ海技免狀ノ再交付若ハ書換ノ申請アリタルトキハ提出書類ヲ審査シ（登錄稅又ハ手數料ヲ徵收スベキ場合ニ於テハ其ノ納付書ニ貼附シタル印紙ヲ消印シ）一括書類ヲ海務院ニ送付スベシ

第六條 登錄ニ關スル申請書又ハ屆書ハ疑義ヲ生ゼザル樣字劃ヲ明瞭ニ記載セシメ行政區劃ノ變更又ハ地番號ノ改訂ニ依リ登錄ノ訂正ヲ要スル場合ニ在リテハ之ニ關スル戸籍吏ノ書面ヲ添附セシムベシ

第七條 戸籍及身分書記載事項中本籍ハ外國人ニ付テハ國籍ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

第八條 細則第三十條ノ規定ニ依リ海技免狀ノ返還ヲ受ケタルトキハ一箇月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ之ヲ海務院ニ送付スベシ但シ細則第二十條第三項ノ場合ハ海技免狀又ハ屆書ヲ登錄抹消申請書ト共ニ其ノ都度海務院ニ送付スベシ

第九條 細則第三十八條ニ依リ認可ヲ與フベキ場合ニ於テ相當ノ技能ヲ有スル者トハ年齡滿二十年以上ニシテ左ノ履歷ヲ有シ且ツ最近一年以内ニ於テ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事シタルモノヲ謂フ

船長　二年以上汽船ニ乘組ミ其ノ運航ニ從事シタルコト

機關長　二年以上汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

前項ノ認可ヲ與フル場合ニ於テハ認可書ニ執職ニ不適當ナリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトアルベキ旨ニ奥書スベシ

第一項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨海務院ニ報告スベシ

第一項ニ定ムル認可ノ標準ヲ加重又ハ輕減スベキ必要アル場合ハ意見ヲ具シ申請書ヲ海務院ニ送付ノ上指揮ヲ受クベシ

附　則

第十條 本公達ハ昭和四年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 細則第三十九條又ハ第四十一條第二項ニ依ル書類ヲ提出シ證明ヲ申請スル者アリタル場合添附ノ證憑ニ依リ屆書ノ記載事項正確ニシテ規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ申請書ノ一通ニ「船舶職員法施行細則第三十九條ニ依ル就職者（又ハ船舶職員法施行細則第四十一條ニ依ル復職者）ナルコトヲ證明ス」ト奥書シ官廳印押捺ノ上之ヲ添附證憑ト共ニ申請者ニ還附シ一通ハ證明年月日ヲ附記シ之ヲ保管シ置クベシ

第十二條 前條ノ證明ヲ爲シ又ハ細則第四十條ニ依ル下船ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滯ナク第二號書式ニ依リ海務院ニ報告スベシ

第一號書式

第　號

船舶ノ種類及名稱		航行ノ目的	
總噸數		航　行	

機關ノ種類		
公稱馬力		
船舶ノ構造	區域	
所有者	乘組マシムベキ船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類	
認可期間		

船舶職員法施行細則（第五條第二項第七條ニ依リ）右ノ通船舶職員ノ輕減ヲ認可ス

（本書ハ記事事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ無效トス）

年　月　日　　海務局長名

備考　航行區域トハ當該船舶ノ現實ニ就航スル區域ヲ謂フ

第二號書式

年　月　日　　管海官廳名

引續就職（又ハ引續就職者下船若ハ復職）報告

氏名	海技免狀番號	船舶種類	航行區域	總噸數又ハ公稱馬力	職名	就職若ハ下船月日	就職又ハ復職證明月日
	番號	船名					

◉公稱馬力算定方法

船舶職員法は、昭和四年法律第四十六號を以て改正せられ、機關を有する船舶に乘組ましむべき機關部員に付ては、其の機關の公稱馬力に依りて定められることとなり、其の公稱馬力は、船舶所有者に於て船舶職員法施行細則第十一條に規定する算式に依りて之を算定すべきものであるから、之が算定上に付解釋の必要ありと認むべき諸點を説明し以て算定者の參考に供したいと思ふ。

一、機關の公稱馬力は將來交付せらるべき船舶檢査證書の公稱馬力欄に記入せらるるものであるが、之が記入の時期は船舶檢査證書の書換を行ふ機會即ち定期檢査等を受くる場合であつて、其の際檢査官吏に依り、船主の算定したる公稱馬力を、更に試算したる上、之を船舶檢査證書面に記載せらるるのである。故に機關の公稱馬力の記載を受くるのみの目的にて、態々船舶檢査證書の書換を申請するには及ばないものである。

二、機關の公稱馬力を算定したるときは其の算定書を必ず船内に備へ置くべきであるが、其の算定書に付ては、別段一定したる形式なく、單に計算の基礎としたる細目を明に列擧し、本船機關の公稱馬力は斯くの如くに算定したりと臨檢吏員に示し得る程度のものを以て足るのである。

三、機關の公稱馬力算定上必要と爲す細目は、汽機に對しては汽壓制限、低壓汽筩の數徑及行長、汽罐の受熱面積通風の種類等、又發動機に對しては、氣筩の徑及其の數であつて、孰れも船舶に於て、機關士の容易に測定し得るものであるが、其の解釋に付きては次に述ぶる通りである。

(い) 汽壓制限

船舶檢査證書に記載するものを云ふ。

(ろ) 低壓汽筩の數

汽機一臺にして低壓汽筩二箇を有するとき、其の數を二箇と算するは元より明瞭であるが、今左右兩舷機を備へ、各機一箇の低壓汽筩を有する場合に於ては、亦二箇と算すべきである。尚算式上より容易に知り得べきことではあるが汽機二臺に對し、各一臺宛の馬力を算出し之を加ふるものではない。

(は) 汽筩の徑

製造當時の原徑を云ふ。原徑不明なるときは、實測したる徑を行ひ、又徑を變更する爲内筒を新換したるものに對しては、之を更に原徑とすべきは云ふまでもない。

(に) 行　長

曲拐の長さ（曲拐軸及曲拐栓の兩中心間の距離）の二倍を云ふ。一般に、馬力の計算に行長を關係せしむるとき、之が單位を米又は呎を以てするものであるが、算式にては之と異り、粍又は吋としたるを以て、算定するに當り此の點に注意すべきである。

(ほ) 總受熱面積

推進機關用蒸氣を發し得べき汽罐の總受熱面積を云ふ。故に例へば主汽罐五箇を有する船舶に於て、航海又は其の他の都合上、交互に三罐のみを使用するとしても、勿論五罐の受熱面積を以て算すべきは云ふ迄もなく、又常に補助汽罐に使用する小型汽罐と雖、主汽壓制を限有し、且汽管の配置が主汽罐に連絡するものは勿論之を算入するものである。

受熱面積の單位は、平方米（平方呎）であるから、粍（吋）にて測りたるものは、之を米（呎）に換算して計算を爲すべきは當然である。受熱面積の實測及計算に關しては、次の定めに依りたいと思ふ。

一　筩形汽罐

筩形汽罐の總受熱面積とは焔管、後管板、燃燒室板及火爐の各受熱面積の總和を云ふ。

(イ) 焔管の受熱面積は左式に依る。

$$A_t = N \times l_t \times d_t \times \pi$$

A_t　は焔管の受熱面積

d_t　は焔管の外徑

l_t　は焔管の長（前後兩管板間の長さを云ふ）

N　は焔管の數

π　は圓周率（三・一四一六）

(ロ) 後管板の受熱面積は左式に依る。

$$A_b = a - N \times a_1$$

A_b　は後管板の受熱面積

a　は後管板の全面積

a_1　は焔管取附孔の面積 $\left(d_t^2 \times \frac{\pi}{4}\right)$

d_t　及Nは前に同じ

(ハ) 燃燒室板の受熱面積は

火床を有する場合には火床線以上の各板の面積の和を云ふ。

火床を有せざる場合には各板の面積の和を云ふ。

(ニ) 火爐の受熱面積は左式に依る。

$$A_f = N \times l_f \times C$$

A_f　は火爐の受熱面積

N　は火爐の數

l　は火爐の長

但し皺形火爐にては一箇の皺を長さに向け皺に沿ひて測り、其の長さに皺の數を乘じたるものとす。又は、次の皺形火爐に付ては左式に依るも差支はない。

$$l_f \times l_f' + A \times n$$

l_f'　は兩管板間の距離

n　は皺の數

A は左表に依る

火爐の種類	A
デイトン式	$1\frac{1}{4}$ 吋
モリソン サスペンション式	$\frac{3}{4}$ 吋
リーズ、フォージ バルベ式	$1\frac{3}{4}$ 吋
フヲクス式	1 吋

C は左表に依る

$C=d_f\times\frac{\pi}{2}$	火床線が火爐の中心線の位置にあるもの。
$C=d_f\times\frac{\pi}{2}+2y$	火床線が火爐の中心線の位置より、もだけ下にあるものは簡單の方法とてし之に依りて差支ない。
$C=d_f\times\pi$	火床を有さざるもの。

d_f は火爐の徑にして、鐵形火爐（バーブス式を除く）にては、グースネック部以外に於ける、最大外徑と最小内徑との平均徑を云ふ。

其の他の火爐にては、最小外徑を云ふ。

航路の都合上、往航に石炭を、復航に燃油を焚くが如きものは、火床を有するものと看做す。

二、水管式汽罐

水管式汽罐の總受熱面積とは、總水管の受熱面積を云ふ。

即ち

$$A_t=N\times l\times d\times\pi$$

A_t は總受熱面積

d は水管の外徑

l は水管の長（但し管が曲形なるものは長さに向ひ曲りに沿ひて測るものとす）

N は水管の數

左表は管の長さ一呎に對し、平方呎に於ける受熱面積を集めたるものなれば、表より管徑に對する受熱面積を求め長さ及び數を乘ずれば、總受熱面積を知ることが出來る。

管の外徑（吋）	長さ1呎に於ける受熱面積（平方呎）	管の外徑（吋）	長さ1呎に於ける受熱面積（平方呎）	管の外徑（吋）	長さ1呎に於ける受熱面積（平方呎）
1	0.2318	$2\frac{1}{8}$	0.5563	$3\frac{5}{8}$	0.8835
$1\frac{1}{8}$	0.2945	$2\frac{1}{4}$	0.5890	$3\frac{1}{2}$	0.9163
$1\frac{1}{4}$	0.3272	$2\frac{3}{8}$	0.6217	$3\frac{5}{8}$	0.9490
$1\frac{3}{8}$	0.3600	$2\frac{1}{2}$	0.6545	$3\frac{3}{4}$	0.9817
$1\frac{1}{2}$	0.3926	$2\frac{5}{8}$	0.6872	$3\frac{7}{8}$	1.0044
$1\frac{5}{8}$	0.4252	$2\frac{3}{4}$	0.7200	4	1.0472
$1\frac{3}{4}$	0.4580	$2\frac{7}{8}$	0.7540	$4\frac{1}{4}$	1.1126
$1\frac{13}{16}$	0.4745	3	0.7853	$4\frac{1}{2}$	1.1781
$1\frac{7}{3}$	0.4909	$3\frac{1}{8}$	0.8181	$4\frac{3}{4}$	1.2362
$1\frac{29}{16}$	0.5072	$3\frac{1}{4}$	0.8507	5	1.3680
2	0.5286				

以上は實測の方法を示したるものであるが、多くの船舶中には個業務の都合上休罐し得ざるものもあらう、此等に對して受熱面積の實測は、多少なりとも不便を感ずることであるから、若し船舶又は製造工場等に之が記錄の保存するものあらば、其の數字に信頼して算定するを便なりとすべし。又何處にも其の記錄を存せざるときは、船長保管の檢査手帖を管海官廳に持參し、係員より手帖に記載せる其の數字を聞くことも亦一方法なりと思ふ。

四、算定上數の平方及立方根は、小數以下三位迄とす。又算式より得たる數が、100未滿のものは小數點以下を、100以上1000未滿のものは一位以下を、1000以上は十位以下を、各切捨て以て機關の公稱馬力と爲す。99.25例へばと算出したるときは99と爲し、165ならば160と爲し、1326は1300と爲すが如し。

五、第一號表及第二號表は計算を簡便ならしむる一助として添附したるものであるが、第一號表は、徑、行長及汽壓制限に對し、普通有りがちの數を摘出して其の平方と、立方根とを列擧したるものである。又第二號表は、發動機の氣筩一箇に對する徑と公稱馬力とを對照したるものであるから、船舶の有する氣筩數を之に乘ずるときは、其の船舶の機關の公稱馬力を知り得べきである。

六、次に各算式に例を當て嵌め計算の方法を明示す。

一、往復汽機

公稱馬力算定方法

$$W=\sqrt[3]{p}\times\left(\frac{N\times D^2}{A}=\sqrt[3]{S}+\frac{H}{B}\right)$$

W は公稱馬力

p は汽壓制限　毎平方糎瓩（毎平方吋封度）にて

N は低壓汽筩の數

D は低壓汽筩の徑　糎（吋）にて

S は行長　糎（吋）にて

H は汽罐の總受熱面積　平方米（平方呎）にて

A、B は定數にして左表に依る、但し英式單位なるときは括弧内の數を用うべし

汽罐通風種類	A	B
自然通風なるとき	20500（40）	1・三三（三）
强壓通風なるとき	20500（40）	1・〇三（三）

例、二聯成汽機一箇あり、汽壓制限115封度、低壓汽筩の數一箇其の徑$21\frac{1}{8}$吋、行長13吋、汽罐の總受熱面積440平方呎、自然通風なるとき機關の公稱馬力を求む。

$$W=\sqrt[3]{115}\times\left(\frac{1\times(21\frac{1}{8})^2}{90}\times\sqrt[3]{13}+\frac{440}{32}\right)$$

第一號表より　$\sqrt[3]{115}=4.862$

$(21\frac{1}{8})^2=446.265$

$\sqrt[3]{13}=2.351$

$$\therefore\ W=4.862\times\left(\frac{1\times446.265\times2.351}{90}+13.75\right)$$

$=4.862\times25.407$

$=123.528$　一位以下を切捨て

$=120$

例、三聯成汽機二個を備ふる汽船あり、汽機の低壓汽筩は各一個にして其の徑56吋、行長48吋、汽壓制限200封度、汽罐の總受熱面積9168平方呎、强壓通風なるとき機關の公稱馬力を求む。

$$W=\sqrt[3]{200}\times\left(\frac{2\times(56)^2\times\sqrt[3]{46}}{90}+\frac{9108}{27}\right)$$

第一號表より　$\sqrt[3]{200}=5.848$

$\sqrt[3]{48}=3.634$

$(56)^2=3136$

$$\therefore\ W=5.848\times\left(\frac{2\times3136\times3.634}{90}+\frac{9108}{27}\right)$$

$=5.848\times(253.249+337.333)$

$=5.848\times590.582$

$=3453$　十位以下を切捨て

$=3400$

二、「タービン」汽機

$$W=\frac{H}{\left(A\times\left(1+\frac{B}{P}\right)\right)}$$

W、H、P　は前號に同じ

A、B　は定數にして左表に依る、但し英式單位なるときは括弧内の數を用ふべし。

汽罐の通風種類	A	B
自然通風なるとき	0.0004(0.0004)	1.5(1.5)
强壓通風なるとき	0.0003(0.0003)	1.5(1.5)

例、「タービン」汽機二個を備ふる船舶あり、汽壓制限200封度、汽罐の總受熱面積9508平方呎、强壓通風なるとき機關の公稱馬力を求む。

$$W=\frac{9508}{2.2\times\left(1+\frac{28}{200}\right)}$$

$=3791$　十位以下を切捨て

$=3700$

例、二個の三聯成汽機及一個の低壓タービン汽機を連結する汽機あり、汽壓制限200封度、總受熱面積16861平方呎、强壓通風なるとき機關の公稱馬力を求む。

タービン汽機の算式に依る規定なるを以て

$$W=\frac{16861}{2.2\times\left(1+\frac{28}{200}\right)}$$

$=6722$　十位以下を切捨て

$=6700$

例、三相交流の電動機二個を有する電氣推進船あり、發電機の原動機關は「スタルタービン」汽機なり、汽壓制限230封度、汽罐の總受熱面積6478平方呎、强壓通風なるとき機關の公稱馬力を求む。

推進機關として電動機を備ふる船舶の公稱馬力は發電機の原動機關の算式に依る規定なれば、

$$W=\frac{6478}{2.2\times\left(1+\frac{28}{230}\right)}$$

$=2624$　十位以下を切捨て

$=2600$

三、「チーゼル」式發動機

$$W=\frac{N\times D^2\times\left(\sqrt[3]{D}+A\right)}{B}$$

W　は公稱馬力

N　は氣筩の數

D　は氣筩の徑　粍(吋)にて

A、B　は定數にして左表に依る、但し英式單位なるときは括弧内の數を用ふべし

發動機の種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	2.5(0.0004)	14000(1.5)
二「サイクル」單働發動機	2.5(0.0004)	12100(1.5)
四「サイクル」複働發動機	2.5(0.0004)	16200(1.5)
二「サイクル」複働發動機	2.5(0.0004)	18000(1.5)
二「サイクル」向合吸釣發動機	2.5(0.0004)	21000(1.5)

豫燃室を有する「チーゼル」發動機に在りては算式に依り得たるものに百分の八十を乘ずべし。

例、「スルザー」製二「サイクル」單働四筩「チーゼル」式發動機二個あり、氣筩の徑310粍、豫燃室を有するとき機關の公稱馬力を求む。

$$W=\frac{2\times4(310)^2\times\left(\sqrt[3]{310}+6\right)}{16100}$$

第一號表より　$(310)^2=96100$

$\sqrt[3]{310}=6.767$

$$\therefore\ W=\frac{8\times96100\times(6.766+6)}{16100}$$

$=609.6$

豫燃室を有する故

$W=609.6\times0.8=487.68$　一位以下を切捨て

$W=480$

又第二號表より徑310粍のときは76.2馬力なるを知り

$76.2 \times 4 \times 2 = 609.6$

$609.6 \times 0.8 = 487.68$　一位以下を切捨て

$W = 489$

例、二「サイクル」同合吸鈎式六筒「チーゼル」式發動機より、氣筒の徑22吋なるとき機圖の会稀馬力を求む。

$$W = \frac{6 \times (22)^2 \times (\sqrt[3]{22} + 2.041)}{4.9}$$

第一號表より　$(22)^2 = 484$

$\sqrt[3]{22} = 2.802$

$$W = \frac{6 \times 484 \times (2.802 + 2.8041)}{4.9}$$

$= 2870$　十位以下を切捨て

$= 2800$

四、「チーゼル」式に非ざる發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{D} - A)}{B}$$

W、N、D、は前號に同じ

A、B　は定數にして左表に依る、但し英式單位なるときは括弧内に數を用うべし。

發動機の種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	1(0・言)	三0000(三五・べ二)
二「サイクル」單働發動機	1(0・言)	1六三00(べ・べ0)

例、二「サイクル」單働一筒石油發動機より、氣筒の徑14½吋なるとき機圖の会稀馬力を求む。

$$W = \frac{(14.5)^2 \times (\sqrt[3]{14.5} - 0.34)}{8.8}$$

第一號表より　$(14.5)^2 = 210.25$

$\sqrt[3]{14.5} = 2.438$

$$\therefore\ W = \frac{210.25 \times 2.098}{8.8} = 50.12$$　小數點以下を切捨て

$W = 50$

又第二號表より求むれば

徑$14\frac{1}{2}$吋のときは50.12馬力なれば

$W = 50.12$　小數點以下を切捨て

$= 50$

第一號表

數	平方	立方根	數	平方	立方根	數	平方	立方根	數	平方	立方根	數	平方	立方根	數	平方	立方根
6	36.000	1.817	17¼	297.562	2.583	48	2304.000	3.634	111	12321.000	4.805	201	40401.000	5.857	415	172225.000	7.459
6⅛	37.515	1.829	17⅜	301.890	2.589	48½	2352.250	3.646	112	12544.000	4.820	202	40804.000	5.867	420	176400.000	7.488
6¼	39.062	1.843	17½	306.250	2.596	49	2401.000	3.659	113	12769.000	4.834	203	41209.000	5.877	425	180625.000	7.518
6⅜	40.640	1.854	17⅝	310.640	2.602	49½	2450.250	3.671	114	12996.000	4.848	204	41616.000	5.886	430	184900.000	7.547
6½	42.250	1.866	17¾	315.062	2.608	50	2500.000	3.684	115	13225.000	4.862	205	42025.000	5.896	435	189225.000	7.576
6⅝	43.890	1.878	17⅞	319.515	2.614	50½	2550.250	3.696	116	13456.000	4.876	206	42436.000	5.905	440	193600.000	7.605
6¾	45.562	1.889	18	324.000	2.620	51	2601.000	3.708	117	13689.000	4.890	207	42849.000	5.915	445	198025.000	7.634
6⅞	47.265	1.901	18⅛	328.515	2.626	51½	2652.250	3.721	118	13924.000	4.904	208	43264.000	5.924	450	202500.000	7.663
7	49.000	1.912	18¼	333.062	2.632	52	2704.000	3.732	119	14161.000	4.918	209	43681.000	5.934	455	207025.000	7.691
7⅛	50.765	1.924	18⅜	337.640	2.638	52½	2756.250	3.744	120	14400.000	4.932	210	44100.000	5.943	460	211600.000	7.719
7¼	52.562	1.935	18½	342.250	2.644	53	2809.000	3.756	121	14641.000	4.946	211	44521.000	5.953	465	216225.000	7.747
7⅜	54.390	1.946	18⅝	346.890	2.650	53½	2862.250	3.768	122	14884.000	4.959	212	44944.000	5.962	470	220900.000	7.774
7½	56.252	1.957	18¾	351.562	2.656	54	2916.000	3.779	123	15129.000	4.973	213	45369.000	5.972	475	225625.000	7.802
7⅝	58.140	1.968	18⅞	356.265	2.662	54½	2970.250	3.791	124	15376.000	4.986	214	45796.000	5.981	480	230400.000	7.829
7¾	60.062	1.978	19	361.000	2.668	55	3025.000	3.802	125	15625.000	5.000	215	46225.000	5.990	485	235225.000	7.856
7⅞	62.015	1.989	19⅛	365.765	2.674	55½	3080.250	3.814	126	15876.000	5.013	216	46656.000	6.000	490	240100.000	7.883
8	64.000	2.000	19¼	370.562	2.680	56	3136.000	3.825	127	16129.000	5.026	217	47089.000	6.009	495	245025.000	7.910
8⅛	66.015	2.010	19⅜	375.390	2.685	56½	3192.250	3.837	128	16384.000	5.039	218	47524.000	6.018	500	250000.000	7.937
8¼	68.062	2.020	19½	380.250	2.691	57	3249.000	3.848	129	16641.000	5.052	219	47961.000	6.027	505	255025.000	7.963
8⅜	70.140	2.030	19⅝	385.140	2.697	57½	3306.250	3.859	130	16900.000	5.065	220	48400.000	6.036	510	260100.000	7.989
8½	72.250	2.040	19¾	390.062	2.703	58	3364.000	3.870	131	17161.000	5.078	221	48841.000	6.045	515	265225.000	8.015
8⅝	74.390	2.050	19⅞	395.015	2.709	58½	3422.250	3.881	132	17424.000	5.091	222	49284.000	6.055	520	270400.000	8.041
8¾	76.562	2.060	20	400.000	2.714	59	3481.000	3.892	133	17689.000	5.104	223	49729.000	6.064	525	275625.000	8.067
8⅞	78.765	2.070	20⅛	405.015	2.720	59½	3540.250	3.903	134	17956.000	5.117	224	50176.000	6.073	530	280900.000	8.092
9	81.000	2.080	20¼	410.062	2.725	60	3600.000	3.914	135	18225.000	5.129	225	50625.000	6.082	535	286225.000	8.118
9⅛	83.265	2.089	20⅜	415.140	2.730	60½	3660.250	3.925	136	18496.000	5.142	226	51076.000	6.091	540	291600.000	8.143
9¼	85.562	2.099	20½	420.250	2.736	61	3721.000	3.936	137	18769.000	5.155	227	51529.000	6.100	545	297025.000	8.168
9⅜	87.890	2.108	20⅝	425.390	2.742	61½	3782.250	3.947	138	19044.000	5.167	228	51984.000	6.109	550	302500.000	8.193
9½	90.250	2.117	20¾	430.562	2.748	62	3844.000	3.957	139	19321.000	5.180	229	52441.000	6.118	555	308025.000	8.217
9⅝	92.640	2.127	20⅞	435.765	2.753	62½	3906.250	3.968	140	19600.000	5.192	230	52900.000	6.126	560	313600.000	8.242
9¾	95.062	2.136	21	441.000	2.758	63	3969.000	3.979	141	19881.000	5.204	231	53361.000	6.135	565	319225.000	8.267
9⅞	97.515	2.145	21⅛	446.265	2.764	63½	4032.250	3.989	142	20164.000	5.217	232	53824.000	6.144	570	324900.000	8.291
10	100.000	2.154	21¼	451.562	2.769	64	4096.000	4.000	143	20449.000	5.229	233	54289.000	6.153	575	330625.000	8.315
10⅛	102.515	2.163	21⅜	456.890	2.775	64½	4160.250	4.010	144	20736.000	5.241	234	54756.000	6.162	580	336400.000	8.339
10¼	105.062	2.172	21½	462.250	2.780	65	4225.000	4.020	145	21025.000	5.253	235	55225.000	6.171	585	342225.000	8.363
10⅜	107.640	2.181	21⅝	467.640	2.786	65½	4290.250	4.030	146	21316.000	5.265	236	55696.000	6.179	590	348100.000	8.387
10½	110.250	2.189	21¾	473.062	2.791	66	4356.000	4.041	147	21609.000	5.277	237	56169.000	6.188	595	354025.000	8.410
10⅝	112.890	2.198	21⅞	478.515	2.797	66½	4422.250	4.051	148	21904.000	5.289	238	56644.000	6.197	600	360000.000	8.434
10¾	115.562	2.207	22	484.000	2.802	67	4487.000	4.061	149	22201.000	5.301	239	57121.000	6.205	605	366025.000	8.457
10⅞	118.265	2.215	22⅛	506.250	2.823	67½	4556.250	4.071	150	22500.000	5.313	240	57600.000	6.214	610	372100.000	8.480

9½	90.250	2.117	20¾	430.562	2.748	62	3844.000	3.957	139	19321.000	5.180	229	52441.000	6.118	555	308025.000	8.217		
9⅝	92.640	2.127	20⅞	435.765	2.753	62½	3906.250	3.968	140	19600.000	5.192	230	52900.000	6.126	560	313600.000	8.242		
9¾	95.062	2.136	21	441.000	2.758	63	3969.000	3.979	141	19881.000	5.204	231	53361.000	6.135	565	319225.000	8.267		
9⅞	97.515	2.145	21⅛	446.265	2.764	63½	4032.250	3.989	142	20164.000	5.217	232	53824.000	6.144	570	324900.000	8.291		
10	100.000	2.154	21¼	451.562	2.769	64	4096.000	4.000	143	20449.000	5.229	233	54289.000	6.153	575	330625.000	8.315		
10⅛	102.515	2.163	21⅜	456.890	2.775	64½	4160.250	4.010	144	20736.000	5.241	234	54756.000	6.162	580	336400.000	8.339		
10¼	105.062	2.172	21½	462.250	2.780	65	4225.000	4.020	145	21025.000	5.253	235	55225.000	6.171	585	342225.000	8.363		
10⅜	107.640	2.181	21⅝	467.640	2.786	65½	4290.250	4.030	146	21316.000	5.265	236	55696.000	6.179	590	348100.000	8.387		
10½	110.250	2.189	21¾	473.062	2.791	66	4356.000	4.041	147	21609.000	5.277	237	56169.000	6.188	595	354025.000	8.410		
10⅝	112.890	2.198	21⅞	478.515	2.797	66½	4422.250	4.051	148	21904.000	5.289	238	56644.000	6.197	600	360000.000	8.434		
10¾	115.562	2.207	22	484.000	2.802	67	4487.000	4.061	149	22201.000	5.301	239	57121.000	6.205	605	366025.000	8.457		
10⅞	118.265	2.215	22½	506.250	2.823	67½	4556.250	4.071	150	22500.000	5.313	240	57600.000	6.214	610	372100.000	8.480		
11	121.000	2.223	23	529.000	2.843	68	4624.000	4.081	151	22801.000	5.325	241	58081.000	6.223	615	378225.000	8.504		
11⅛	123.765	2.232	23½	552.250	2.864	68½	4692.250	4.091	152	23104.000	5.336	242	58564.000	6.231	620	384400.000	8.527		
11¼	126.562	2.240	24	576.000	2.884	69	4761.000	4.101	153	23409.000	5.348	243	59049.000	6.240	625	390625.000	8.549		
11⅜	129.390	2.248	24½	600.250	2.904	69½	4830.250	4.111	154	23716.000	5.360	244	59536.000	6.248	630	396900.000	8.572		
11½	132.250	2.257	25	625.000	2.924	70	4900.000	4.121	155	24025.000	5.371	245	60025.000	6.257	635	403225.000	8.595		
11⅝	135.140	2.265	25½	650.250	2.943	70½	4970.250	4.131	156	24336.000	5.383	246	60516.000	6.265	640	409600.000	8.617		
11¾	138.062	2.273	26	676.000	2.962	71	5041.000	4.140	157	24649.000	5.394	247	61009.000	6.274	645	416025.000	8.640		
11⅞	141.015	2.281	26½	702.250	2.981	71½	5112.250	4.150	158	24964.000	5.406	248	61504.000	6.282	650	422500.000	8.662		
12	144.000	2.289	27	729.000	3.000	72	5184.000	4.160	159	25281.000	5.417	249	62001.000	6.291	655	429025.000	8.684		
12⅛	147.015	2.297	27½	756.250	3.018	72½	5256.250	4.169	160	25600.000	5.428	250	62500.000	6.299	660	435600.000	8.706		
12¼	150.062	2.305	28	784.000	3.036	73	5329.000	4.179	161	25921.000	5.440	251	63001.000	6.307	665	442225.000	8.728		
12⅜	153.140	2.313	28½	812.250	3.054	73½	5402.250	4.188	162	26244.000	5.451	252	63504.000	6.316	670	448900.000	8.750		
12½	156.250	2.320	29	841.000	3.072	74	5476.000	4.198	163	26569.000	5.462	253	64009.000	6.324	675	455625.000	8.772		
12⅝	159.390	2.328	29½	870.250	3.089	74½	5550.250	4.207	164	26896.000	5.473	254	64516.000	6.333	680	462400.000	8.793		
12¾	162.562	2.336	30	900.000	3.107	75	5625.000	4.217	165	27225.000	5.484	255	65025.000	6.341	685	469225.000	8.815		
12⅞	165.765	2.343	30½	930.250	3.124	76	5776.000	4.235	166	27556.000	5.495	256	65536.000	6.349	690	476100.000	8.836		
13	169.000	2.351	31	961.000	3.141	77	5929.000	4.254	167	27889.000	5.506	257	66049.000	6.357	695	483025.000	9.857		
13⅛	172.205	2.358	31½	992.250	3.158	78	6084.000	4.272	168	28224.000	5.517	258	66564.000	6.366	700	490000.000	8.879		
13¼	175.562	2.366	32	1024.000	3.174	79	6241.000	4.290	169	28561.000	5.528	259	67081.000	6.374	705	497025.000	8.900		
13⅜	178.890	2.373	32½	1056.250	3.191	80	6400.000	4.308	170	28900.000	5.539	260	67600.000	6.382	710	504100.000	8.921		
13½	182.250	2.381	33	1089.000	3.207	81	6561.000	4.326	171	29241.000	5.550	265	70225.000	6.423	715	511225.000	8.942		
13⅝	185.640	2.388	33½	1122.250	3.223	82	6724.000	4.344	172	29584.000	5.561	270	72900.000	6.463	720	518400.000	8.962		
13¾	189.062	2.395	34	1156.000	3.239	83	6889.000	4.362	173	29929.000	5.572	275	75625.000	6.502	725	525625.000	8.983		
13⅞	192.515	2.402	34½	1190.250	3.255	84	7056.000	4.379	174	30276.000	5.582	280	78400.000	6.542	730	532900.000	9.004		
14	196.000	2.410	35	1225.000	3.271	85	7225.000	4.396	175	30625.000	5.593	285	81225.000	6.580	735	540225.000	9.024		
14⅛	199.515	2.417	35½	1260.250	3.286	86	7396.000	4.414	176	30976.000	5.604	290	84100.000	6.619	740	547600.000	9.045		
14¼	203.062	2.424	36	1296.000	3.301	87	7569.000	4.431	177	31329.000	5.614	295	87025.000	6.656	745	555025.000	9.065		
14⅜	206.640	2.431	36½	1332.250	3.317	88	7744.000	4.447	178	31684.000	5.625	300	90000.000	6.694	750	562500.000	9.085		
14½	210.250	2.438	37	1369.000	3.332	89	7921.000	4.464	179	32041.000	5.635	305	93025.000	6.731	755	570025.000	9.105		
14⅝	213.890	2.445	37½	1406.250	3.347	90	8100.000	4.481	180	32400.000	5.646	310	96100.000	6.767	760	577600.000	9.125		
14¾	217.562	2.452	38	1444.000	3.361	91	8281.000	4.497	181	32761.000	5.656	315	99225.000	6.804	765	585225.000	9.145		
14⅞	221.265	2.459	38½	1482.250	3.376	92	8464.000	4.514	182	33124.000	5.667	320	102400.000	6.839	770	592900.000	9.165		
15	225.000	2.466	39	1521.000	3.391	93	8649.000	4.530	183	33489.000	5.677	325	105625.000	6.875	775	600625.000	9.185		
15⅛	228.765	2.473	39½	1560.250	3.405	94	8836.000	4.546	184	33856.000	5.687	330	108900.000	6.910	780	608400.000	9.205		
15¼	232.562	2.479	40	1600.000	3.419	95	9025.000	4.562	185	34225.000	5.698	335	112225.000	6.945	785	616225.000	9.224		
15⅜	236.390	2.486	40½	1640.250	3.434	96	9216.000	4.578	186	34596.000	5.708	340	115600.000	6.979	790	924100.000	9.244		
15½	240.250	2.493	41	1681.000	3.448	97	9409.000	4.594	187	34969.000	5.718	345	119025.000	7.013	795	632025.000	9.263		
15⅝	244.140	2.500	41½	1722.250	3.462	98	9604.000	4.610	188	35344.000	5.728	350	122500.000	7.047	800	640000.000	9.283		
15¾	248.062	2.506	42	1764.000	3.476	99	9801.000	4.626	189	35721.000	5.738	355	126025.000	7.080					
15⅞	252.015	2.513	42½	1806.250	3.489	100	10000.000	4.641	190	36100.000	5.748	360	129600.000	7.113					
16	256.000	2.519	43	1849.000	3.503	101	10201.000	4.657	191	36481.000	5.758	365	133225.000	7.146					
16⅛	260.015	2.526	43½	1892.250	3.516	102	10404.000	4.672	192	36864.000	5.768	370	136900.000	7.179					
16¼	264.062	2.532	44	1936.000	3.530	103	10609.000	4.687	193	37249.000	5.778	375	140625.000	7.211					
16⅜	268.140	2.539	44½	1980.250	3.543	104	10816.000	4.702	194	37636.000	5.788	380	144400.000	7.243					
16½	272.250	2.545	45	2025.000	3.556	105	11025.000	4.717	195	38025.000	5.798	385	148225.000	7.274					
16⅝	276.390	2.552	45½	2070.250	3.570	106	11236.000	4.732	196	38416.000	5.808	390	152100.000	7.306					
16¾	280.562	2.558	46	2116.000	3.583	107	11449.000	4.747	197	38809.000	5.818	395	156025.000	7.337					
16⅞	284.765	2.564	46½	2162.250	3.595	108	11664.000	4.762	198	39204.000	5.828	400	160000.000	7.368					
17	289.000	2.571	47	2209.000	3.608	109	11881.000	4.776	199	39601.000	5.838	405	164025.000	7.398					
17⅛	293.265	2.577	47½	2256.250	3.621	110	12100.000	4.791	200	40000.000	5.848	410	168100.000	7.428					

=2870　十位以下を切捨て

=2800

四、「チーゼル」式に非ざる發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{D} - A)}{B}$$

W、N、D、は前號に同じ

A、B　は定數にして左表に依る、但し英式單位なるときは括弧内に數を用うべし。

發動機の種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	一(〇・三四)	三〇〇〇〇(一五・八二)
二「サイクル」單働發動機	一(〇・三四)	一六三〇〇(八・六〇)

W=50.12　小數點以下を切捨て

=50

第二號表

「ヂーゼル」式以外ノ單働發動機									「ヂーゼル」式單働發動機					
英式						メートル式			英式			メートル式		
氣筩の徑(吋)	公稱馬力 二サイクル	公稱馬力 四サイクル	氣筩の徑(吋)	公稱馬力 二サイクル	公稱馬力 四サイクル	氣筩の徑(粍)	公稱馬力 二サイクル	公稱馬力 四サイクル	氣筩の經(吋)	公稱馬力 二サイクル	公稱馬力 四サイクル	氣筩の徑(粍)	公稱馬力 二サイクル	公稱馬力 四サイクル
4	2.26	1.26	⅝	23.83	13.25	200	11.61	6.46	7⅞	29.43	16.34	200	29.43	16.34
⅛	2.44	1.35	¾	24.51	13.63	205	12.32	6.85	8	30.46	16.91	210	32.71	18.16
¼	2.63	1.46	⅞	25.19	14.01	210	13.05	7.26	⅛	31.49	17.49	220	36.18	20.08
⅜	2.81	1.56	11	25.89	14.40	215	13.81	7.68	¼	32.55	18.07	230	39.84	22.11
½	3.01	1.67	⅛	26.60	14.80	220	14.59	8.12	⅜	33.63	18.67	240	43.69	24.25
⅝	3.22	1.79	¼	27.32	15.20	225	15.40	8.57	½	34.72	19.28	250	47.74	26.50
¾	3.43	1.91	⅜	28.05	15.60	230	16.23	9.03	⅝	35.84	19.90	260	51.98	28.86
⅞	3.66	2.03	½	28.80	16.02	235	17.09	9.51	¾	36.98	20.53	270	56.43	31.32
5	3.88	2.16	⅝	29.56	16.44	240	17.98	10.01	⅞	38.13	21.17	275	58.72	32.60
⅛	4.13	2.29	¾	30.32	16.86	245	18.89	10.51	9	39.31	21.83	280	61.07	33.90
¼	4.37	2.43	⅞	31.10	17.00	250	19.83	11.03	⅛	40.50	22.49	290	65.91	36.98
⅜	4.63	2.57	12	31.89	17.74	255	20.79	11.57	¼	41.72	23.16	295	68.40	37.97
½	4.89	2.72	⅛	32.69	18.18	260	21.78	12.12	⅜	42.95	23.84	300	70.96	39.39
⅝	5.17	2.87	¼	33.50	18.63	265	22.80	12.69	½	44.20	24.54	310	76.20	42.30
¾	5.45	3.03	⅜	34.33	19.09	270	23.84	13.27	⅝	45.47	25.25	320	81.65	45.33
⅞	5.74	3.19	½	35.15	19.55	275	24.91	13.86	¾	46.76	25.96	330	87.32	48.47
6	6.04	3.36	⅝	36.00	20.02	280	26.01	14.48	⅞	48.07	26.69	340	93.19	51.73
⅛	6.34	3.53	¾	36.87	20.51	285	27.13	15.10	10	49.41	27.43	350	99.27	55.11
¼	6.67	3.71	⅞	37.73	20.98	290	28.29	15.75	⅛	50.76	28.18	360	105.55	58.60
⅜	6.99	3.88	13	38.62	21.48	295	29.47	16.40	¼	52.13	28.94	370	112.06	62.21
½	7.32	4.07	⅛	39.50	21.97	300	30.68	17.08	⅜	53.52	29.72	380	118.77	65.94
⅝	7.67	4.26	¼	40.41	22.48	305	31.92	17.77	½	54.93	30.50	390	125.70	69.78
¾	8.02	4.46	⅜	41.32	22.98	310	33.18	18.47	⅝	56.36	31.29	400	132.84	73.75
⅞	8.38	4.66	½	42.26	23.51	315	34.48	19.19	¾	57.82	32.10	420	147.78	82.04
7	8.75	4.86	⅝	43.20	24.03	320	35.80	19.93	⅞	59.28	32.91	450	171.84	95.40
⅛	9.13	5.08	¾	44.15	24.55	325	37.15	20.68	11	60.77	33.74	500	216.41	120.14
¼	9.52	5.29	⅞	45.10	25.09	330	38.53	21.45	¼	63.81	35.43	550	266.66	148.04
⅜	9.92	5.52	14	46.10	25.64	335	39.95	22.23	½	66.95	37.17	600	322.74	179.18
½	10.33	5.74	⅛	47.09	26.19	340	41.38	23.03	¾	70.15	38.95	650	384.76	213.61
⅝	10.75	5.98	¼	48.08	26.74	345	42.85	23.85	12	73.44	40.77	680	424.86	235.87
¾	11.17	6.21	⅜	49.10	27.31	350	44.35	24.69	¼	76.81	42.65	700	452.83	251.40
⅞	11.62	6.46	½	50.12	27.88	355	45.88	25.54	½	80.25	44.56	800	607.52	337.28
8	12.07	6.71	⅝	51.16	28.46	360	47.43	26.40	¾	83.80	46.53			
⅛	12.52	6.96	¾	52.21	29.04	365	49.03	27.29	13	87.42	48.54			
¼	12.99	7.22	⅞	53.27	29.63	370	50.65	28.19	¼	91.13	50.60			
⅜	13.47	7.49	15	54.35	30.23	375	52.30	29.11	½	94.92	52.70			
½	13.95	7.76	⅛	54.44	30.84	380	53.98	30.04	¾	98.78	54.85			
⅝	14.45	8.04	¼	56.52	31.44	385	55.68	30.99	14	102.75	57.05			
¾	14.96	8.32	⅜	57.64	32.06	390	57.43	31.97	¼	106.79	59.29			
⅞	15.48	8.61	½	58.77	32.69	395	59.20	32.95	½	110.91	61.58			
9	16.01	8.90	⅝	59.92	33.33	400	61.01	33.96	¾	115.13	63.93			
⅛	16.54	9.20	¾	61.05	33.96	405	62.84	34.98	15	119.44	66.32			
¼	17.10	9.51	⅞	62.23	34.61	410	64.70	36.01	¼	123.81	68.74			
⅜	17.65	9.82	16	63.38	35.26	415	66.61	37.08	½	128.30	71.24			
½	18.22	10.13	⅛	64.59	35.92	420	68.53	38.14	¾	132.85	73.76			
⅝	18.81	10.46	¼	65.77	36.58	425	70.49	39.24	16	137.49	76.34			
¾	19.40	10.79	⅜	67.00	37.27	430	72.48	40.35	¼	142.23	78.97			
⅞	20.00	11.12	½	68.21	37.94	435	74.51	41.47	½	147.05	81.65			
10	20.61	11.46	⅝	69.47	38.64	440	76.57	42.62	¾	151.97	84.38			
⅛	21.23	11.81	¾	70.71	39.33	445	78.66	43.78	17	156.99	87.17			
¼	21.87	12.16	⅞	71.96	40.03	450	80.79	44.97						
⅜	22.51	12.52	17	73.26	40.75									
½	23.16	12.88												

臺灣海事諸法令

◉海事諸法臺灣施行令（昭和六年十一月勅令第二百七十三號）

改正（昭和九年一月勅令第十四號）（昭和十七年五月勅令第四百九十一號）

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

船舶法　造船事業法但シ同法第六條及第十六條ノ規定ヲ除ク

船舶安全法但シ同法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及第二十七條ノ規定ヲ除ク

船員法

船員最低年齢法

船舶職員法

水先法但シ同法第二十條第二項ノ規定ヲ除ク

海員懲戒法但シ同法第八條第二項、第九條、第十一條、第十二條第二項、第十三條及第十四條ノ規定ヲ除ク

造船事業法

第二條 前條ノ法律中主務大臣又ハ遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

船舶法第三十四條第一項、造船事業法第七條第十五條第二項、第三十七條第一項、第四十條、第四十二條及第五十二條竝ニ海員懲戒法第四十九條中勅令トアルハ臺灣總督府令トス

第三條 船員法中本籍地トアルハ本島人ニ付テハ本居地トシ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ戸長又ハ之ニ準ズベキ者トアルハ市街、庄長又ハ區長トス

第四條 船員最低年齢法中本籍トアルハ本島人ニ付テハ本居トシ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者トアルハ戸籍又ハ戸口ニ關シ其ノ事務ヲ管掌スル者トス

第五條 水先法中海員審判所トアルハ臺灣總督府海員審判所、地方海員審判所トアルハ臺灣總督府地方海員審判所トス

第六條 海員懲戒法中海員審判所トアルハ臺灣總督府海員審判所、地方海員審判所トアルハ臺灣總督府地方海員審判所、高等海員審判所トアルハ臺灣總督府高等海員審判所、遞信省トアルハ臺灣總督府交通局、官報トアルハ臺灣總督府報、市町村長トアルハ市街、庄長又ハ區長トス

第七條 臺灣總督府海員審判所ハ之ヲ臺灣總督府交通局ニ置ク

第八條 臺灣總督府高等海員審判所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
審判官	五人
理事官	一人
書記	一人

臺灣總督府地方海員審判所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
審判官	三人
理事官	一人
書記	一人

所長、審判官及理事官ハ臺灣總督府部内高等官ノ中ヨリ、書記

ハ臺灣總督府內判任官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ズ

附　則

第九條　本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十條　本令施行ノ際臺灣船籍規則ニ依ル船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クベキモノノ登錄及船舶國籍證書ノ交付ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　臺灣船籍規則ニ依ル船舶國籍證書又ハ船鑑札ハ前條ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クル迄船舶法ニ依ル船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十二條　本令施行ノ際臺灣船籍規則ニ依リ受有スル假船舶國籍證書又ハ假船鑑札ハ其ノ有效期間滿了ニ至ル迄船舶法ニ依ル假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條　削除

第十四條　削除

第十五條　除削

第十六條　本令施行ノ際臺灣在籍船舶ニ乘組中ノ船員ハ本令施行ノ日ヨリ六月間ノ船員手帖ノ交付ヲ受クルコトヲ要セズ

第十七條　本令施行ノ際十四歲未滿ノ船員ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付テハ船員最低年齡法第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十八條　本令施行ノ際十八歲未滿ノ船員ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間滿了ニ至ル迄船員最低年齡法第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ雇入期間滿了ノ際航海中ノ者ニ付テハ該航海ノ終了ニ至ル迄之ヲ適用セズ

第十九條　本令施行ノ際十八歲未滿ノ者ヲ石炭夫又ハ火夫トシテ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付テハ船員最低年齡法第二條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十條　臺灣汽船職員規則ニ依リ臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ハ本令ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル效力ヲ有ス

第二十一條　臺灣汽船檢査規則ニ依リ檢査ヲ要セザリシ船舶ニ於テ本令施行ノ際船舶職員ノ職務ニ該當スル職務ヲ執ル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ海技免狀ヲ有セズシテ仍其ノ執職セル船舶ニ限リ執務スルコトヲ得

第二十二條　臺灣總督ハ前條ニ規定スル者ニ對シ其ノ定ムル所ニ依リ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ試驗ヲ用ヒズシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得但シ其ノ有效期間ハ之ヲ三年トス

第二十三條　臺灣總督ハ當分ノ內內地在籍船舶ニ關シテハ左ニ揭グル場合ニ限リ效力ヲ有スル海技免狀ヲ發給ス

一　臺灣ト內地以外ノ地ノ間ノミヲ航行スル場合

二　臺灣ノ沿岸又ハ湖川港灣內ノミヲ航行スル場合

第二十四條　臺灣總督ハ本令施行ノ際船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニ對シ試驗ヲ用ヒズシテ水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

第二十五條　本令施行前ニ生ジタル汽船職員懲戒事件ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ懲戒手續ニ關シテハ本令ヲ適用シ臺灣總督府地方海員審判所ニ於テ審判ヲ行フ

附　則（昭和九年一月　勅令第十四號）

第一條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際從前ノ第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍從前ノ規定ニ依ル

一　從前ノ第十三條ノ汽船檢査證書又ハ假證書ノ有效期間滿了ノ爲船舶檢査法ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

二　從前ノ第十四條ノ規定ニ依ル臺灣總督ノ命令ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

第三條　前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ造船事業法第二條ノ規定ニ拘ラス其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ揭グル者前項ノ期間內ニ同條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

◉船舶安全法施行ニ關スル件（昭和九年二月　府令第三號）

第一條　船舶安全法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和九年遞信省令第四號船舶安全法施行規則ニ依ル

第二條　前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信大臣	臺灣總督
官報	臺灣總督府報
遞信省	臺灣總督府交通局

附　則

第三條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　昭和八年府令第七十二號船舶檢査法施行ニ關スル件、同年府令第十三號船舶滿載吃水線法施行ニ關スル件、同年府令第十六號船舶無線電信施設施行ニ關スル件、同年府令第七十三號船舶檢査ニ關スル件、同年府令第七十四號木船檢査ニ關スル件、同年府令第七十五號漁船檢査ニ關スル件及同年府令第十四號船舶滿載吃水線ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

第五條　海事諸法臺灣施行令施行ノ際臺灣汽船檢査規則ニ依リ檢査ヲ要セサリシ船舶ノ檢査ハ昭和八年府令第十一號船舶法施行ニ關スル件第六條又ハ同年府令第十二號船舶法第二十一條ノ命令ニ關スル件第五條ノ規定ニ依リ始メテ積量ノ測度ヲ受クル際之ヲ執行ス

第六條 海事諸法臺灣施行令第十五條第一項第三號ノ船舶ハ左ニ掲クル內地在籍船舶ヲ謂フ

一 移民船トシテ臺灣ノ港ヲ發航シ又ハ臺灣ニ於テ臨時旅客ヲ搭載セントスル船舶

二 回航認可ヲ受ケントスル船舶其ノ他臨時檢査ヲ受ケントスル船舶

三 遞信大臣ヨリ特ニ檢査ノ囑託アリタル船舶

第七條 海事諸法臺灣施行令第十五條第一項ニ依リ檢査ヲ申請スル船舶ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第八條 昭和九年勅令第十四號海事諸法臺灣施行令中改正ノ件附則第三條第一項ノ規定ニ依ル檢査ニ關シテハ船舶安全法施行規則第百九十三條ノ規定ヲ準用ス

◉海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件（昭和十年八月臺灣總督府令第六十二號）

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和十年遞信省令第二十二號ニ依ル但シ同省令中內地トアルハ臺灣トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ日ヲ施行ス

◉昭和九年府令第三號船舶安全法施行ニ關スル件ヲ外國船舶ニ準用ノ件（昭和九年二月府令第四號）

昭和九年府令第三號船舶安全法施行ニ關スル件ヲ日本船舶ニ非サル船舶ニ準用ノ件ニ付テハ昭和九年遞信省令第五號船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行

◉船舶設備ニ關スル件（昭和九年二月府令第五號）

船舶ノ設備ニ關シテハ昭和九年遞信省令第六號船舶設備規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶滿載吃水線ニ關スル件（昭和九年二月府令第六號）

船舶ノ滿載吃水線ニ關シテハ昭和九年遞信省令第七號船舶滿載吃水線規程ニ依ル但シ同省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶區畫ニ關スル件（昭和九年二月府令第七號）

船舶ノ區畫ニ關シテハ昭和九年遞信省令第八號船舶區畫規程ニ依ル但シ同省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉木船構造ニ關スル件（昭和九年二月府令第八號）

木船ノ構造ニ關シテハ昭和九年遞信省令第九號木船構造規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶機關ニ關スル件（昭和九年二月府令第九號）

船舶ノ機關ニ關シテハ昭和九年遞信省令第十號船舶機關規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉漁船ニ關スル件（昭和九年二月府令第十一號）

漁船ニ關シテハ昭和九年省令遞信林省令漁船特殊規則ニ依ル但シ同省令中主務大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉造船ニ關スル件（昭和八年五月府令第七十六號）

造船ニ關シテハ大正五年遞信省令第六十五號造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

◉船用品取締ニ關スル件（昭和九年三月府令第二十號）

第一條 船用品ノ取締ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和九年遞信省令第十七號船用品取締規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信大臣	臺灣總督
銃砲火藥類取締法	臺灣銃砲火藥類取締規則
遞信省管船局船舶試驗所（以下單ニ船舶試驗所ト稱ス）船舶試驗所支所	
船舶試驗所	

船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所、船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所（臺灣總督府交通局遞信省管船局船舶試驗所（又ハ同支所若ハ管海官廳）遞信省管船局船舶試驗所（又ハ同支所）遞信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳）

第三條 船用品取締規則第三十一條ノ檢印ハ別記雛形ノ通トシ同則別表第一號ハ別表ノ通トス

附則

第四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 昭和八年府令第六十七條船燈信號器救命具取締ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

第六條 本令ニ依ル型式承認ハ當分ノ內之ヲ行ハス

別記雛形

臺灣總督府交通局檢印（臺交檢）

管海官廳檢印（臺檢）

備考 「臺檢」ノ間ニ管海官廳所在地ノ頭字一字ヲ挿入スルモノトス

別表

品名	製造免許船用品檢定手數料
信霧中號角	円 〇・一〇

◉船用品檢査試驗ニ關スル件

（昭和八年五月府令第六十三號）改正（昭和九年三月府令第二十一號）

第一條 船用品ノ檢査又ハ試驗ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外大正九年遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信省管船局船舶試驗所又ハ其ノ支所	臺灣總督府交通局
遞信大臣	臺灣總督
遞信省	臺灣總督府
遞信省令	臺灣總督府令

大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則 / 大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則第六條 ／ 昭和八年臺灣總督府令第六十三號船用品檢査試驗ニ關スル件

號	適用規格	手數料算定單位	手數料
信號器 榴弾	信號器試驗規程	一箇	円 五、〇〇
信號器 火箭	同	一箇	二、〇〇
信號器 信號青焰	同	一箇	一、〇〇
信號器 信號紅焰	同	一箇	一、〇〇
救命具 救命浮環	救命具試驗規程	一箇	三、〇〇
救命具 救命胴衣	同	一箇	七、〇〇
救命具 救命焰	同	一箇	一、五〇

第三條 船用品檢査試驗規則第六條ノ甲號及乙號檢印ハ別記雛形ノ通トシ同則別表ハ別表ノ通トス

附則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

船用品檢査試驗細目

表檢査試驗品種別	檢査試驗種別	適用規格	手數料算定單位	手數料	備考	取扱試驗所名
信號器 霧中號角	效力試驗	信號器試驗規程	一箇	円 五、〇〇	試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗シタルモノハ之ヲ算入セズ	交通局
信號器 榴弾	同	同	一箇	二、〇〇		
信號器 火箭	同	同	一箇	二、〇〇		
信號器 信號青焰	同	同	一箇	一、〇〇		
信號器 信號紅焰	同	同	一箇	一、〇〇		
救命具 救命浮環	效力試驗	救命具試驗規程	一箇	三、〇〇		
救命具 救命胴衣	同	同	一箇	七、〇〇	同	交通局
救命具 救命焰	同	同	一箇	一、五〇		

（別記雛形）

甲號 檢印

乙號 檢印

◉船燈試驗ニ關スル件

（昭和八年五月府令第六十四號）改正（昭和九年三月府令第二十二號）

船燈ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉船用信號器試驗ニ關スル件

（昭和九年三月府令第二十三號）

船用信號器ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十號信號器試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第六十五號信號器試驗ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

◉船用救命器具試驗ニ關スル件

（昭和九年三月府令第二十四號）

船用救命器具ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十一號救命器具試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第六十六號救命具試驗ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

◉船用消火器試驗ニ關スル件

（昭和九年三月府令第二十五號）

船用消火器ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十二號消火器試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶火災警報裝置試驗ニ關スル件

（昭和九年三月府令第二十六號）

船舶火災警報裝置ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十三號火災警報裝置試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉船用防毒面試驗ニ關スル件

（昭和九年三月府令第二十七號）

船用防毒面ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十四號防毒面試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉錨鎖索試驗ニ關スル件

（昭和八年五月府令第六十八號）

錨鎖索試驗ニ關シテハ大正九年遞信省令第七十六號錨鎖索試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉舷窓試驗ニ關スル件

（昭和八年五月府令第六十九號）

舷窓試驗ニ關シテハ大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程ニ依ル但シ同省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附　則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉艙口覆布試驗ニ關スル件

（昭和八年十月府令第百十三號）

艙口覆布ノ試驗ニ關シテハ昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉船舶檢査執行地ノ件

（昭和九年三月告示第二十八號）

船舶安全法施行規則第七十三條ノ規定ニ依リ船舶檢査執行地左ノ通定ム

昭和八年告示第七十六號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督府交通局基隆海事出張所

基隆市　臺北州淡水郡淡水街　臺北州蘇澳郡蘇澳庄

新竹州竹南郡後龍庄　花蓮港廳花蓮港街　臺東廳

新港區新港

臺灣總督府交通局高雄海事出張所

高雄市　高雄州東港郡東港街　高雄州恒春郡恒春庄　高雄州恒春郡車城庄　臺南市　臺南州東石郡布袋庄　臺南州東石郡東石庄

臺中州彰化郡鹿港街　澎湖廳馬公街

◉休暇日船舶檢査執行地ノ件

（昭和九年三月告示第二十七號）

船舶安全法施行規則第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日檢査執行地左ノ通相定ム

昭和八年告示第七十七號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督府交通局基隆海事出張所

基隆市

臺灣總督總督府交通局高雄海事出張所

高雄市

朝鮮海事諸法令

◉朝鮮船舶安全令（昭和十年一月制令第二號）

第一條 朝鮮ニ於ケル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外船舶安全法ニ依ル但シ同法第二十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法中勅令トアルハ朝鮮總督府令主務大臣トアルハ朝鮮總督、地方長官トアルハ道知事、日本船舶トアルハ朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶、道府縣市町村トアルハ道府邑面トス

第二條 朝鮮ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ製造スル船舶ノ製造者ハ前條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第六條第一項又ハ第二項ノ製造檢査ヲ受クルコト得

附　則

第三條 本令ノ施行ノ日ハ期朝鮮總督之ヲ定ム

船舶安全法第二條第一項第十一號ニ關スル規定ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル日迄本令第一條ノ規定ヲ適用セズ

第四條 朝鮮船舶檢査令ハ之ヲ廢止ス

第五條 本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

一　總噸數二十噸未滿ノ帆船

二　總噸數二十噸未滿ノ漁船

三　平水區域ノミヲ航行スル帆船

第六條 本令施行前生ジタル事項ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他朝鮮總督ノ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 朝鮮船舶檢査令ニ依リ船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ノ檢査ニ關シテハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル

一　航行期間滿了ノ爲朝鮮船舶檢査令ニ依リ檢査ヲ受クベキト

二　朝鮮船舶檢査令ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ前項ノ船舶ニシテ本令ニ依リ滿載吃水線ノ標示又ハ無線電信ノ施設ヲ要スルモノニ付テハ同項各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄之ガ標示又ハ施設ヲ爲サザルコトヲ得

第八條 前條ノ船舶同條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

◉朝鮮船舶安全令施行ニ關スル件（昭和十年二月府令第十九號）

朝鮮船舶安全令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

同令第三條第二項ノ期日ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

◉朝鮮船舶安全令施行規則（昭和十年二月府令第二十號）（改正昭和十一年三月府令第二十七號）（改正昭和十四年五月府令第六十九號）

第一條 朝鮮船舶安全令ノ施行ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年遞信省令第四號船舶安全法施行規則ニ依ル但シ同規則第二十六條、第二十七條、第三十二條、第三十三條、第六十一條、第六十二條及第七十五條並ニ別表第二號備考第五號及第六號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

船舶安全法施行規則中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、遞信省トアルハ朝鮮總督府遞信局、日本船舶トアルハ朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶、船舶安全法トアルハ朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、船舶安全法施行地トアルハ朝鮮、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程、木船構造規程トアルハ朝鮮木船構造規程、船舶機關規程トアルハ朝鮮船舶機關規程、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、船舶區畫規程トアルハ朝鮮船舶區畫規程、漁船特殊規則トアルハ朝鮮漁船特殊規則、漁船特殊規程トアルハ朝鮮漁船特殊規程トス

船舶安全法施行規則第四條第二項中移民保護法第一條ニ該當スル者トアルハ勞働ニ從事スル目的ヲ以テ滿洲國又ハ中華民國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者、同規則第十八條中平水區域又ハ瀨戸内和歌山縣海草郡田倉埼ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門埼ヨリ德島縣板野郡孫埼ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關埼ニ至ル線及福岡縣企救郡門司埼ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域トアルハ平水區域、同規則第七十二條中第七十五條トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則第七條同規則第百三十五條第一項第三號中船舶法施行細則第四條第一項各號トアルハ朝鮮船舶令施行規則第四條第一項各號、同條第二項中同法トアルハ朝鮮船舶安全令、同規則第百八十四條第二項中船舶法施行細則第五十三條第一項トアルハ朝鮮船舶令施行規則第五十四條トス

第二條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス

第一區　平安北道鐵山郡水運島燈臺ヨリ眞方位二百九十五度ニ引キタル線並ニ同郡魚泳島、同郡大和島及同道定州郡外鞠島ヲ經テ平安南道安州郡汝香山ニ至ル線内

第二區　平安南道龍岡郡煙坮峯ヨリ黃海道松禾郡姉妹島及同郡黑岩ヲ經テ同郡冷井埼ニ至ル線内

第三區　黃海道長淵郡長山串ヨリ同郡月乃島、同道甕津郡麻蛤島、同郡麟鱗島及同郡巡威島ヲ經テ同郡山串ニ至ル線内

第四區　黃海道甕津郡獨巡項ヨリ同道海州郡大延平島北端、京畿道江華郡注文島、同道富川郡西晩島、同郡大舞衣島、同郡麗興島及同郡豐島ヲ經テ忠淸南道瑞山郡萬坐端ニ至ル線內

第五區　忠淸南道保寧郡外長古島西端ヨリ眞方位三百五十一度ニ引キタル線及同島南端ヨリ同郡揷矢島（揷州島）ヲ經テ同郡甲岩ニ至ル線內

第六區　忠淸南道舒川郡冬柏亭岬ヨリ全羅北道沃溝郡飛鷹島ヲ經テ同道扶安郡水聖堂（水城堂）ニ至ル線內

第七區　全羅南道靈光郡佛甲川口ヨリ同郡歌音島、同道務安郡在遠島、同郡慈恩島、同郡飛禽島、同郡薪島及同郡下台島ヲ經テ同道珍島郡珍島素浦江口ニ至ル線並ニ同島東端ヨリ眞方位七十一度ニ引キタル線內

第八區　全羅南道海南郡南角ヨリ同道莞島郡黑日島、同郡莞島、同郡生日島（山日島）、同郡平日島及同道高興郡居金島ヲ經テ同郡望芝角ニ至ル線內

第九區　全羅南道高興郡外羅老島西端ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線、同島東郡北端ヨリ同道麗水郡小橫干島ヲ經テ同郡突山島南端ニ至ル線、同島大端ヨリ慶尙南道南海島南西突出部西端ニ至ル線同島獐項末ヨリ統營郡下島、同郡楸島及同郡比珍島ヲ經テ同郡巨濟島望山角ニ至ル線同島列天端ヨリ同道昌原郡加德島天秀坮末ニ至ル線並ニ同島鷹峰山ヨリ同道東萊郡鼠島及同道釜山府牧ノ島ヲ經テ同府蛇頭末ニ至ル線內

第十區　慶尙南道蔚山郡島田末ヨリ同郡瑟島ニ至ル線內

第十一區　慶尙北道迎日郡戍尾ヨリ同郡汝南岬ニ至ル線內

第十二區　江原道通川郡鶴龍端ヨリ咸鏡南道德源麗島ヲ經テ同道永興郡虎島大江串（南角）ニ至ル線內

第十三區　咸鏡南道定平郡廣浦江口ヨリ同道咸州郡外洋島端ニ至ル線內

第十四區　咸鏡南道北靑郡燈臺台址ヨリ同郡馬養島ヲ經テ同郡松島岬ニ至ル線內

第十五區　咸鏡北道城津松五郎端ヨリ同郡楡津端ニ至ル線內

第十六區　咸鏡北道淸津府高秫山端ヨリ眞方位二百六十三度ニ引キタル線內

第十七區　咸鏡北道慶興松木端ヨリ同郡大草島ヲ經テ同郡語於端ニ至ル線內

第十八區　咸鏡北道慶興郡郭端ヨリ同郡赤島ヲ經テ同郡烏浦端ニ至ル線內

第三條　沿海區域ハ左ニ揭グル各區域トス

一　朝鮮本土、濟州島及鬱陵島ノ各海岸ヨリ二十海里以內ノ區域

二　平安北道龍川郡鴨綠江口ヨリ同郡馬鞍島ヲ經テ黃海道長淵郡長山串ニ至ル線內

三　黃海道甕津郡登山串ヨリ忠淸南道瑞山郡西格列島全羅北道沃溝郡於靑島ヲ經テ同道扶安郡水聖堂ニ至ル線內

四　全羅南道務安郡臨水半島頭堂ヨリ同郡荏子島、同郡大老鹿島、同郡扶南島、同郡紅島、同郡小黑山島、同道濟州島及同道麗水郡巨文島ヲ經テ同道高興郡高興半島（興陽半島）南端ニ至ル線內

五　全羅南道麗水郡古突山半島南東端ヨリ長崎縣北松浦郡生月島北端ニ至ル線、福岡縣企救郡門司埼ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線及山口縣豐浦郡觀音埼ヨリ慶尙南道蔚山郡蔚埼ニ至ル線內

六　江原道高城郡水源端ヨリ咸鏡北道城津郡楡津端ニ至ル線內

第四條　管海官廳總噸數百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海區域ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ每年十二月一日ヨリ翌年二月末日迄左ニ揭グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

一　江原道襄陽郡南涯端ヨリ同道高城郡水源端ニ至ル區間

第五條　朝鮮ト朝鮮外ノ各港間又ハ朝鮮外ノ各港間若ハ湖川港內ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二條、第三條又ハ第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則（以下單ニ船舶安全法施行規則ト稱ス）第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條　內地、臺灣、樺太若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ朝鮮ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造檢査ヲ行ハズ

前項ノ船舶ガ其ノ製造中朝鮮ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セラルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造檢査ヲ行ハザルコトアルベシ

第七條　管海官廳ハ船舶檢査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造檢査ヲ行ハザルコトヲ得

第八條　船舶檢査施行地ニ於テハ急速ノ檢査ヲ必要トスル場合ニ限リ休暇日ト雖モ檢査ヲ行フ。

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ船舶檢査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日ニ檢査ヲ行フコトアルベシ

第九條　朝鮮ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ製造スル船舶ノ製造檢査ハ其ノ船舶ニ付定メントスル船籍港ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第十條　管海官廳已ムコトヲ得ズト認ムルトキハ船舶檢査ヲ他ノ管海官廳ニ囑託スルコトアルベシ

附則

第十一條　本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　昭和六年七月一日以後ノ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

第十三條　朝鮮船舶安全令第八條第一項ノ規定ニ依ル檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一　朝鮮船舶檢査令ニ依リ定メタル特別檢査ノ有效期間ガ滿了シタル船舶及同令ニ依リ特別檢査ヲ行ハザル船舶ニシテ其ノ

航行期間ガ滿了シタルモノノ受クベキ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

二　前號ノ有效期間又ハ航行期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ行フ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

三　前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ中間檢査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一號ニ依ルコトヲ得

第十四條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ朝鮮船舶安全令第七條第一項ニ揭グルモノハ同令ニ依リ檢査ヲ受クル迄船舶安全法施行規則第百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシメザルコトヲ得

第十五條　朝鮮船舶檢査令ニ依リ定メラレタル船舶ノ資格ガ船舶安全法施行規則第九十二條ノ表ニ揭グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限リ仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第十六條　鋼船ノ船體ニ關シ施設スベキ事項及其ノ標準ニ付テハ船舶安全法施行規則第十條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內仍朝鮮造船規程ニ依ル

◉海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件

（昭和十年九月朝鮮總督府令第百八號）

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和十年遞信省令第二十二號ニ依ル但シ同令中船舶安全法トアルハ朝鮮船舶安全令ニ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、船舶安全法施行規則トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程、船舶區畫規程トアルハ朝鮮船舶區畫規程、內地トアルハ朝鮮トス

附　則

本令ハ昭和十年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行直後ニ本令ニ依リ難キ船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄本令ノ安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有セザルコトヲ得

（參照）

昭和十年遞信省令第二十二號

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件

第一條　國際航海ニ從事スル船舶ハ內地各港間ヲ航行スル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スルコトヲ要ス

第二條　第四條各號ニ揭グル船舶ヲ除クノ外海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國トノ間ノ航海（以下甲種國際航海ト稱ス）ニ從事スル旅客船ハ最寄管海官廳ニ於テ安全證書（第一號書式）ノ交付ヲ受クベシ

第三條　第四條第三號ニ揭グル船舶ヲ除クノ外甲種國際航海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ最寄管海官廳ニ於テ安全無線電信證書（第二號書式）ノ交付ヲ受クベシ

第四條　左ノ各號ニ揭グル船舶ハ最寄管海官廳ニ於テ免除證書（第三號書式）ノ交付ヲ受クベシ

一　甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ沿海ノ航行區域ヲ有スルモノ

二　甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル爲其ノ構造又ハ設備ニ付船舶區畫規程又ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ一般規定ノ適用ヲ緩和セラレタルモノ

三　甲種國際航海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶又ハ總噸數千六百噸未滿ノ旅客船ニシテ船舶安全法施行規則第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スルコトヲ免除セラレタルモノ

第五條　安全證書又ハ安全無線電信證書ヲ受有スル船舶臨時ニ

第四條第二號ニ揭グル船舶ニ該當スルトキハ免除證書ヲ併セ受有スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免除證書ヲ受有スル場合ニ於テハ當該船舶ガ第四條第二號ニ揭グル船舶ニ該當スル期間內安全證書又ハ安全無線電信證書ノ效力ヲ停止ス

第六條　國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國トノ間ノ航海（以下乙種國際航海ト稱ス）ニ從事スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ニシテ船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要スルモノハ最寄管海官廳ニ於テ國際滿載吃水線證書（第四號書式）ノ交付ヲ受クベシ

第七條　第二條乃至第四條又ハ第六條ノ證明書ハ船舶檢査證書ヲ受有スル船舶ニ非ザレバ其ノ交付ヲ受クルコトヲ得ズ

第八條　第二條乃至第四條ノ證書ノ有效期間ハ一年以內ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第九條　安全證書、安全無線電信證書又ハ免除證書ノ有效期間滿了ノ際當該船舶ガ外國ニ在ルトキハ最寄帝國領事官ニ當該證書ノ有效期間ノ延長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ帝國領事官ハ當該船舶ニ付其ノ航海ノ適否ヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ當該船舶ガ內地ニ歸航スル爲必要ナル場合ニ限リ五月ヲ超エザル期間內ニ於テ有效期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ證書ノ有效期間ヲ延長シタル場合ニ於テ當該船舶ガ內地ニ到達シタルトキハ其ノ有效期間ハ滿了シタル

モノト看做ス

第十條 第六條ノ證書ノ有效期間ハ四年五月以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第十一條 管海官廳ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スル船舶ニシテ當該證書ノ有效期間滿了ノ際滿載吃水線ヲ變更スルノ必要ナシト認ムルモノニ付テハ申請ニ依リ其ノ有效期間ヲ更新スルコトヲ得

第十二條 海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル外國ニ於テ同條約ニ依ル當該國ノ國際滿載吃水線證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ船長ハ最寄帝國領事官ニ事由ヲ具シタル申請書ヲ提出スベシ

國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル外國ニ於テ同條約ニ依ル當該國ノ國際滿載吃水線證書ノ交付ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第二條、第三條又ハ第六條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ當該證書ヲ受有スル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滯ナク安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 當該證書ノ有效期間滿了シタルトキ

二 安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スル船舶ガ當該證書ヲ受有ズルコトヲ要セザルニ至リタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ安全證書又ハ安全無線電信證書ト免除證書トヲ併セ受有スル場合ヲ除ク

第十四條 甲種國際航海ニ從事スル船舶ガ特定ノ航海ニ於テ其ノ搭載スル人員ニ相當スル數量迄救命設備ヲ減少セントスルトキハ事由ヲ具シ救命設備輕減認可書(第五號書式)ノ交付ヲ最寄管海官廳又ハ帝國領事官ニ申請スベシ

第十五條 前條ノ認可書ハ之ヲ安全證書ニ添附シ置キ船舶ガ內地ニ到達シタルトキハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ返還スベシ

第十六條 第二條ノ證書又ハ第三條ノ證書ノ交付申請書ニハ無線電信ノ通信員及聽守員ノ實在ヲ附記シ船舶檢査證書又ハ其ノ寫及無線電信檢定證書ノ寫又ハ無線電信假檢定證書ノ寫ヲ添附スベシ

第十七條 第四條ノ證書ノ交付申請書ニハ第四條第一號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶檢査證書又ハ其ノ寫ヲ、同條第二號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶檢査證書又ハ其ノ寫及特殊船檢査證書又ハ其ノ寫ヲ、同條第三號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶檢査證書又ハ其ノ寫及無線電信ノ施設ヲ免除セラレタルコトヲ證スル書類ヲ添附スベシ

第十八條 第六條ノ證書ノ交付申請書ニハ船舶檢査證書又ハ其ノ寫ヲ添附スベシ

第十九條 救命設備輕減認可書ノ交付申請書ニハ救命設備ヲ減少セントスル特定ノ航海又ハ其ノ區間、期間、搭載人員並ニ減少セントスル救命設備ノ種類及數量ヲ附記シ且船舶檢査證書又ハ其ノ寫、特殊船檢査證書又ハ其ノ寫、安全證書及船舶檢査

手帖ヲ添附スベシ

第二十條 船舶安全法施行規則第八條、第百二十五條第一項、第百二十六條、第百三十條、第百三十一條及第百四十條ノ規定ハ安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書及救命設備輕減認可書ニ之ヲ準用ス

第二十一條 安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書又ハ救命設備輕減認可書ノ交付、再交付、書換又ハ國際滿載吃水線證書ノ有效期間ノ更新ヲ受ケントスルトキハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

一 安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書 五圓

二 救命設備輕減認可書 三圓

三 國際滿載吃水線證書ノ有效期間ノ更新 一圓

第二十二條 船舶安全法施行規則第百八十三條第一項及第百八十五條ノ規定ハ前條ノ手數料ニ之ヲ準用ス

手數料納付書ニハ船舶番號、船種、船名、船舶所有者名及安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書又ハ救命設備輕減認可書ノ別ヲ記載シ國際滿載吃水線證書ノ有效期間ノ更新ニ付テハ其ノ旨ヲ附記スベシ

附則

本令ハ昭和十年八月十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後直ニ本令ニ依リ難キ船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄第一條ノ證書ヲ受有セザルコトヲ得

第一號書式

安全證書

公印ノ章

國際航海
短國際航海 ニ對スルモノ

日本帝國

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ下ノ事項ヲ證ス

一 本船ガ前記國際條約ノ規定ニ從ヒ正當ニ檢査セラレタルコト

二 檢査ノ結果本船ガ下ノ事項ニ關シ前記條約ノ規定ニ適合セルコト

(一) 船體、主及補助ノ汽罐並ニ機關

(二) 水密區畫ノ配置及其ノ細目

(三) 下ノ區畫滿載吃水線

指定シ且船舶ノ長サノ中央ニ於テ船側ニ標示シタル區畫滿載吃水線(條約第五條)	乾舷	實際旅客ヲ搭載スル場所ガ他ノ用途ニ供用スルコトアルベキ下ノ場所ヲ含ム場合ニ適用ス
C_1	……	……
C_2	……	……
C_3	……	……

第三號書式

公ノ印章

免除證書

日本帝國

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ前記國際條約第　　條ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ本船ニ對シ　　ニ至ル航海ニ於テ前記條約　　ノ規定ノ適用ヲ免除シタルコトヲ證明ス

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有ス

年　月　日　　ニ於テ發行ス

管海官廳印

第四號書式

公ノ印章

國際滿載吃水線證書

千九百三十年ノ國際滿載吃水線條約ノ規定ニ依リ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ發行ス

船名　　船舶番號

船籍港

總噸數

甲板線ヨリノ乾舷　　滿載吃水線

熱帶……(T)　(S)ノ上方……

夏期……(S)　圓線ノ中心ヲ通過スル線ノ上緣

冬期……(W)　(S)ノ下方……

冬期北大西洋……(WNA)　(S)ノ下方……

上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕……

木材滿載吃水線

甲板線ヨリノ乾舷　　滿載吃水線

熱帶木材……(LT)　(S)ノ上方……

夏期木材……(LS)　(S)ノ上方……

冬期木材……(LW)　(S)ノ上下方……

冬期北大西洋木材……(LWNA)　(S)ノ下方……

上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕……

上記乾舷ヲ測ル基準タル甲板線ノ上緣ハ舷ニ於テ甲板ノ上面ノ上方　　ミリメートルトス

(四) 全人員(船員及旅客)　　人分ノ端艇、救命筏其ノ他ノ救命設備即チ

端艇	隻	人分
救命筏	箇	人分
救命浮器	箇	人分
救命浮環	箇	
救命胴衣	箇	
證明書ヲ有スル救命艇手	人	

(五) 無線電信設備

	前記條約第　條ノ規定	實際ノ施設
聽守時間	……	……
承認自働警急機備附ノ有無	……	……
別箇ノ補助設備ノ有無	……	……
通信員ノ最小數	……	……
追加通信員又ハ聽守員	……	……
方位測定機備附ノ有無	……	……

三　本船ガ他ノ一切ノ事項ニ付テモ前記條約ノ規定中本船ニ適用アル規定ニ適合セルコト

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有ス

年　月　日　　ニ於テ發行ス

管海官廳印

第二號書式

公ノ印章

安全無線電信證書

日本帝國

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ本船ガ無線電信ニ關シ前記國際條約ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

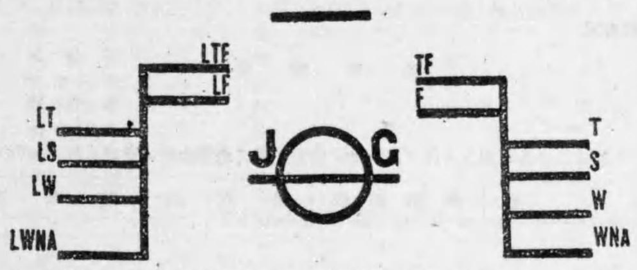
	前記條約第　條ノ規定	實際ノ施設
聽守時間	……	……
承認自働警急機備附ノ有無	……	……
別箇ノ補助設備ノ有無	……	……
通信員ノ最小數	……	……
追加通信員又ハ聽守員	……	……

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有ス

年　月　日　　ニ於テ發行ス

管海官廳印



本證書ハ前記條約ニ從ヒ本船ガ檢査セラレ且前記ノ乾舷及滿載吃水線ガ指定セラレタルコトヲ證明ス

本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有ス

年　月　日　ニ於テ發行ス

管海官廳印

（國際滿載吃水線證書裏面）

條約ノ規定ガ本船ニ依リ完全ニ遵守セラレタルヲ以テ本證書ハ　年　月　日迄之ヲ更新ス

年　月　日

場所……

管海官廳印

第五號書式

救命設備輕減認可書

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

本船ハ　ヨリ　ニ至ル航海區間ニ於テ其ノ搭載スル船員及旅客ノ總數ガ　人ヲ超エザル限リ救命設備ヲ次表ニ掲グル數量迄輕減スルコトヲ認可ス

端艇		隻	人分
救命筏		箇	人分
救命浮器		箇	人分
救命浮環		箇	
救命胴衣		箇	
證明書ヲ有スル救命艇手		人	

本船ハ上記ノ輕減ニ依リ千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ違反スルモノニ非ズ

本認可書ハ救命設備ニ關スル限リ船舶檢査證書及安全證書ニ代リテ效力ヲ有ス

本認可書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本認可書ハ　年　月　日ヨリ　年　月　日迄效力ヲ有ス

年　月　日　ニ於テ發行ス

管海官廳印

◉船舶檢査執行地指定ノ件

（昭和十年二月）（改正昭和十六年十月）
（告示第九十四號）（告示第千六百號）

朝鮮船舶安全法令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則第七十三條ノ船舶檢査執行地ヲ昭和十年三月一日ヨリ左ノ通定ム

大正三年朝鮮總督府告示第百九十一號及大正五年朝鮮總督府告示第百三十一號ハ之ヲ廢止ス

檢査執行地

平安北道新義州府
同道龍川郡龍岩浦邑
平安南道鎭南浦府
京畿道仁川府
同道京城府
全羅北道群山府（昭和十二年七月告示第五四一號追加）
全羅南道木浦府
慶尙南道釜山府
咸鏡南道元山府
咸鏡北道淸津府
咸鏡北道羅津府（昭和十二年七月告示第五四一號追加）

◉近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域指定ノ件

（昭和十年二月）
（告示第九十五號）

朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則第五條ノ近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域ハ昭和十年三月一日ヨリ北緯五十度以北、西經百六十度以西、北緯六十五度以南ノ區域ト定ム

◉朝鮮外國船舶安全規則

（昭和十年二月）（改正昭和十年十二月）
（府令第二十一號）（府令第一五二號）

第一條　朝鮮船舶安全令第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法（以下單ニ船舶安全法ト稱ス）第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ外國船舶（朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ニ非ザル船舶以下之ニ同ジ）ニシテ同法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第二條　船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ外國船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條　左ニ掲グル規定ヲ除クノ外朝鮮船舶安全令施行規則ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

一　製造檢査ニ關スル規定
二　船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ檢査ニ關スル規定
三　朝鮮船舶安全令施行規則第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則(以下單ニ船舶安全法施行規則ト稱ス)第百五十五條乃至第百七十六條
四　外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ船舶安全法施行規則第十五章ノ規定

第四條　外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付行フ檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一　海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル國ニ屬スル船舶ニシテ同條約ノ規定ニ依ル安全證書、安全無線電信證書又ハ免除證書ヲ受有スルモノニ付テハ當該證書ヲ査閲シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤヲ確ムルニ必要ナル檢査ヲ行フ
二　國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル國ニ屬スル船舶ニシテ同條約ノ規定ニ依ル國際滿載吃水線證書ヲ受有スルモノニ付テハ當該證書ヲ査閲シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ確ムルニ必要ナル檢査ヲ行フ
(イ)　滿載吃水線ヲ超エテ載荷シ居ラザルヤ
(ロ)　滿載吃水線ガ證書ニ記載シタル位置ニ標示セラレ居ルヤ
(ハ)　乾舷ノ算定ニ影響アル船體及船樓ノ構造並ニ開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ノ通行ノ爲ノ裝置及設備ガ人命ノ安全ヲ保持スルニ不適當ナル程度迄變更ヲ受ケ居ラザルヤ
三　船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スル證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當該證書ヲ査閲シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤヲ確ムルニ必要ナル檢査ヲ行フ
四　前各號ニ該當セザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ニ付行フ檢査ニ準ジ檢査ヲ行フ第一號又ハ第二號ニ掲グル船舶ノ海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約又ハ國際滿載吃水線條約ノ適用ナキ事項ニ付亦同ジ

第五條　外國船舶ノ積量ハ左ノ各號ニ依ル

一　船舶ガ其ノ所屬地ノ當該官廳ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶檢査證書ヲ受有スルトキハ之ニ記載シタル積量ニ依ル
二　船舶ガ前號ノ證書ヲ受有セザルトキハ朝鮮船舶積量測度令ニ依リ算定シタル積量ニ依ル

管海官廳ハ帝國政府トノ間ニ船舶積量ニ關スル互認協定ナキ國ニ屬スル船舶ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮船舶積量測度令ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

附　則

第六條　本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條　朝鮮船舶安全令第五條乃至第八條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同令第五條ノ規定ハ外國船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第八條　朝鮮船舶安全令施行規則第十三條及第十五條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同規則第十六條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第九條　昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶タル旅客船又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ、昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶ニシテ同條各號ニ掲グルモノニ付テハ無線電信施設ニ關シ本令施行後三月ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

第十條　前條ノ船舶ヲ除クノ外外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ其ノ構造、設備、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ本令施行後一年ヲ限リ本令ニ依ラザルコトヲ得

附　則（昭和十年十二月二十四日）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮船舶設備規程（昭和十年二月府令第二十二號）

第一條　船舶ノ設備及屬具ニ關シテハ昭和九年遞信省令第六號船舶設備規程ニ依ル但シ同規程中船舶安全法施行地トアルハ朝鮮、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程、船燈試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、電氣工作物規程トアルハ朝鮮電氣工作物規程トス

附　則

第二條　本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條　本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇釣ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノ及從前ノ規定ニ依リ算定シタル定員ヲ以テ第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶設備規程(以下單ニ船舶設備規程ト稱ス)第五條、第八條及第九條ノ規定ニ依ル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付之ヲ適用セズ

第四條　昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニ付テハ管海官廳ニ於テ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚

卸裝置、乘艇裝置竝ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト困難ナリト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五條 本令施行ノ際現ニ沿海以下ノ航路定限ヲ有スル旅客船ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル國際航海ニ從事スル旅客船ヲ除クノ外本令施行ノ際現ニ存スル船舶ニ付管海官廳ニ於テ救命設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト困難ナリト認ムルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年內ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄救命設備ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七條 本令施行ノ際現ニ存スル船舶ノ旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅竝ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ

二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備

三 旅客定員ノ算定ニ用フル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第八條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザルモノノ居室ニ之ヲ準用ス

第九條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客船ノ舷墻又ハ欄柵ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第十條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ船舶設備規程第百二十八條又ハ第百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 本令施行後一年內ニ新ニ船舶ニ備フル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第十三條 船舶設備規程第百四十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ本令施行後二年ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備附ヲ猶豫スルコトヲ得

第十四條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

◉朝鮮船舶滿載吃水線規程

（昭和十年二月府令第二十三號）

第一條 船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ニ關シテハ昭和九年遞信省令第七號船舶滿載吃水線規程ニ依ル但シ同規程中艙口覆布試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程、舷窗試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル大正十一年遞信省令第六號舷窗試驗規程トス

附則

第二條 本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條 昭和七年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶滿載吃水線規程（以下單ニ船舶滿載吃水線規程ト稱ス）第六編ノ規定ニ適合セザル船舶ト雖モ實質上該規定ニ略適合シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ同編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

二 船舶滿載吃水線規程第百五十條ニ規定スル船樓ヲ有セザル汽船ト雖モ實質上同條ニ規定スル船樓ト略同一ノ效力アル船樓ヲ有シ且同規程第六編第六章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該汽船ガ同規程第百五十條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

三 船舶滿載吃水線規程第百五十七條、第百五十八條及第百六十二條ノ規定ニ適合セザル艙船ト雖モ實質上同條ノ規定ニ依ル構造及設備ト略同一ノ構造及設備ヲ有シ且同規程第六編第七章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ管海官廳ハ同規程第四編第二章ノ規定ニ依リ當該艙船ノ乾舷ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該艙船ガ同規程第百五十七條、第百五十八條及第百六十二條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

第四條 船舶滿載吃水線法ニ依リ船舶ニ標示シタル滿載吃水線ノ位置ハ之ヲ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス但シ同法ニ依リ汽船ニ標示シタル淡水滿載吃水線ノ位置ハ本令ニ依ル夏期淡水滿載吃水線ノ位置トス

◉朝鮮船舶區畫規程

（昭和十年二月府令第二十四號）

船舶ノ區畫及區畫滿載吃水線ノ標示ニ關シテハ昭和九年遞信省令第八號船舶區畫規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程トス

附則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル旅客船又ハ同日以前

ニ旅客船ニ變更シタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ其ノ水密區畫其ノ他ノ設備ヲ考慮シ實行スルコト不可能又ハ不適當ナリト認ムル事項ニ關シテハ本令ノ適用ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

◉朝鮮木船構造規程（昭和十年二月府令第二十五號）

木船ノ船體ニ關シテハ昭和九年遞信省令第九號木船構造規程ニ依ル但シ同規程中艙口覆布試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程、舵窓試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル大正十一年遞信省令第六號舵窓試驗規程トス

附　則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル船舶及現ニ製造中ノ船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

◉朝鮮船舶機關規程（昭和九年二月府令第二十二號）

第一條　船舶ノ機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年遞信省令第十號船舶機關規程ニ依ル但シ同規程第四條第二項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ（昭和一〇年二月府令第三八號ヲ以テ改正）

第二條　試驗機ハ管海官廳ノ適當ト認メタルモノヲ用フベシ

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

◉朝鮮漁船特殊規則（昭和十年二月府令第二十九號）

漁船ノ特殊事項ニ關シテハ昭和九年遞信農林省令漁船特殊規則ニ依ル但シ同規則中主務大臣トアルハ朝鮮總督、船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太トアルハ朝鮮、內地、臺灣又ハ樺太、船舶安全法施行規則トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則トス

附　則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮漁船特殊規程（昭和十年二月府令第三十號）

第一條　漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ニ關シテハ昭和九年遞信農林省令漁船特殊規程ニ依ル

漁船特殊規程中漁船特殊規則トアルハ朝鮮漁船特殊規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規則、木船構造規程トアルハ朝鮮木船構造規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル木船構造規程、造船規程トアルハ朝鮮造船規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル造船規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶設備規程、船舶機關規程トアルハ朝鮮船舶機關規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶機關規程トス

第二條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニシテ東ハ東經百七十五度、西ハ東經九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域內ニ於テ從業スル總噸數百噸未滿ノモノハ前條ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規程（以下單ニ漁船特殊規程ト稱ス）第三號表ニ規定スル測定機械、六分儀又ハ航海曆ヲ備ヘザルコトヲ得

附　則

第三條　本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　本令施行ノ際現ニ存スル漁船又ハ現ニ製造中ノ漁船ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ於テ新ニ漁船ニ備附クル機關ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　本令施行ノ際現ニ存スル漁船又ハ現ニ製造中ノ漁船ニ付テハ漁船特殊規程第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條　本令施行ノ際現ニ存スル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ從事スルモノニ付テハ管海官廳ニ於テ本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認ムルトキハ本令施行後二年內ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七條　本令施行ノ際現ニ存スル漁船ノ居室ニ付テハ漁船特殊規程第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八條　本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該漁船ニ備フル場合ニ限リ漁船特殊規程第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

◉朝鮮漁船特殊規則ニ依ル業務指定ノ件（昭和十年二月告示第九十六號）

朝鮮漁船特殊規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規則第三條第十號ノ業務ヲ昭和十年三月一日ヨリ左ノ通認定ス

一　定置漁業
二　定所集魚漁業
三　定所曳網漁業
四　定所敷網漁業
五　機船巾著網漁業
六　潛水器漁業
七　曳網漁業
八　敷網漁業
九　繰網漁業
十　空釣繩漁業
十一　其ノ他ノ雜種漁業

◉朝鮮船用品取締規則（昭和十年二月府令第二十六號）

船用品ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年遞信省令第十七號船用品取締規則ニ依ル但シ第四條、第五條及第三十一

條第一項ノ檢印ノ別記雛形ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品取締規則中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、遞信省管船局船舶試驗所又ハ同支所トアルハ管海官廳、船用品檢査試驗規則トアルハ朝鮮船用品檢査試驗規則、船用品ノ試驗規程又ハ船燈試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程トス

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品取締規則第三十一條第一項ノ檢印ハ別記雛形ニ依ル

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品取締規則第一條ニ規定スル船用品ハ朝鮮船用品檢査試驗規則若ハ之ニ該當スル遞信大臣、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル命令ニ依ル甲號檢印若ハ之ニ該當スル檢印又ハ本令若ハ之ニ該當スル遞信大臣、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル命令ニ依ル檢印ヲ附シタルモノナルコトヲ要ス

附　則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記雛形）

海　檢

備　考　「海檢」ノ上ニハ管海官廳所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

◉朝鮮船用品檢査試驗規則

（昭和十年二月府令第二十七號）

船用品ノ檢査及試驗ニ關シテハ大正九年遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則ニ依ル但シ同規則第六條第一項及第四項ノ檢印ノ別記雛形竝ニ別表第五號表ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品檢査試驗規則中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、遞信省管船局船舶試驗所又ハ其ノ支所トアルハ朝鮮總督府遞信局、遞信省管船局船舶試驗所又ハ其ノ支所トアルハ管海官廳、船用品取締規則トアルハ朝鮮船用品取締規則、造船規程又ハ船舶機關規程トアルハ朝鮮造船規程又ハ朝鮮船舶機關規程、船燈試驗規程、信號器試驗規程、救命器具試驗規程、防毒面試驗規程、消火器試驗規程、火災警報裝置試驗規程、舶口覆布試驗規程、錨鎖索試驗規程又ハ舷窓試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程トス

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品檢査試驗規則第六條第一項及第四項ノ檢印ハ別記雛形ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記雛形）

甲號檢印　　乙號檢印

◉朝鮮船用品試驗規程

（昭和十年二月府令第二十八號）（改正昭和十三年八月府令第一七九號）

船用品ノ規格ニ關シテハ左ノ規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、電氣工作物規程トアルハ朝鮮電氣工作物規程トス

一　大正九年遞信省令第七十六號錨鎖索試驗規程

二　大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程

三　昭和八年遞信省令第二十七號舶口覆布試驗規程

四　昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程

五　昭和九年遞信省令第二十號信號器試驗規程

六　昭和九年遞信省令第二十一號救命器具試驗規程

七　昭和九年遞信省令第二十二號消火器試驗規程

八　昭和九年遞信省令第二十三號火災警報裝置試驗規程

九　昭和九年遞信省令第二十四號防毒面試驗規程

附　則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉朝鮮私設無線電信無線電話規則

（昭和十年三月府令第三十九號）（昭和十七年府令第二七〇號改正）

第一章　總則

第一條　私設無線電信無線電話ノ施設ニ關シテハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　無線電信法第二條第三號又ハ第四號ニ於テ公衆通信ノ連絡ナキ陸地、船舶又ハ航空機トハ私設無線電信無線電話ノ機器ヲ裝置スベキ場所ガ電報直配達區域外若ハ電話加入區域外ノ陸地又ハ電信電話官署ヲ設置セザル船舶若ハ航空機ヲ謂フ

第三條　無線電信法第二條第五號ノ規定ニ依リ施設スル私設無線電信無線電話（實驗用私設無線電信無線電話）ハ無線電信無線電話ノ學術研究又ハ機器ニ關スル實驗ニ供スルモノニ限ル

第四條　無線電信法第二條第三號ノ規定ニ依リ當該電信官署ニ施設ヲ要スル私設無線電信無線電話ノ設備及維持ハ朝鮮總督府遞信局之ヲ行フ

前項ノ私設無線電信無線電話ノ施設者ハ朝鮮總督府遞信局長（以下單ニ遞信局長ト稱ス）ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ、費用ヲ負擔シ及別ニ指定スル維持料ヲ納付スベシ

第五條　私設無線電信無線電話ヲ施設セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル願書及圖面（附錄第一號樣式）ヲ朝鮮總督ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

一　施設ノ目的（施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ）

二　機器裝置場所（船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ船舶ノ名稱又ハ航空機ノ登錄記號及其ノ名稱）

三　工事設計

四　通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）

五　船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ當該船舶又ハ航空機ノ所屬、形態及航行ニ關スル事項ノ概要竝ニ定繫港又ハ定置場（朝鮮ニ於ケル主ナル碇泊港又ハ離著場ヲ定繫港又ハ定置場ト爲スベシ）

六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類及方法（實驗

者ノ履歴書及身分證明書ヲ添附スベシ）

七　落成期限

朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル書類及圖面以外ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第六條　前條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

同條第一項第五號乃至第七號ノ事項ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ

第七條　私設無線電信無線電話ノ電波ノ型式、使用周波數、呼出符號、呼出名稱及運用ニ關スル制限ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ指定ス

第八條　私設無線電信無線電話ノ施設者ノ名義ヲ變更セントスルトキハ別ニ告示スル場合ヲ除クノ外當事者ノ連署シタル願書ヲ朝鮮總督ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ相續其ノ他ノ事由ニ因リ當事者連署シ得ザルトキハ相當證明書ヲ添附スベシ

第九條　私設無線電信無線電話ノ施設ヲ許可シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ異動アリタルトキ亦同ジ

一　施設者名

二　施設ノ目的

三　機器裝置場所（船舶ナルトキハ船舶ノ名稱及定繫港、航空機ナルトキハ航空機ノ登錄記號及定置場）

四　呼出符號

五　空中線電力

六　使用電波ノ型式及周波數

七　通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）

朝鮮總督府ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ前項各號ノ全部又ハ一部ノ告示ヲ省略スルコトアルベシ

第十條　私設無線電信無線電話ノ裝置工事落成シタルトキハ速ニ之ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ

第十一條　私設無線電信無線電話ハ第七十三條ノ規定ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ交付ヲ受ケタル後ニ非ザレバ其ノ使用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第十二條　私設無線電信無線電話ノ使用ヲ開始シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ但シ無線電信法第二條第三號ノ規定ニ依リ施設シタルモノニ付テハ使用開始前七日迄ニ屆出ヅベシ

第十三條ノ規定ニ依ル使用中止ノ屆出後又ハ第七十五條第一項ノ規定ニ依ル使用停止ノ後更ニ之ガ使用ヲ開始スルトキ亦前項ニ同ジ

第十三條　私設無線電信無線電話ヲ廢止セントスルトキハ七日前ニ其ノ旨ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ私設無線電信無線電話ノ使用ヲ中止セントスルトキ亦同ジ

第十四條　私設無線電信無線電話ヲ廢止シタルトキハ直ニ空中線ヲ取外シ特ニ指示シタル場合ヲ除クノ外十日以内ニ送信裝置、受信裝置及之ニ專用ノ附屬設備ヲ撤去スベシ私設無線電信無線電話ノ施設ノ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同ジ

第十五條　第五十二條乃至第五十四條、第五十八條乃至第六十二條、第六十五條、第六十八條乃至第七十二條及第七十四條ノ規定ハ朝鮮ニ定繫港又ハ定置場ヲ有セザル船舶又ハ航空機ニ裝置シタル無線電信無線電話ニ、第二章乃至第六章ノ規定ハ朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第十四條各號ニ揭グル船舶ニ裝置シタル無線電信ニ（無線電信無線電話ニ關スル條約並ニ同條約附屬規則等ニ別段ノ規定アル事項ニ付テハ該規定ニ依ル）第五條乃至第十四條、第二章及第五章乃至第七章ノ規定ハ無線標識施設ニ之ヲ準用ス

第二章　機器及裝置

第十六條　私設無線電信無線電話ニ使用シ得ル電波ノ型式ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ七種トス（昭和十四年二月朝令第十七號改正）

一　A0電波　逐次ノ振動ガ永續ノ狀態ニ於テ同一ナル電波

本型式ノ電波ハ標準周波數ノ發射ノ如キ特殊ノ場合ノミ之ヲ使用スルモノトス

二　A一電波　純粹持續電波ニ依ル電信　電信符號ニ依ル操作スル持續電波

三　A二電波　變調電信　一箇又ハ數箇可聽周波數ニ依リ變調シタル搬送波　一箇若クハ數箇可聽周波數又ハ之等ト搬送波ト結合ハ電信符號ニ依リ之ヲ操作スルモノトス

四　A三電波　電話　音聲、音樂、其ノ外ノ音調ニ相當スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

五　A四電波　電寫　永續的ニ複寫スル爲靜止影像ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

六　A五電波　電視　靜止又ハ移動スル事物ヲ走査スルトキ發生スル周波數ニ依ル搬送波ノ變調ヨリ生ズル電波

七　B電波　振幅ガ最大ニ達シタル後漸次低減スル振動ヲ逐次ノ列ヨリ成ル電波　電波ノ列ハ電信符號ニ依リ之ヲ走査スルモノトス

前項第三號及第七號ノ電波ノ可聽周波數ハ毎秒五百「サイクル」以上ナルコトヲ要ス

第十七條　私設無線電信無線電話ノ發射電波ハ出來得ル限リ必要ナラザル電波ヲ伴ハザルモノナルコトヲ要ス

第十八條　私設無線電信無線電話ニ使用スル電波ノ周波數（單位ハ一秒時ニ於ケルキロサイクルトス以下CKヲ以テ示ス）ハ成ルベク之ヲ正確且安定ニ維持スルコトヲ要ス

第十九條　私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ハ電信、電話其ノ他ノ電線路ニ障碍ヲ及ボスベキ誘導ヲ生ゼズ且人畜又ハ物件ニ危害ヲ及ボスノ虞ナキモノナルコトヲ要ス

第二十條　私設無線電信無線電話ノ送信及受信裝置ハ周波數ノ變更及送信ヨリ受信ヘ又ハ受信ヨリ送信ヘノ切替ヲ敏速ニ行ヒ得ルモノナルコトヲ要ス

私設無線電話ニシテ公衆通信ノ用ニ供スルモノニ在リテハ同時送受話方式ナルコトヲ要ス

第二十一條 私設無線電信無線電話ノ空中線電力ハ所要通達距離ニ照シ最小ナルコトヲ要ス

第二十二條 私設無線電信無線電話ノ受信裝置ハ同調銳敏ナルモノニシテ其ノ空中線ニ誘發スル高周波電流ガ他ノ無線電信無線電話ヲ妨害セザルモノナルコトヲ要ス

第二十三條 削除（昭和十四年二月府令第十七號）

第二十四條 私設無線電信ノ送信裝置ハB電波ヲ發射セザルモノナルコトヲ要ス但シ實驗用私設無線電信又ハ船舶ニ施設スル交流發電機ノ端子ニ於ケル電力三百ワット未滿ノ私設無線電信ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ（昭和十四年二月府令第十七號一部改正）

船舶ニ施設スル施設無線電信ニシテ前項但書ノ規定ニ依ル送信裝置三七五KC四二五KC及ビ五〇〇KCノ周波數ニ限リ發射スルコトヲ得

第二十五條 私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外別表第一號ノ區別ニ依ル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノナルコトヲ要ス

船舶又ハ航空機ニ施設スル私設無線電信無線電話ノ送受信裝置ニ付テハ遞信局長ノ許可ヲ受ケ之ヲ前項ノ電波ノ型式及周波數ノ外通信上必要ナル電波ノ型式及周波數ヲ送受シ得ルモノト爲スコトヲ得

第二十六條 私設無線電信無線電話ノ裝置ニハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外避雷其ノ他ノ保安上必要ナル設備ヲ施シ且機器及其ノ裝置ノ保守上必要ナル計器及豫備品竝ニ送受信裝置及電源設備接續圖面ヲ備附クベシ

第二十七條 朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第四條第一項第一號及第二號ニ掲グル船舶（同條第二項ニ依リ無線電信ノ施設ヲ免除セラレタルモノヲ除ク 無線電信强制船舶）ニ施設スル私設無線電信ハ通信室內ニ非常燈ヲ備附クベシ

船舶ニ私設無線電信ヲ施設スル場合ハ通信室ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ電話等ノ通信設備ヲ施スベシ航空機ニ私設無線電信無線電話ヲ施設スル場合ニシテ無線通信士席ガ操縱士席ヨリ離隔スルトキ其ノ兩席間ニ付亦同ジ

第二十八條 船舶ニ施設スル私設無線電信無線電話ニシテ一五〇KC以下ノ周波數又ハ四〇〇〇KC以上ノ周波數ヲ發射シ得ル裝置ヲ有スルモノニ在リテハ少クトモ千分ノ五ノ確度ヲ有スル周波數計又ハ之ニ相當スルモノヲ備附クルコトヲ要ス但シ送信裝置ニシテ千分ノ五以上ノ確度ヲ有スルモノニ在リテハ此ノ限リニ非ズ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

第二十九條 私設無線電信無線電話ノ施設者ハ通信室內ニ正確ナル時計（無線電信强制船舶ニ在リテハ秒針ヲ有スルモノナルコトヲ要ス）ヲ備附クベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者ハ無線通信士ヲシテ前項ノ時計ヲ毎日一回以上グリニッヂ標準時ニ照合セシムベシ

第三十條 無線電信强制船舶ニ施設スル私設無線電信ノ主送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ於テ空中線電力七十五ワット以上ナルカ又ハ書間百九十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 船舶ニ施設スル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ノ條件ニ適合スル補助設備ヲ裝置スベシ

一 獨立ノ電源ヲ有スルコト

二 獨立ノ高電壓發生裝置ヲ有スルコト

三 連續シテ六時間以上使用シ得ルコト

四 送信裝置ハA二若ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ於テ空中線電力五十ワット以上ナルカ又ハ書間百五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト但シ無休ノ聽取ヲ要セザルモノニ付テハ空中線電力二十五ワット以上ナルカ又ハ書間九十五キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコトヲ得

五 受信裝置ハA二又ハB電波五〇〇KCノ周波數ヲ受信シ得且鑛石檢波ノ方式ニ依リテモ受信シ得ルコト

六 直ニ全能力ヲ以テ使用シ得ルコト

前項ノ補助設備ハ最高滿載吃水線上成ルベク高ク船舶ノ上部安全ナル位置ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

主裝置前二項ニ規定スル條件ヲ具備スルトキハ補助設備ハ之ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十二條 無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スル私設無線電信ニシテ公衆通信ノ用ニ供セザルモノニ付テハ遞信局長ニ於テ船體ノ構造上補助設備ヲ裝置スルコトヲ不適當ト認メタル場合ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラズ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得

第三十三條 朝鮮船舶設備規程ニ依リ總噸數五千噸以上ノ旅客船ニ裝置スル無線方位測定機ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二 二八五KC乃至五一五KCノ周波數帶ニ於テ成ルベク正確ニ眞方位ヲ測定シ得ルコト

三 良好ナル感度ヲ有スルコト

前項ノ無線方位測定機ヲ航海船橋又ハ通信室以外ノ場所ニ裝置シタル場合ハ其ノ裝置場所ト航海船橋トノ間ニ送話管又ハ電話等ノ通信設備ヲ施スベシ

無線方位測定機ノ較正曲線ハ裝置後速ニ之ヲ作製シ遞信局長ニ提出スベシ

第三十四條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ裝置スル警急自働受信機ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト

二 警急符號ニ依リ起動シタルトキハ航海船橋、通信室及主任無線通信士室ニ備付ノ可聽警報裝置ヲ連續的ニ動作セシメ之ガ停止ハ通信室ニ備附ノ開閉器ニ依リテノミ爲シ得ルコト

第三十五條 朝鮮船舶設備規程ニ依リ船舶ニ備フル救命艇ニ裝置スル無線電信設備ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 A二又ハB電波五〇〇KCノ周波數ニ依リ送受シ得ルコト

二　連續シテ三時間以上使用シ得ルコト

三　送信裝置ハ空中線電力十ワット以上ナルカ又ハ晝間五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト

四　受信裝置ハ眞空管式ニシテ且鑛石檢波器ニ切替ヘ使用シ得ルコト

五　機器ハ機械的振動ニ堪フルコト

六　操艇ノ爲送受信ニ妨害ヲ受ケザルコト

七　有效ナル蔽圍設備ヲ有スルコト

第三十五條ノ二　本章ニ規定スル私設無線電信無線電話ノ機器及裝置並ニ其ノ附屬具ノ具備スベキ條件ノ細目ニ關シテハ別ニ之ヲ告示ス

○告示第七百六十二號（昭和十四年九月十九日）

私設無線電信無線電話規則第三十五條ノ二ノ規定ニ依ル私設無線電信電話ノ機器及裝置並ニ附屬具ノ具備スベキ條件ノ細目左ノ通定メ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一　通則

一　私設無線電信無線電話ノ機器及裝置並ニ附屬具ノ細目ニ關シテハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外本告示ノ定ムル所ニ依ルコト

二　發射電波ハ高周波、寄生振動、「キークリック」其ノ他出來得ル限リ必要ナラザル電波ヲ伴ハザルモノナルコト

三　私設無線電信ノ機器ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外一分間和文八十五文字、歐文二十五語以上ヲ送受シ得ルモノナルコト

四　導線ハ振動回路、特殊回路及特ニ許可又指定スルモノヲ除クノ外鉛被ゴム線又ハ之ト同等以上ノ性能ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ受信裝置及空中線ニ供給セラルル電力（以下空中線電力ト稱ス）十「ワット」以下ノ送信裝置ニ在リテハ此ノ限ニ在ラザルコト

五　機器ノ絶縁ハ正規動作狀態ニ於テ長時間使用スルモ十分良好ナルモノナルベク其ノ絶縁抵抗ハ直流五百ボルトニテ測定シ

$$\text{絶縁抵抗（メグオーム）} = \frac{\text{測定電壓（ボルト）}}{\text{絶縁抵抗（キロオームヲ以テ表ハシタル値）} + 1000}$$

以上ニシテ且成ルベク一メグオーム以上ナルコト機器相互間ノ配線ノ絶縁ニ付亦之ニ準ズルコト

六　空中線及「カウンターポイス」ノ絶縁抵抗ハ直流五百ボルトニテ測定シ十メグオーム以上、饋電線ノ絶縁抵抗ハ百メートルニ付線間十メグオーム以上、片線地氣間ハ五メグオーム以上ナルヲ要シ使用狀態ニ於テ十分良好ナルモノナルコト

七　私設無線電信（實驗用及簡容機ニ施スルモノヲ除ク）ノ通信方式ハ成ルベク「ブレクイン」式又ハ之ト同等以上ノ通信能力ヲ有スルモノナルコト

「ブイークイン」式ニシテ「ブレークインリレー」ヲ使用スルモノニ在リテハ容易ニ豫備「ブレークインリレー」ニ切替使用シ得ル如ク設備スルコト

八　送受信裝置ハ內部ノ點檢及眞空管ノ取替ヲ容易ニ爲シ得ル構造ノモノナルコト

九　眞空管式送信機ノ發振回路ト空中線回路トハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外各獨立ノ振動回路ニシテ靜電的又ハ電磁的ニ結合シタルモノナルコト

十　送信機ノ電力ハ空中線電力百ワット以下ノモノヲ除クノ外其ノ規定電力ノ約五十パーセント迄容易ニ調整シ得ルモノナルコト但シ特ニ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

十一　水晶制御式送信機ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外自勵發振ヲモ行ヒ得ルモノナルコト

十二　送信裝置ハ各送信周波數帶內ニ於ケル呼出電波ト通信電波トノ切替ヲ成ルベク無線通信士席ニ著席ノ儘一操作ニ依リ迅速ニ行ヒ得且一周波數帶ヨリ他ノ周波數帶ヘノ切替ヲ成ルベク迅速ニ行ヒ得ルモノナルコト

十三　送信裝置ヲ無線電信及無線電話ニ共用スル場合ニハ容易且迅速ニ切替ヘ得ル裝置ヲ設クルコト

十四　機器裝置ニハ保安上必要ナル左ノ裝置ヲ設備スルコト

(一)　空中線ニハ避雷器及空中線接地裝置

(二)　電源回路ニハ可鎔片、遮斷器等必要ナル裝置

(三)　高壓箇所ニハ人畜ニ危害ヲ及ボス虞ナキ樣適當ナル裝置

(四)　水冷式眞空管ヲ使用スルモノニ在リテハ冷却裝置ノ障碍ヲ報ズル裝置

(五)　其ノ他必要ナル裝置

第二　船舶ニ施設スル私設無線電信電話

一　機器及裝置ノ設置場所ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコト但シ船體ノ構造上已ムヲ得ザルモノハ此ノ限ニ在ラザルコト

(一)　上甲板以上ニシテ海水、蒸氣等ノ浸入スルコトナク且船舶機關其ノ他ニ依ル震動又ハ騷音ノ爲受信ヲ困難ナラシムル虞ナキコト

(二)　機器ノ操作、點檢及修理上必要ナル廣サヲ有シ且船體ノ動搖其ノ他ノ原因ニ因リ機器ノ動作ニ狂ヒヲ生ゼザルコト

二　補助裝置ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外二分以內ニ全能力ヲ以テ使用シ得ルモノナルコト

三　發射電波ノ周波數許容偏差ノ標準ハ左表ノ通ナルコト

周波數帶	偏差 送信裝置（昭和十九年一月一日以後ハ第二欄ニ依ル）第一欄	偏差 送信裝置（昭和十五年一月一日以後新設ノ送信裝置）第二欄
一〇—五五〇KC	〇・五%	〇・一%
一一〇—一六〇KC	〇・五%(1)	〇・三%(1)
三六五—五一五KC		
五五〇—一五〇〇KC	〇・五%	〇・一%
一六五〇—四〇〇〇KC	〇・一%(2)	〇・〇五%(2)
四〇〇〇—六〇〇〇KC	〇・〇五%	〇・〇三%
四一一五—四一六五KC	〇・一%(1)	〇・〇五%(1)
五五〇〇—五五五〇KC		
六〇〇〇—三〇〇〇〇KC	〇・〇五%	〇・〇三%

六二〇〇— 六二五〇KC		
八二三〇— 八三三〇KC		
一一〇〇〇—一一一〇〇KC	○・一%(1)	○・〇五%(1)
一二三四〇—一二五〇〇KC		
一六四六〇—一六六六〇KC		
二二〇〇〇—二二二〇〇KC		

註(1) 十分時ノ發射中ニ於ケル周波數偏差トス

(2) 空中線電力百ワット以下ノ送信裝置ヲ除ク

四 同一送信裝置ニ依リ各種ノ電波ノ型式及周波數ヲ發射スルモノニ在リテハ其ノ空中線電力ハ左ノ通ナルベキコト

(一) 三六五KC乃至五一五KCノ間ニ於テ數箇ノ周波數ヲ發射スルモノニ在リテハA二又ハB電波五〇〇KCニ於ケル空中線電力ヲ以テ該裝置ノ代表空中線電力ト看做シ他ノ周波數ニ於ケル空中線電流ハ五〇〇KCニ於ケル空中線電流ノ八十五パーセント（電波ニ發射スルモノニ在リテハ八十パーセント）以上ナルコト

(二) 一一〇KC乃至一六〇KCノ間ニ於テ數箇ノ周波數ヲ發射スルモノニ在リテハA一電波一四三KCニ於ケル空中線電力ヲ以テ該裝置ノ代表空中線電力ト看做シ他ノ周波數ニ於ケル空中線電流ハ一四三KCニ於ケル空中線電流ノ八十五パーセント以上ナルコト

(三) 三百噸未滿ノ船舶ニ施設スルモノニシテ一三六四KCヲ主トシテ使用スルモノニ在リテハ該周波ノA二又Bハ電波ニ於ケル空中線電力ヲ以テ該裝置ノ代表空中線電力ト看做シ五〇〇KCニ於ケル空中線電流ハ一三六四KCニ於ケル空中線電流ノ五十パーセント以上ナルコト

(四) 大型船舶ニシテ五一五KC以下ノ周波數ノ外一三六四KCヲ發射スルモノニ在リテハ一三六四KCニ於ケル空中線電流ハ五〇〇KCニ於ケル空中線電流ノ五十パーセント以上ナルコト

(五) 四〇〇〇KC乃至三〇〇〇〇KCノ間ニ於テ數箇ノ周波ヲ發射スルモノニ在リテハ該發射電波ノ中A一電波ノ最小周波數ニ於ケル空中線電力ヲ以テ該裝置ノ代表空中線電力ト看做シ周波數ニ於ケル空中線電力ハ最小周波數ニ於ケル空中線電力ノ五十パーセント以上ナルコト

五 送信裝置ニハ保守上必要ナル左ノ計器ヲ設備スルコト但シ共用ヲ妨ゲザルコト

(一) 電源用電壓計及電流計

(二) 蓄電池充放電用電流計

(三) 發電機用電壓計及電流計

(四) 空中線用電流計

(五) 送信用眞空管ノ陽極用電壓計及電流計

交流電源ヲ使用スルモノニシテ變壓器低壓側電壓ヲ測定シ陽極電壓ヲ推定シ得ルモノニ在リテハ陽極用電壓計ヲ省略スルコトヲ得

(六) 送信用眞空管ノ纖條用電壓計又ハ電流計

(七) 其ノ他必要ナル計器

六 保守上必要ナル左ノ物品ヲ備附スルコト

(一) 携帶用直流電壓計又ハ回路試驗器 一箇

(二) 比重計 一箇

(三) 修繕用器具及材料 一式

七 左ノ豫備品ヲ備附クルコト

(一) 送信用眞空管 一組以上

(二) 送信用平滑蓄電器

(三) 送信用阻止蓄電器 } 現用數ノ三分ノ一以上

(四) 送信用グリッド蓄電器

(五) 送信用グリッドリーク

(六) 送話器 一箇以上

(七) 水晶發振子 現用數ト同數以上

(八) 受信用眞空管 二組以上

(九) 受信用低周波變壓器

(十) 受信用高抵抗 } 現用數ノ三分ノ一以上

(十一) 受信用固定蓄電器

(十二) 受話器 一箇以上

(十三) 鑛石檢波器 一箇以上

(十四) 受信用電池 一組以上

(十五) 電鍵 一箇以上

(十六) ブレークインリレー 現用數ト同數以上

(十七) 空中線用碍子 現用數ノ二分ノ一以上

(十八) 空中線用纖條 現用數ノ五分ノ一以上

(十九) 電動發電機用刷子、軸承金物等 各種一組以上

(二十) 蒸溜水 十八リットル以上

(二十一) 稀硫酸 十八リットル以上

(二十二) 其ノ他必要ナル豫備品

八 無線電信ノ施設ヲ强制セラレザル小型船舶ニ施設スル私設無線電信電話ニシテ航行ノ安全ニ備フルヲ以テ其ノ施設ノ目的ト爲サザルモノニ付テハ前三號ニ拘ラズ左ニ依ルコトヲ得ルコト

(一) 保守上必要ナル計器

計器	空中線電力 五ワット以下	空中線電力 百ワット以下
空中線用電流計	一	一
發振眞空管陽極用電流計	—	一
變調眞空管陽極用電流計	—	一
纖條用電壓計	一	一
陽極用電壓計	一	一

備考

(イ) 空中線電力五ワット以下ノモノニ在リテハ空中線電流計ハ發光管其ノ他電波ノ發射狀態ヲ表示シ得ルモノヲ以テ代フルコトヲ得

(ロ) 發振眞空管陽極用電流計及變調眞空管陽極用電流計ハ切替使用シ得ル一箇ノ電流計ヲ以テ代フルコトヲ得

(ハ) 陽極用電壓計及繊條用電壓計ハ切替使用シ得ル一箇ノ電壓計ヲ以テ代フルコトヲ得

(二) 保守上必要ナル物品及豫備品

(イ) 修繕用器具及材料 一式

(ロ) 送信用眞空管 一組以上

(ハ) 送話器 一箇以上

(ニ) 水晶發振子 現用數ト同數以上

(ホ) 受信用眞空管 一組以上

(ヘ) 受話器 一箇以上

(ト) 鑛石檢波器 一箇以上

(チ) 乾電池 現用數ト同數以上

(リ) 空中線用諸材料 現用數ノ五分ノ一以上

(ヌ) 電動發電機用刷子、軸承金物等 各種一組以上

(ル) 蒸溜水 二リツトル以上

(ヲ) 稀硫酸 二リツトル以上

第三 航空機ニ施設スル私設無線電信電話（省略）

第三章 無線通信士

第三十六條 私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事スル者ハ之ヲ無線通信士ト稱シ無線通信士資格檢定規則ニ依リ相當資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス但シ實驗用私設無線電信無線電話又ハ無線電信法第二條第六號ノ規定ニ依リ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル私設無線電信無線電話ノ通信ニ從事スル者又ハ之ニ準ズベキ者ニシテ特ニ遞信局長ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

外國各港間ノミヲ航行スル船舶其ノ他外國ニ在ル船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ前項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザル特殊ノ事由アルモノハ遞信局長ノ認可ヲ得テ朝鮮ノ目的港ニ到著スル迄國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則第十條ノ規定ニ依リ外國主管廳ニ於テ交付シタル第一級、第二級又ハ特別證明書ヲ所持スル者ヲシテ無線通信士通格檢定規則ニ規定スル第一級、第二級又ハ第三級ノ資格ヲ有スル者ノ爲シ得ル通信ニ從事セシムルコトヲ得外國ニ在ル航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ付又同ジ

第三十七條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第一種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ一年以上、通信執務時間第二種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ六月以上船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者ナルコトヲ要ス

第三十八條 航空機ニ施設シタル私設無線電信ノ主任無線通信士ハ航空機無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シタル者又ハ航空機ニ乘務シタル經歷アルモノナルコトヲ要ス

第三十九條 私設無線電信無線電話ニ配置スベキ無線通信士ノ資格及員數ニ付テハ之ヲ指定スルコトアルベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ

外別表第二號ニ依リ無線通信士ヲ配置スベシ

第四十條 私設無線電信無線電話ノ施設者無線通信士ヲ選任又ハ解任シタルトキハ其ノ都度附錄第二號樣式ニ依リ之ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ但シ選任ノ場合ハ身分證明書（實驗用私設無線電信無線電話ニ限ル）、履歷書、體格檢査證書及無線通信士資格檢定合格證書寫ヲ添附スベシ

第四十一條 遞信局長ハ私設無線電信無線電話ノ無線通信士ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ之ガ解任ヲ命ズルコトアルベシ

第四十二條 無線通信士ハ第六章ニ規定スル檢定官吏ヨリ其ノ資格檢定合格證書ノ呈示ヲ求メラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ呈示スベシ

第四章 通信執務時間及聽取時間

第四十三條 私設無線電信無線電話ノ通信執務時間ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ依ルベシ（附和十三年七月府令第百四十八號 昭和十四年二月府令第十七號改正）

一 船舶ニ施設スル私設無線電信

第一種 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員二百人以上ノモノニ施設シタル私設無線電信 無 休

第二種甲 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員百人以上二百人未滿ノモノ又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ施設シタル私設無線電信 一日十六時間

第二種乙 公衆通信ヲ取扱ヒ第一種又ハ第二種甲及第三種ニ該當セザルモノ又ハ無線電信强制船舶ニシテ第一種及第二種甲ニ該當セザルモノ 一日八時間

第三種 總噸數三百噸未滿ノ漁船ニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ又ハ公衆通信ヲ取扱ハザルモノニシテ第二種乙ニ該當セザルモノ 不定

二 其ノ他ノ私設無線電信無線電話

特ニ指定スル時間

私設無線電信無線電話ニ於テ必要アルトキハ通信執務時間外ニ於テモ臨時通信ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第二種ニ屬スルモノニ在リテハ通信執務時間割ニ拘ラズ成ルベク當該船舶ノ入港前六時間以上連續執務スベシ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

船舶ニ施設シタル私設無線電信ニシテ通信執務時間第三種ニ屬スルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中每日午前九時及午後五時ヨリ各三十分間五〇〇〇CKノ周波數ニ依リ成ルベク聽取スベシ

船舶ニ施設シタル私設無線電話（當該船舶ニ無線電信ノ施設ヲ

總噸數五千噸以上ノ船舶ニシテ旅客定員百人以上ノモノニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ

スル區別ニ依ルベシ

（附條約附屬一般無線通信規則附錄第六號表ニ規定スル區別ニ依ル）

有スルモノヲ除ク）ハ當該船舶航行中毎日午前九時及午時五時ヨリ各十五分間一六五〇〇CKノ周波數ニ依リ成ルベク聽取スベシ

第四十四條ノ二 航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ハ當該航空機航行中毎時十五分及四十五分ヨリ各三分間三三三〇〇CKハ六二一〇〇CKノ周波數ニ依リ成ルベク聽取スベシ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

第四十五條 無線電信强制船舶ニシテ總噸數三千噸以上ノ旅客船又ハ總噸數五千五百噸ヲ超ユル旅客船ニ非ザル船舶ニ施設シタル私設無線電信（通信執務時間第一種ニ屬スルモノヲ除ク）ハ當該船舶航行中通信執務時間ニ該當セザル時間（聽取時間）ニ於テ無線通信士又ハ警急自働受信機ニ依リ五〇〇〇CKノ周波數ヲ以テ聽取ヲ爲スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽取中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽取ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五章　運用

第四十六條 私設無線電信無線電話ノ使用ハ左ノ各號ニ從フコトヲ要ス但シ船舶又ハ航空機ノ遭難通信、海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全上緊急ノ性質ヲ有スル通信（緊急通信）及航行上ノ危險警戒ニ必要ナル通信（安全通信）ニ關スル場合並ニ船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ報時、氣象報、水路告示、傳染病情報其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全ニ必要ナル事項ニ關スル一般艦船又ハ航空機宛公報ノ放送ヲ受信スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　無線電信無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノノ使用ハ航行中ニ限ルコト

三　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ他ノ無線電信無線電話ノ通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

第四十七條 實驗用私設無線電信無線電話ニ依ル機器ノ實驗ニハ擬似空中線回路ヲ使用スベシ但シ特ニ電波（B電波ヲ除ク）ノ發射ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話ニ依ル發信ヲ再送信スルコトヲ得ズ

第四十九條 實驗用私設無線電信無線電話ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信無線電話トノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ他ノ實驗用ノ無線電信無線電話トノ間ニ自己又ハ對手ノ施設者名、機器裝置場所、裝置方式、空中線電力、使用周波數、感度又ハ實驗時刻ヲ照覆スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

前項但書ノ規定ニ依ル通信ニハ秘密ノ意義ヲ有スル語辭ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五十條 私設無線電信無線電話ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキニ限リ其ノ施設者ニ於テ之ヲ施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ妨ゲズ

一　遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ニ關シ他ノ無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

二　氣象若ハ時刻ノ承合、方位測定又ハ機器調整ノ爲他ノ無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

三　無線電信機又ハ無線電話機ヲ裝置スル電信官署又ハ電話官署ノ指示ニ從ヒ之ト交信ヲ必要トスルトキ

四　軍事通信ノ必要ニ依リ軍用無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

五　漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ於テ漁業監督官廳用船舶無線電信無線電話ヨリ漁業監督事務上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキ

六　道所屬水産事業指導用無線電信無線電話ト漁船ニ施設シタル私設無線電信無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

前項第四號ニ規定スル海軍無線電信トノ間ノ交信ハ別ニ告示スル海軍無線通信規約ニ準據スベシ

第五十一條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ノ補助設備及警急自働受信機ノ運用ニ關シテハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

一　補助設備ニ付テハ當該船舶ノ航行中毎日一回直ニ其ノ全能力ヲ以テ使用シ得ル狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

二　警急自働受信機ニ依リ聽取ヲ行フモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日一回其ノ機能ヲ試驗スルコト

三　警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ爲サントスルトキハ之ヲ空中線ニ接續シテ其ノ機能ヲ試驗シ可働狀態ニ在ルコトヲ確ムルコト

四　前各號ノ事項ニ付テハ其ノ都度之ヲ船長又ハ船橋ニ於ケル當直職員ニ通知スルコト

第五十二條 私設無線電信無線電話ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外グリニッヂ標準時ニ依ル毎時ノ十五分及四十五及ヨリ三分間（沈默時間）B電波ニ依ル一切ノ發信及其ノ他ノ電波ニ依ル四八〇〇CK乃至五二〇〇CKノ周波數ノ發信ヲ爲スベカラズ

船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中其ノ通信執務時間及聽取時間ヲ通ジ沈默時間中五〇〇〇CKノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ

船舶無線電信ト交信スルノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタル私設無線電信ハ沈默時間中五〇〇〇CKノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ當該時間ガ通信執務時間外ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 船舶ニ施設シタル私設無線電信ハ當該船舶ノ航行中前條第二項ノ規定ニ依ルノ外通信執務時間中五〇〇〇CKノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條ノ二 五〇〇〇CKヲ超エザル間隔ヲ有スル周波數ヲ使用スル陸上無線電信ノ通達距離内ニ在ル私設無線電信ハ第四十四條及前二條ノ規定ニ依ル五〇〇〇CKノ周波數聽守上注意スルコトヲ要ス

第五十四條 電信官署ヨリ無線電信ニ依リ私設停信符號――――ヲ發信シタルトキハ更ニ私設復信符號――――ヲ發信スル迄又電話官署ヨリ無線電話ニ依リ「私設

停止」ヲ發信シタルトキハ更ニ「私設解除」ヲ發信スル迄其ノ通達距離内ニ於ケル總テノ私設無線電信無線電話ニ依ル通信ヲ停止スベシ

第五十五條 前條ノ規定ハ緊急ノ際ニ於テ軍用無線電信無線電話ヨリ同樣ノ發信ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外通信ノ區別ニ從ヒ別表第三號ニ依ルベシ

第五十七條 私設無線電信ノ通信ハモールス符號ニ依リ其ノ方法ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ遵フベシ

一 呼出ヲ爲サントスルトキハ之ニ先立チ受信機ヲ最良ノ感度ニ調整シ他ノ通信中ナリヤ否ヤヲ確ムベシ若シ通信中ナルトキハ其ノ終了後ニ非ザレバ呼出ヲ爲スベカラズ

二 呼出ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 對手(被呼者)呼出符號　三回以下
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　三回以下

三 應答ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ但シ直ニ通信事項ヲ受信シ得ザル特殊ノ事由アルトキハ可送符號ニ代フルニ可待符號‐——‐‐‐‐及概定可待時間ヲ送信スベシ

(イ) 對手(呼出者)呼出符號　三回以下
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　一回

(ニ) 可送符號——‐‐　一回

四 第二號ノ呼出ヲ爲スモ被呼者ノ應答ナキトキハ二分間以上ノ間隔ヲ以テ更ニ二回呼出ヲ爲シ尙應答ナキトキハ十五分間(航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ在リテハ五分間)以上ヲ經タル後ニ非ザレバ再ビ其ノ呼出ヲ爲スベカラズ

五 自己ノ通達距離内ニ在ル無線電信ヲ探呼セントスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 探呼符號——‐‐——‐‐——‐‐——　三回以下
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　三回以下
(ニ) 可送符號——‐‐　一回

六 被呼者ノ應答アリタルトキハ直ニ所要ノ通信ヲ開始シ其ノ終ニ左ノ符號ヲ送信スベシ

(イ) 終信符號(和文)——‐‐‐‐　一回
(ロ) 自己呼出符號(歐文)——‐‐‐‐　一回
(ハ) 可送符號——‐‐　一回

七 被呼者通信ヲ了解シタルトキハ直ニ解信符號‐——‐‐ヲ送信スベシ

八 相互ノ通信完了シタルトキハ互ニ結了符號‐‐‐——‐‐——及呼出符號ヲ交換スベシ

九 實驗用私設無線電信ノ通信ニシテ對手者ノ呼出ヲ必要トセザルモノニ在リテハ先ヅ自己ノ發射セントスル周波數及他ノ必要ト認ムル周波數ニ依リ一應聽取シ他ノ通信ヲ妨ゲザルコトヲ確メタル後左ノ符號ヲ順次送信シタル上更ニ一分間聽守ヲ行ヒ他ノ無線電信無藝電話ヨリ停止ノ要求ナキ場合ニ限リ調整符號‐‐‐——ノ發信ヲ開始シ其ノ終ニ自己呼出符號ヲ送ルベシ此ノ場合ニ於テ調整符號‐‐‐‐——ノ發信ハ十秒間ヲ超ユベカラズ私設無線電信ノ裝置工事又ハ周波數測定若ハ機器調整ノ爲發信ヲ必要トスル場合又同ジ

(イ) 實驗符號‐——‐‐‐‐——　三回
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　三回

第五十七條ノ二 航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ呼出符號ハ通信連絡成リタル後左ノ略符號ヲ以テ自己呼出符號ニ代フコトヲ得(昭和十四年二月府令第十七號改正)

一 無線電信ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字

二 無線電話ニ依ルトキハ呼出符號ノ最後ノ二文字又ハ呼出名稱

第五十七條ノ三 私設無線電信無線電話ニ依リ遭難通信、安全通信及第六十二條ノ二ノ規定ニ依ル通信ヲ爲ストキハ左ノ區別ニ依ル電波ヲ使用スルコトヲ要ス(昭和十四年二月府令第十七號改正)

一 船舶ニ施設シタルモノ又ハ船舶無線電信電話ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二又ハB電波五〇〇KC
無線電話　A三電波一六五〇KC

二 航空機ニ施設シタルモノ又ハ航空機無線電信無線電話ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタルモノ

無線電信　A二電波三三三KC又ハ六二一〇KC
無線電話　A三電波三三三KC又ハ六二一〇KC

第五十八條 私設無線電信ニ依リ遭難通信ヲ發信スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シ引續キ遭難ノ船舶又ハ航空機ノ名稱、位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ傳送スベシ(昭和十四年二月府令第十七號改正)

(イ) 遭難符號‐——‐‐——‐‐——‐‐——　三回
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　三回

前項ノ遭難通信ニハ特ニ必要ナシト認メタル場合ヲ除クノ外警急符號(十二長點ヨリ成リ各長點ノ長サハ四秒時、兩長點ノ間隔ハ一秒時トス)ヲ前置スベシ此ノ場合ニ於テハ事情ノ許ス限リ該符號ト遭難符號トノ間ニ二分間ノ間隔ヲ置クコトヲ要ス

第五十九條 私設無線電信ニ於テ遭難通信ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ他ノ一切ノ通信ヲ中止シテ該遭難通信ヲ受信シ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外應答傍受其ノ他遭難通信ノ爲最善ノ措置ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ應答スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 對手呼出符號　三回
(ロ) 前置符號——‐‐‐‐　一回
(ハ) 自己呼出符號　三回
(ニ) 解信符號‐——‐‐　三回

（ホ）遭難符號・・・―――・・・　一回

第六十條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ當該船舶又ハ航空機ノ遭難ニ際シ其ノ位置判明セザルトキハ無線方位測定機ヲ有スル他ノ無線電信ヲシテ位置ヲ測定スルヲ得シムル爲事情ノ許ス限リ自己ノ呼出符號ヲ連續送信スベシ

第六十一條　船舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ緊急通信ヲ爲ス爲他ノ無線電信ヲ呼出サントスルトキハ其ノ呼出ノ前ニ緊急符號―・・―　―・・―　―・・―ヲ三回送信スベシ

私設無線電信ニ於テ前項ノ規定ニ依ル發信ヲ認メタルトキハ直ニ一切ノ通信ヲ中止シ少クトモ三分間繼續聽取スベシ此ノ場合ニ於テハ緊急通信行ハレザルカ又ハ該通信ガ終了シタルコトヲ確認シタル後ニ非ザレバ再ビ通信ヲ開始スルコトヲ得ズ

第六十二條　私設無線電信ニ依リ安全通信ヲ發信セントスルトキハ該通報ヲ入手シタル卽刻（沈默時間中ナルトキハ其ノ終末ニ）左ノ符號ヲ順次送信シタル上通報ノ種類（例氷、遺棄物、暴風雨等）ヲ冠シ該通報ヲ二回送信シ次ノ沈默時間ノ終末ニ於テ更ニ之ヲ二回送信スベシ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

一　安全符號―　―　―　三回

二　前置符號―・・・　一回

三　自己呼出符號　三回

私設無線電信ニ於テ前項ノ規定ニ依ル發信ヲ認メタルトキハ其ノ發信中總テノ通信ヲ中止スベシ

第六十二條ノ二　船舶ニ施設シタル私設無線電信ニ於テ醫師ノ乘組メル船舶ニ設置シタル電信官署ヲ探呼セントスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ（昭和十三年六月府令第百二〇號追加同十四年二月府令第十七號改正）

一　醫療符號―――・・―――・・　三回

二　前置符號―・・・　一回

三　自己呼出符號　三回

四　可送符號―・―　一回

第六十三條　前六條ノ規定ハ私設無線電話ニ依ル通信ニ之ヲ準用ス但シ左ノ各號ノ符號ハ之ヲ各下記ノ語辭ニ代フベシ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

一　遭難符號　「メーデー」又ハ「遭難」

二　緊急符號　「パン」又ハ「緊急」

三　安全符號　「セキュリテ」又ハ「警報」

四　醫療符號　「醫療」

五　前置符號　「コチラハ」

第六十四條　私設無線電話ハ遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲ス場合ニ限リ特ニ必要トスル電力又ハ電波ノ型式若ハ周波數ノ使用ヲ妨ゲズ

第六十五條　私設無線電信ニ依リ遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲ス場合送信速度ハ原則トシテ一分時ニ和文ニ付テハ七十字、歐文ニ付テハ十六語ヲ超エザルコトヲ要ス

第六十五條ノ二　第三十一條ニ依ル補助設備ニシテB電波ヲ發射スルモノノ使用ハ左ノ場合ニ限ル（昭和十四年二月府令第十七號追加）

一　遭難通信ヲ行フトキ

二　主送信裝置故障ノ爲使用シ得ザルトキ

三　第五十七條第九號ニ依ル發信ニシテ特ニ電波ノ發射ヲ必要トスルトキ

第六十六條　船舶ニ施設シタル私設無線電信電話官署ノ通達距離内ニ入リタルトキハ當該電信官署ヨリノ自己ノ概略方位、距離及進行方位ヲ通知スベシ其ノ通達距離ヲ去ラントスルトキ亦同ジ

第六十七條　私設無線電信無線電話ハ船舶又ハ航空機ニ施設シタル無線電信無線電話ヨリ機器調整上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキハ支障ナキ限リ他ノ通信ニ妨害ヲ與ヘザルコトヲ確メタル上之ニ應ズベシ

第六十八條　朝鮮總督ハ特ニ指定シタル無線通信監視局ヲシテ私設無線電信無線電話ノ使用ノ適否及電信ノ秩序ニ關シ之ヲ監視セシム

第六十九條　朝鮮總督ハ無線通信監視局ヲシテ公衆通信上、軍事上又ハ無線電信無線電話混信防遏上ノ必要ニ應ジ私設無線電信無線電話ニ對シ其ノ使用電力、電波ノ型式、周波數又ハ交信ノ順位、速度ヲ指示セシメ其ノ他臨機ノ措置ヲ命ゼシムルコトアルベシ

第七十條　無線通信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ直接當該無線通信士ニ對シ其ノ通信ヲ停止セシム

第七十一條　無線電信監視局ニ於テ私設無線電信無線電話ノ通信ニ關シ前二條ノ規定ニ依リ必要ナル通信ヲ發スルトキハ自局呼出符號ニ無線通信監視符號・――――――――・（無線電信ニ依ル場合）又ハ「監視」（無線電話ニ依ル場合）ヲ冠シ一般通信ト之ヲ區別ス

第七十二條　私設無線電信無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ機器、附屬具ノ除却ニ關シ直接當該從事者ニ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ別ニ其ノ旨ヲ當該施設者ニモ通知ス

第六章　檢查

第七十三條　遞信局長第十條、第四十條又ハ第七十五條第二項ノ規定ニ依ル屆出ヲ受ケタルトキハ檢查官吏ヲ派遣シ機器及其ノ裝置竝ニ無線通信士ノ資格及員數ヲ檢查セシメタル上檢定證書ヲ交付ス但シ特ニ必要ナシト認ムルトキハ檢查ヲ省略スルコトアルベシ

前項ノ檢查官吏ニ於テ當該私設無線電信無線電話ノ使用開始上特ニ必要アリト認ムルトキハ直ニ假檢定證書ヲ交付ス

第七十四條　遞信局長ハ隨時檢查官吏ヲ派遣シ私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置、無線通信士ノ資格及其ノ員數、運用狀況竝ニ關係書類等ヲ檢查セシム

第七十五條　檢查官吏私設無線電信無線電話ノ機器及其ノ裝置ガ制規ノ條件若ハ許可ヲ得タル工事設計ニ適合セザルコトヲ認メ又ハ其ノ無線通信士ガ制規ノ資格若ハ員數ニ適合セザルコトヲ認メタルトキハ遞信局長ハ當該無線電信無線電話ノ施設者（船

舶又ハ航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ニ在リテハ其ノ施設者又ハ當該船舶ノ船長若ハ當該航空機ノ機長）ニ其ノ旨ヲ通知シタル上第七十三條ノ檢定證書若ハ假檢定證書ヲ返還セシメ又ハ檢査不合格通知書ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ當該私設無線電信無線電話ハ其使用ヲ停止スベキモノトス

前項ノ場合ニ於テ私設無線電信無線電話ノ施設者機器及其ノ裝置ヲ改修シ又ハ無線通信士ヲ適當ニ配置シタルトキハ遞信局長ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第七十六條 遞信局長ニ於テ檢査ノ結果ニ付當該私設無線電信無線電話ノ施設者ニ對シ指示又ハ通知ヲ爲ス必要アリト認メタルトキハ檢査官吏ヲシテ第七十八條ノ無線電信無線電話檢査簿ニ其ノ要旨ヲ記入セシメ指示又ハ通知ニ代フルコトアルベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者前項ノ指示ヲ受ケタルトキハ速ニ相當措置スベシ

第七章　雜則

第七十七條 私設無線電信無線電話ノ施設者ハ檢定證書、無線通信士ノ氏名及資格、無線電信法罰則竝ニ施設目的ノ要綱ヲ通信室内見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第七十八條 私設無線電信無線電話ノ施設者ハ附錄第三號樣式ノ無線電信無線電話檢査簿（無線檢査簿）ヲ設備シ檢査ノ都度之ヲ檢査官吏ニ呈示スベシ

私設無線電信無線電話ノ施設者第七十六條第二項ノ規定ニ依リ措置シタルトキハ其ノ措置顚末ヲ無線檢査簿ニ記錄（無線通信士ヲシテ記錄セシムルコトヲ妨ゲズ）スベシ

無線檢査簿ハ其ノ使用終了後十年間之ヲ保存スベシ

第七十九條 私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ無線通信日誌（以下單ニ通信日誌ト稱ス）ヲ設備シ無線通信士ヲシテ左ノ各號ノ事項ヲ記錄セシメ通信日誌使用終了後二年間之ヲ保存スベシ（昭和十四年二月府令第十七號改正）

一　無線通信士ノ氏名、資格及服務方法

二　他ノ無線電信無線電話ト通信ノ都度左ノ事項

(イ)　通信開始及終了ノ月日時刻

(ロ)　對手無線電信無線電話ノ名稱（場合ニ依リ國籍、呼出符號、呼出名稱又ハ機器裝置場所等ヲ附記スベシ）

(ハ)　自己及對手無線電信無線電話ノ使用周波數

(ニ)　通信ノ種別（專用通信、電報託送、氣象又ハ遭難通信等ノ種別ヲ記載スベシ）

(ホ)　對手無線電信無線電話トノ間ノ概定距離

(ヘ)　通信狀況空電及混信ノ有無等ヲ附記スベシ

(ト)　對手無線電信無線電話ヨリ通知ヲ受ケタル事項ノ大要（船舶又ハ航空機ノ位置、針路、電報料金、取扱電報ノ種類等後日參考ト爲ルベキ事項ヲ記載スベシ）

三　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程（發著寄港又ハ發著立寄地名及其ノ月日時刻ヲ記載スベシ）

四　船舶ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中每日正午及午後八時ニ於ケル位置

五　補助設備及警急自動受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況（機器ニ故障アリタルトキハ其ノ狀況及原因竝ニ措置顚末ヲ記載スベシ）

六　補助設備電源用二次電池ヲ充電シタルトキハ其ノ充電時間、充電電流及充電前後ノ電壓

七　發射周波數ノ偏差ヲ測定シタルトキハ其ノ結果（偏差甚ダシキトキハ其ノ措置顚末ヲ附記スベシ）

八　遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲シタル事實及之ニ關スル措置顚末

九　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話ヲ認メタル事實

十　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ外國ニ於テ無線電信無線電話ノ裝置又ハ使用ニ關シ臨檢又ハ制限セラレタル事實竝ニ之ニ關スル措置顚末

十一　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

十二　前各號ノ外參考ト爲ルベキ事項

第八十條 私設無線電信無線電話（氣象及報時受信專用ノモノヲ除ク）ノ施設者ハ通信日誌及無線檢査簿ニ依リ左ノ各號ノ事項ヲ簡明ニ抄錄シ附錄第四號樣式ノ表紙ヲ附シ一月每ニ（船舶ニ施設シタルモノニシテ當該船舶ノ航行一月以上ニ及ブモノハ定繫港ニ入港每ニ）之ヲ遞信局長ニ提出スベシ

一　無線通信士ノ氏名、資格及服務方法

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程ノ概要

三　陸上ニ施設シタルモノニ在リテハ一日平均ノ交信度數、交信延時分及交信セル對手無線電信無線電話數

四　通信概況（對手無線電信無線電話トノ通信成績等ヲ記載スベシ）

五　遞信局長ヨリ檢査ノ結果ニ付指示ヲ受ケタル事項及之ニ對スル措置顚末

六　補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況

七　實驗用私設無線電信無線電話ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

八　前各號ノ外參考ト爲ルベキ事項

第八十一條 遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ通信日誌、無線檢査簿又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第八十二條 私設無線電信無線電話ノ施設者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ都度狀況ヲ具シ其ノ旨ヲ遞信局長ニ屆出ヅベシ

一　外國ニ於テ特ニ無線電信無線電話ノ裝置及使用ヲ制限セラレタルトキ但シ其ノ制限ガ告示セラレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　遭難通信緊急通信又ハ安全通信ヲ爲シタルトキ

三　無線電信法及之ニ關スル規定ニ違反シタル私設無線電信無線電話又ハ外國無線電信無線電話アリト認メタルトキ

第八十三條　第六條第二項、第十條、第十二條、第十三條又ハ第七十五條第二項ノ規定ニ依リ差出ス書類ハ電報ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十四條　本令ニ依リ朝鮮總督ニ差出ス書類ハ總テ遞信局長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ昭和十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

私設無線電信電話規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スル私設無線電信ノ送信裝置ニ關シテハ昭和十四年十二月三十一日迄第二十四條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（昭和十四年二月府令第十七號改正）

本令ハ昭和十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル私設無線電信ニシテB電波一三六四KCノ周波數ヲ發射スルモノハ昭和十八年十二月三十一日迄第二十四條ノ改正規定ニ拘ラズ仍同周波數ヲ使用スルコトヲ得

本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル航空機ニ施設シタル私設無線電信無線電話ノ使用周波數ハ昭和十四年八月三十一日迄第五十六條ノ規定ニ依ルコトヲ得

別表第一號（第二十五條參照）（昭和十四年二月府令第十七號改正）

施設ノ區別	發射電波ノ型式及周波數kc	受信電波ノ型式及周波數kc
陸上ニ施設スル私設無線電信無線電話	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數
船舶ニ施設スル私設無線電信	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB三七五(1) A一及A二又ハB 四二五(4)(3) 五〇〇 一〇〇kc乃至一〇〇〇kc(2)
船舶ニ施設スル私設無線電信	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶及一五〇kc以下ノ周波數ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB三七五 四二五 五〇〇 A一及A二又ハB 一二五 一三六(3) 一〇〇kc乃至一〇〇〇kc(2) 一四三
船舶ニ施設スル私設無線電信	一五〇〇kc乃至一七一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三 一六五〇 A三及A二又ハB 一〇〇kc乃至一〇〇〇kc

施設ノ區別	發射電波ノ型式及周波數kc	受信電波ノ型式及周波數kc
航空機ニ施設スル私設無線電信	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4) 三三三 A一及A二又ハB 五〇〇(5) 一〇〇kc乃至五五〇kc
電信	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇kcノ周波數帶内ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二 六三〇 特ニ指定スル電波ノ型式及周波數
航空機ニ施設スル私設無線電話	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三 三三三 A三及A二又ハB 一〇〇kc乃至五五〇kc
電話	四〇〇〇kc乃至三〇〇〇kcノ周波數帶内ニ於テ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三 六三〇 特ニ指定スル型式及周波數

註

(1)　無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スルモノニ在リテハA二電波一三六四kcヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(2)　時刻、氣象、航行上ノ危險警戒ニ關スル放送等ノ受信上必要アルモノニ付テハ最少周波數ヲ一五kcト爲スコトヲ得

(3)　公衆通信用周波數トス但シB電波ニ限リ他ノ通信ニモ使用スルコトヲ得

(4)　外國（滿洲ヲ除ク）ニ航行スル航空機ニ在リテハA一及A二電波ヲ發射スルモノナルコトヲ要ス

(5)　海洋ノ上空ヲ航行スル航空機ニ施設スルモノニ限ル

別表第二號（第三十九條參照）

無線電信ノ種別	通信執務時間無休ノモノ	通信執務時間ノ一日十六時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノモノ	通信執務時間ノ一日十六時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノモノ	無線通信士最少限資格及員數 第一級	第二級	第三級	聽取員數
當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間超ユルモノニシテ無休ノモノ	一人	一	一				一人
當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間超ユルモノニシテ無休ノモノ	一人	一	一				一人
當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間超ユルモノニシテ無休ノモノ	一人	一	一				一人
當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間超ユルモノニシテ無休ノモノ	二人	一	一				二人

通信ノ區別	呼出及應答			其ノ他		
	A一	A二	A三	B	A一	A二	A三	B
一日八時間ノ要スルモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間八時間ヲ超ユルモ四十八時間以内ノ休ノ聽守ヲ要スルモノ							
	其ノ他ノモノ							
通信執務時間不定ノモノ	總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ施設シタルモノ							
	其ノ他ノモノ							

備考

聽守員級ノ配置ヲ要スルモノニシテ聲急自働受信機ヲ裝置スル場合ハ之ガ配置ヲ要セズ

別表第三號（第五十六條參照）

（一）船舶ニ施設シタルモノ

通信ノ區別	呼出及應答			其ノ他		
	A一	A二	A三	B	A一	A二	A三	B
施設者所屬無線電信無線電話相互	一四五 三七五(1) 四一〇 五〇〇	三七五(1) 四一〇 五〇〇		四二五 五〇〇	一三五 三七五(1) 四一〇	三七五(1) 四一〇		
電話官署又ハ電信官署トノ間ノ通信上必要アルトキ	一六五〇 四二四〇 五五二〇 六二二〇 八八〇	四二四〇 五五二〇 六二二〇 八八〇	六六五〇		一六〇〇 一八九〇 四二三〇 四二四〇 五五二〇 六二二〇 八八〇	四二四〇 五五二〇 五五四〇 六二二〇 六二三〇 八八〇	六六五〇	
特定事業ニ用ヒ通信ヲ行フトキ	一三六四 一六〇〇 四二四〇 六二二〇	一三六四 一六〇〇 四二四〇 六二二〇	一六六〇 四四四〇	一三六四(2) 五〇〇	一三六四 一六〇〇 四二四〇 六二二〇	一三六四 一六〇〇 四二四〇 六二二〇	一六六〇 四四四〇	一三六四(2)
	一四三				一四三 三七五(1) 四一〇(3) 四一五(3) 四一〇(3) 四一〇(3) 一三六(4) 一四三 三七五(1) 二三五(3)			
	五〇〇				五〇〇 四八〇(5) 四五五 四一五 四一〇 四一〇 五〇〇(5)	五〇〇 四八〇(5) 四五五	一六〇〇 四四四〇	一三六四(2) 五〇〇(5)

通信ノ區別	呼出及應答			其ノ他		
	A一	A二	A三	B	A一	A二	A三	B
方位測定通信ヲ行フトキ	三七五 五〇〇(6)	三七五 五〇〇(6)			三七五 五〇〇(6)	三七五 五〇〇(7)		三七五 五〇〇(7)
	一三五〇				一三五〇 一六五〇	一三五〇 一六五〇		一三五〇
漁船ニ施設シタル私設無線電話ニ信ヲ行フトキ	一三六四 五〇〇	一三六四 五〇〇	四四四〇 一六五〇	一三六四(2) 五〇〇	一三六四 一六〇〇	一三六四 一六〇〇(3)	四四四〇 一六五〇	一三六四(2)
官廳漁業用船舶監督官ニ於テ無線電話ニ信ヲ行フトキ	一三六四	一三六四			一六〇〇	一三六四 一六〇〇(3)		一三六四 一六〇〇
事業所屬水産指導用無線電信又ハ無線電話ニ信ヲ行フトキ	四四四〇 一六五〇		一六〇〇		一六五〇	一六五〇	四四四〇 一六〇〇	一六五〇
漁船ニ施設シタル無線電話ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一三六四			一三六四(2)	一三六四(2)			一三六四(2)
施設者ヲ異ニスル無線電話ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一六五〇				一六五〇			
無線電話相互ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一三六四				一三六四(3)			
無線電話相互ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一六〇〇				一六〇〇(3)			
無線電話相互ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一六〇〇				一六〇〇			
無線電話相互ニ於テ漁業用無線電信ヲ行フトキ	一三六四(2)				一三六四(2)			

(二) 航空機ニ施設シタルモノ

通信ノ區別	呼出及應答		其ノ他			
	A二	A三	A一	A二	A三	
施設者所屬無線電信無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ又ハ電信官署若ハ電話官署トノ間ノ通信上必要アルトキ	三三三 KC	三三三 KC	三三〇(9) 三三三(9) 三四〇(5)(10) 五〇〇 五六六〇 六三一〇(9) 六五九〇 一一一〇 一六七五〇	三三〇(9) 三三三(9) 三四〇(5)(10) 五〇〇 五六六〇 六三一〇(9) 六五九〇 一一一〇 一六七五〇	三三三(9) 五六六〇 六三一〇(9) 六五九〇 一一一〇 一六七五〇	
方位測定通信ヲ行フトキ	三三三 五〇〇	六三一〇	三三三(5) 五〇〇	三三三(5) 五〇〇		

註

(1) 無線羅針業務ヲ防害セザルコトヲ要ス

(2) 外國ノ無線電信無線電話特ニ放送無線電話ニ混信ヲ與ヘザルコトヲ要ス

(3) 通常通信周波數トス但シ原則トシテA電波ヲ發射スルモノニ在リテハ一三六KC及四二五KCハ船舶間電信官署又ハ木浦、鎭南浦、淸津、幌莚、函館、銚子、下津井、角島、鹿兒島、南大東島、基隆、臺東、大泊若ハバラオノ各電信官署トノ間ノ通信ニ一二五KC及四一〇KCハ其ノ他ノ陸上電信官署トノ間ノ通信ニ使用スルモノトス

(4) 呼出及應答ニ伴フ通信ノ準備ニ使用スルモノトス

(5) 特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ通信ニ混信ヲ生ゼズ且當該通信（第六十六條ノ規程ニ依ル通信其ノ他極メテ簡單ナル通信ニ限ル）ガ數分以內ニ完了スルコトヲ確認スル場合ニ限リ使用スルコトヲ得

(6) 三七五KCノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル但シ方位測定業務ヲ行フ陸上無線電信ニシテ電信官署タルモノトノ間ノ呼出及應答ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(7) 三七五KCノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限リ呼出應答ヲ防害セザル條件ノ下ニ使用スルコトヲ得

(8) 四一〇KCノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル

(9) 五分間以內ノ通信ヲ行フ場合ニ限ル

(10) 船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信スル陸上無線電信トノ間ニ通信ヲ行フ場合ニ限ル

附錄第一號樣式（第五條參照、用紙美濃紙）

甲 船舶無線ノ例（航空機ニ施設スルモノニ在リテハ之ニ準ズルモノトス）

私設無線電信（無線電話）施設願

年　月　日

何府何町何番地

何汽船株式會社

社長　何　某㊞

朝鮮總督　殿

當社所屬汽船　何　丸ニ私設無線電信（無線電話）施設致度私設無線電信無線電話規則第五條ノ規定ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一　施設ノ目的

（航行ノ安全ニ備ヘ施設者所屬海運事業用船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供シ尙電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スルヲ以テ目的トス）

二　施設ヲ必要トスル事由

（海難ニ際シ人命救助ニ資シ併セテ海運事業經營上ノ敏活ヲ計リ尙朝鮮船舶安全令ニモ從ハンガ爲本施設ヲ必要トス）

三　機器裝置船舶

船名　丸（船名ニハ傳動ノ附シ甞蔵文ニ依ル船名ヲモ附記スルコト）

四　工事設計（主設備、補助設備毎ニ記入スルコト）

(一) 通信方式

單信（ブレイクイン）

二重通信

同時送受話

秘密通信

式等

(二) 晝間所要通達距離（主設備ニ付テハ之ヲ要セズ）

(三) 電源設備（左表ニ依リ容量ヲ記入スルコト）

區別	種類	容量	箇數	電壓	電流	回轉數	製造者	備考
「何」用原動機								
「何」用「何」電機流發								
「何」用蓄電池	（チユードル型等）	（六時間放電率ニ於ケル）						
								無線施設以外ニモ共用スル場合ハ其ノ使用スル最大電力ヲ記入スルコト

(四) 送信(話)裝置

(イ) 空中線電力「キロワット」(又ハ「ワット」)

(ロ) 電波ノ型式及周波數(電波ノ型式及送信周波數ヲ記入スルコト)

(ハ) 方式(「クエンチトスパーク」式、自勵真空管式、主勵真空管式、水晶制御真空管式等)

(ニ) 送信(話)可能周波數(自「キロサイクル」至「キロサイクル」)

(ホ) 周波數變更裝置(手働又ハ自働式等ノ區別)

(ヘ) 製造者

(ト) 各機器ノ種類(左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト)

(火花式ノ場合)

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	備考
「何」流電動機									
高周波發電機									
變壓器			一次	二次					
火花間隙						火花周波數ヲ記入スルコト			

(眞空管式ノ場合)

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	用途
「何」用流電動機									
「何」用流發電機									

「何」用壓器									
「何」用整流眞空管(名稱ヲ記入スルコト)	一箇ノ入力	プレートフイラメント							
「何」用發振眞空管	同	プレートフイラメント							
「何」用變調眞空管	同	プレートフイラメート							
「何」用增幅眞空管	同	プレートフイラメント							
水晶發振子						(發振周波數ヲ記入スルコト)			
送話機									

(五) 受信(話)裝置

(イ) 方式(オートダイン式、スーパーヘトロダイン式等)

(ロ) 使用眞空管數 箇

(ハ) 增幅器 高周波 段(眞空管名)、中間周波 段(同)、低周波 段(同)

(ニ) 受信可能周波數(自「キロサイクル」至「キロサイクル」)

(ホ) 製造者

(大) 空中線及饋電線(各空中線毎ニ記入スルコト)

形狀(T型、逆L型等)

大サ 引込部長サ メートル、水平部長サ メートル

高サ メートル(最高鐵塔頂或空線上ヨリ水平部迄ノ高サ)、水平部條數 條

(七) 無線方位測定設備

(イ) 方式(型式證明番號)

(ロ) 空中線設備

(ハ) 航海船橋トノ連絡裝置

(ニ) 受信裝置、增幅裝置(五)ニ準ジ記入スルコト)

(八) 救命艇內無線電信設備(一)乃至(五)ニ準ジ記入スルコト)

(九) 警急自働受信設備

(イ) 型式證明番號

(ロ) 受信裝置、增幅裝置(五)ニ準ジ記入スルコト)

(ハ) 可聽警報設備

五 通信執務時間

六 通信室ニ於ケル特殊ノ設備

(一) 航海船橋トノ連絡裝置

(二) 時計

(三) 非常燈

七 工事地及工事者

八 落成期限

九 船舶關係事項

(一) 船舶番號(建造中ノモノニシテ登錄未濟ノトキハ其ノ旨記入スルコト)

(二) 汽船帆船ノ別

(三) 旅客船貨物船又ハ漁船等ノ別

(四) 信號符字

(五) 旅客定員數

(六) 航行區域

(七) 總噸數

(八) 船體ノ大サ(長サ及幅)

(九) 就航方面

(十) 船籍港

(十一) 定繫港(朝鮮ニ於ケル主ナル碇泊港ヲ定繫港トスルコト)

(十二) 所有者

十 添附圖面

(一) 空中線、通信室、機械室、二次電池ノ位置ヲ示セル船體ノ平面圖及斷面圖

(二) 電源設備接續圖

(三) 送信(話)裝置接續圖

(四) 受信(話)裝置接續圖

(五) 送受信相互連絡關係圖

(六) 空中線ノ形狀及大サヲ示セル圖面

(七) 電線配置圖(電線ノ種類及太サヲ記入スルコト)

(八) 無線方位測定設備ノ接續圖

(九) 警急自働受信設備ノ接續圖

(十) 救命艇內無線電信設備ノ接續圖

乙 陸上無線ノ例

私設無線電信(無線電話)施設願

年 月 日

何府何町何番地

何 某 ㊞

朝鮮總督 殿

何々ニ私設無線電信(無線電話)施設致度私設無線電信無線電話規則第五條ノ規定ニ依リ別紙書類相添出願候也

施設事項書

一 施設ノ目的

何電信局トノ間ニ電報送受ノ爲施設者ノ專用ニ供ス

何々間ニ於テ當社經營ノ何事業ノ用ニ供ス

無線電信(無線電話)ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ專用ス

何無線電信局ノ發スル報時通信ノ受信ニ專用ス

ルヲ以テ目的トス

二 施設ヲ必要トスル事由(必要トスル事由ヲ詳記スルコト)

三 機器裝置場所

(イ) (何府何町何番地何構內)

(ロ) 發射空中線ノ正確ナル地理的位置(實驗用私設無線電信無線電話ヲ除ク)

(ハ) 受信空中線ノ正確ナル地理的位置(無線羅針計施設ニ限ル)

四 工事設計(主設備、補助設備毎ニ記入スルコト)

裝置場所二箇所以上ノ場合ニハ各別ニ記入スルコト

特ニ例示セザルモノハ船舶無線ノ例ニ依リ記入スルコト

(一) 通信方法

無線標識施設ニ在リテハ發射方式(無指向式、指向式、回轉式、可變指向式等)、無線標識及無線羅針計施設ニ在リテハセクター(豫定セラレタルモノ)ヲ記入スルコト

(二) 晝間所要通達距離

(三) 電源設備

(四) 送信(話)裝置

(五) 受信(話)裝置

(六) 空中線及接地

(イ) 電柱

種類及形式

高サ

柱數

(ロ) 空中線

送信用及受信用ニ分チ種別(無指向性、枠型、短波指向性空中線其ノ他)、數量ヲ記入シ其ノ詳細ハ添附圖面(六)ニ於テ線種、形狀、寸法等ヲ記入スルコト

(ハ) 空中線饋電線(ロ)ニ準ズルコト)

(ニ) 接地(ロ)ニ準ズルコト)

(七) 空中線擬似回路(之ヲ設備スルモノニ在リテハ其ノ種類及容量ヲ記入スルコト)

(八) 發射電波ノ測定方法(受信裝置ノミノ場合ハ之ヲ要セズ)

五 通信執務時間

實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ機器實驗ヲ必要トスル時間ヲ記入スルコト

豫メ使用期間確定スルモノニ在リテハ使用期間自何年何月何日至何年何月何日ト附記スルコト

六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類、方法及實驗者ノ略歷

七　工事者

八　落成期限

九　添附圖面

(一)機器裝置場所及其ノ附近ノ圖面

(二)電源設備接續圖

(三)送信(話)裝置接續圖

(四)受信(話)裝置接續圖

(五)送受信相互連絡關係圖

(六)空中線及空中線饋電線ノ形狀及正サヲ示セル圖面

(七)電線配置圖(電線ノ種類及太サヲ記入スルコト)

附錄第二號樣式（第四十條參照、用紙美濃紙）

選任又ハ解任ノ別	同資格上月日	同等級	氏名	執務スベキ無線電信又ハ無線電話ノ位置名稱	通信聽守時間	公衆通信取扱時間	電信官署ト歐文電報ノ間ニ送受スル業務ノ有無及其ノ入出ノ旅客總數	船舶ニ施設シタル無線電信ノ場合	
						所設置ノ有無	送受電報ノ種別	港名	各船員

右及御屆候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

朝鮮總督府遞信局長殿

附錄第三號樣式（第七十八條參照、紙質ノ大サ日本標準規格B五(縱一八二粍、橫二五七粍)）

檢査年月日	年　月　日	檢査官吏所屬官廳	
檢査地		檢査官吏官氏名	
指示又ハ通知事項			
指示ヲ受ケタル事項ニ對スル措置顛末			

無線電信無線電話檢査簿

備考

一　紙質ハ模造紙B列本判六十听以上ヲ使用スベシ

二　百枚ヲ以テ一綴トシ表紙ヲ附スベシ

附錄第四號樣式（第八十條參照、紙質ノ大サ日本標準規格B五(縱一八二粍、橫二五七粍)）

年　月分（又ハ自年月日至年月日分）

無線電信(無線電話)通信日誌抄錄

（施設者）

（機器裝置場所）

關東州海事諸法令

（改正　昭九年第三九五號　昭一二年第六八五號）

◉關東州船舶安全令

（昭和九年八月十五日　勅令第二百五十三號）

朕關東州船舶安全令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

關東州船舶安全令

第一條　關東州ニ於ケル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外船舶安全法ニ依ル但シ同法中主務大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、勅令トアルハ關東局令、日本船舶トアルハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶、無線電信法トアルハ關東州電氣通信令トス

第二條　關東州ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ船舶ヲ製造スル者ハ關東州ノ管海官廳ニ船舶安全法第六條第一項又ハ第二項ノ製造檢査ヲ申請スルコトヲ得

關東州ノ管海官廳ハ前項ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

船舶安全法第六條第四項ノ規定ハ前項ノ船舶ニ之ヲ準用ス

第三條　大使ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ同法第二十七條及第二十八條ニ規定スル事項ヲ除クノ外必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附　則

第四條　本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

船舶安全法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及同法第二十七條ノ規定ニ付テハ各別ニ大使ノ定ムル日迄本令第一條ノ規定ヲ適用セズ

第五條　昭和二年勅令第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

第六條　本令施行ノ際現ニ存スル船舶ニシテ本令ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル檢査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第七條　從前ノ規定ニ依リ船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢査及無線電信施設ニ關シ仍從前ノ規定ニ依ル

一　航行期間滿了ノ爲從前ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クベキトキ

二　從前ノ規定ニ依リ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

第八條　前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ

前項ノ檢査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以內ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス

（參照）

昭和二年六月八日公布　勅令第百六十五號ハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶及關東州ノ港灣ニ出入スル其ノ他ノ船舶ノ無線電信施設ニ關スル件ナリ

◉關東州船舶安全令施行期日

（昭和九年九月 關東廳令第三十八號）

關東州船舶安全令ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ船舶安全法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及同法第二十七條ノ規定ニ付テハ別ニ定ムル日迄同令第一條ノ規定ヲ適用セズ

◉關東州船舶安全令施行規則

（昭和九年九月 關東廳令第三十九號）

第一條 關東州船舶安全令ノ施行ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ命令ニ依ル

一 船舶安全法施行令但シ第三條ノ規定ヲ除ク

二 遞信省令船舶安全法施行規則但シ第六十二條及第百十八條但書ノ規定ヲ除ク

三 昭和九年遞信省令第五號

四 遞信省令船舶設備規程

五 遞信省令船舶滿載吃水線規程

六 遞信省令船舶區劃規程

七 遞信省令木船構造規程

八 遞信省令船舶機關規程

九 遞信省令危險物船舶運送及貯藏規則但シ第二十一條ノ規定ヲ除ク

十 遞信省令救命艇手適任證書交付規則

十一 遞信省令船用品取締規則

十二 遞信省令船用品檢査試驗規則

十三 遞信省令錨鎖索試驗規程

十四 遞信省令舷窓試驗規程

十五 遞信省令船燈試驗規程

十六 遞信省令信號器試驗規程

十七 遞信省令救命器具試驗規程

十八 遞信省令消火器試驗規程

十九 遞信省令火災警報裝置試驗規程

二十 遞信省令防毒面試驗規程

二十一 遞信省令艙口覆布試驗規程

二十二 遞信農林省令漁船特殊規則但シ第四條中第三號、第六號、第七號及第十一條ノ規定ヲ除ク

二十三 遞信農林省令漁船特殊規程

二十四 文部遞信省令船舶氣象觀測報告規則

第二條 前條ノ命令中主務大臣又ハ遞信大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、遞信省トアルハ關東廳、遞信省管船局船舶試驗所又ハ同支所トアルハ關東廳海務局、中央氣象臺トアルハ關東廳觀測所、日本船舶トアルハ關東州船籍令ニ依ル日本船舶、船舶檢査法トアルハ關東州船舶檢査規則、火藥類鐵道運送規程、銃砲火藥類取締法又ハ同法施行細則トアルハ銃砲火藥類取締規則、官報トアルハ關東廳廳報、船舶安全法施行規則第六條及船舶設備規程第九十六條第二項ノ場合ヲ除キ船舶安全法施行地トアルハ關東州、船舶安全法第二十九條、第三十三條、第三十五條、第三十六條トアルハ關東州船舶安全令第三條、第六條、第七條、第八條トス

第三條 船舶安全法施行規則第六條中近海又ハ遠洋トアルハ平水區域以外、同規則第六十一條中朝鮮若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍トアルハ關東州ノ船籍以外ノ船籍、日本ノ國籍トアルハ關東州ノ船籍、同規則第百六條第三號中日本ト外國トアルハ關東州ト關東州外ノ地、同規則書式中管海官廳トアルハ關東廳海務局、船舶安全法第九條又ハ船舶安全法第六條トアルハ關東州船舶安全令トス

第四條 危險物船舶運送及貯藏規則中煙火トアルハ煙火爆竹ヲ含ムヲ、同規則第七條中外國トアルハ關東州外、日本トアルハ關東州、同規則第十七條中銃砲火藥類取締法施行規則第十八條トアルハ銃砲火藥類取締規則第四十三條第一項、同規則第二十二條但書中業務用トシテ貯藏スル場合又ハ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ繫留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合トアルハ業務用トシテ貯藏スル場合、同規則附錄書式中危險物船舶運送及貯藏規則第八條トアルハ關東州船舶安全令施行規則トス

第五條 救命艇手適任證書交付規則第二號書式中救命艇手適任證書交付規則トアルハ關東州船舶安全令施行規則トス

第六條 船用品取締規則第四十五條乃至第四十八條中舊取締規則トアルハ關東州船燈信號器救命具取締規則、同規則書式中船用品取締規則第一條第一項、船用品取締規則、船用品取締規則第三條第二項、船用品取締規則第一條第二項、船用品取締規則第三條第三項、船用品取締規則第二條第二項、船用品取締規則第三十二條第一項又ハ船用品取締規則第三十二條第二項トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ同規則第三十一條ノ檢印ハ別記第一號雛形ニ依ル

第七條 船用品檢査試驗規則書式中大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則又ハ大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則第六條トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ同規則第六條ノ甲號及乙號檢印ハ別記第二號雛形ニ依ル

第八條 漁船特殊規則第八條第二號中船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太トアルハ關東州トス

第九條 平水區域ハ左ニ掲グル各區域トス

第一區 沙砣子ヨリ南三山島ヲ經テ老鐵山西角ニ至ル線內

第二區 老鐵山西角ヨリ小龍山島及朱島ヲ經テ長興島北角ニ至ル線內

第三區 南山嘴ヨリ南三山島及廣鹿島東側ヲ經テ虎子窩ニ至ル線內

第四區 虎子窩ヨリ廣鹿島西側、長子島南端、海洋島東側及大王家島東端ヲ經テ溫家樓ニ至ル線內

第十條 沿海區域ハ北緯三十六度以北ノ黃海及渤海ニシテ海岸ヨリ二十海里以內ノ區域トス

第十一條 船舶檢査執行地ハ大連市、旅順市、甘井子、柳樹屯、海猫

市、小平島、老虎灘及三道灣屯（老爺廟會）トス但シ休暇日檢査ハ大連市、旅順市及甘井子ニ限ル

第十二條　船舶機關規程第四條第二項ノ試驗機ハ關東廳海務局長ニ於テ適當ト認ムルモノヲ用フルコトヲ得

第十三條　遞信大臣、臺灣總督又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命器具、防毒面、消火器、火災警報裝置、艙口覆布、錨鎖索、舷窓ニ付テハ本令ノ規定ニ依ル試驗及檢定ヲ要セズ

第十四條　特殊漁船ヲ除クノ外長サ三十メートル未滿ノ漁船ニ付テハ其ノ業務種類ニ依リ關東廳海務局長ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ限リ端艇ヲ備ヘザルコトヲ得

第十五條　第二種漁船ニシテ總噸數百噸未滿ノモノハ漁船特殊規程第三號表ニ定ムル測程機械、六分儀又ハ航海曆ヲ備ヘザルコトヲ得

附則

本令ハ關東州船舶安全令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州船舶檢査規則、關東州船舶特種檢査規則、關東州船燈信號器救命具取締規則及昭和二年關東廳令第三十九號ハ之ヲ廢止ス

船用品取締規則ニ依ル型式承認ハ當分ノ內之ヲ行ハズ

（第一號雛形）

（關東廳檢）

（第二號雛形）

甲號　檢印　乙號　檢印

（參照）

昭和二年關東廳令第三十九號ハ昭和二年勅令第百六十五號施行ニ關スル件ナリ

◉海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件（昭和十年九月關東局令第五十七號）

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和十年遞信省令第二十二號ニ依ル但シ同令中內地トアルハ關東州、船舶安全法トアルハ關東州船舶安全令トシ船舶安全法施行規則、船舶區劃規程又ハ船舶設備規程トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ管海官廳トアルハ關東海務局トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉關東州專用通信施設規則

（昭和八、九、一關東廳令第二八號　昭和八、一二、三〇第六七號改正　昭和八、九、二八第四六號改正　昭和一一、八、一關東局令第四三號改正　昭和一一、一二、二九同第八五號）

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ專用通信施設トハ關東州及南滿洲鐵道附屬地電氣通信令（以下電氣通信令ト略ス）第三條（第八號ノ規定ヲ除ク）ニ掲グル電信、電話、無線電信及無線電話ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ專用有線施設トハ電氣通信令第三條ニ掲グル電信及電話ヲ謂フ

第三條　本令ニ於テ專用無線施設トハ電氣通信令第三條（第八號ノ規定ヲ除ク）ニ掲グル無線電信及無線電話ヲ謂フ

第四條　電氣通信令第三條第二號ニ依ル專用通信施設ハ左ニ掲グル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

一　鐵道、軌道、索道、航空及運河ノ事業

二　電氣及水道ノ事業

三　火防、水防、水利及水難救護ノ事業

四　前各號ノ外特ニ專用通信施設ヲ必要トスル事業

第五條　電氣通信令第三條第三號及第四號ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ノ連絡ナキトキハ專用通信施設ノ機器ヲ裝置スベキ場所ガ電報直配達區域外、電話加入區域外又ハ電信局、電話局ヲ設置セザル船舶若ハ航空機ナル場合ヲ謂フ（昭和九、九、二八第四六號改正）

第六條　電氣通信令第三條第九號ノ規定ニ依リ施設スル專用通信施設（以下實驗專用無線施設ト稱ス）ハ無線電信、無線電話ノ學術研究又ハ機器ニ關スル實驗ニ供スルモノニ限ル（同上改正）

第七條　專用通信施設ノ使用ヲ中止シ一年以上ニ及ビタルトキハ其ノ施設ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第八條　電氣通信令第三條第三號ニ依リ當該電信局ニ施設ヲ要スル專用通信施設ノ設備及維持ハ滿洲電信電話株式會社ニ於テ之ヲ執行スルモノトス

前項ノ專用通信施設者ハ滿洲電信電話株式會社ニ對シ設備ニ要スル物件及工事費ヲ負擔シ且其ノ維持料ヲ支拂フベシ

前項ノ維持料ノ金額及其ノ支拂手續ハ滿洲電信電話株式會社ニ於テ滿洲國駐劄特命全權大使ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム（昭和一一、八、一第四三號改正）

第九條　大使ハ專用通信施設ニシテ他ニ障害ヲ及ボシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命ズルコトアルベシ

第十條　專用通信施設ノ使用ノ制限、停止又ハ機器若ハ附屬具ノ除去ニ關シ直接當該專用通信施設ノ從事者ニ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ別ニ其ノ旨ヲ當該施設者ヘモ通知ス

第二章　專用有線施設

第十一條　專用有線施設ヲ施設セントスル者ハ關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ（同上改正）

一　鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所及信號所相互間ニ施設スルモノ

二　電氣事業ノ保安通信用トシテ左ニ掲グル箇所相互間ニ施設スルモノ

（イ）送電ノ連絡ヲ有スル發電所、變電所、蓄電所及特別高壓架空電線路

（ロ）同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐在所

（ハ）發電所及其ノ水路

第十二條　前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

一　施設ノ目的（施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ）（昭和九、九、二八第四六號改正）

二　電信又ハ電話ノ別及其ノ回線數

三　機械設置場所及線路經過地名

四　工事落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スベシ

電氣通信令第三條第三號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間ニ於テ專用有線施設ヲ施設セントスルトキハ第一項ノ書類ノ外其ノ不適當ナルコトヲ證明スベキ書類ヲ添附スベシ

第十三條　第十一條ノ許可ヲ受ケタル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クベシ

第十四條　第十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル專用有線施設ノ工事落成シタルトキハ七日內ニ左ノ事項ヲ關東遞信官署遞信局長ニ届出ヅベシ（昭和二、八、一第四三號改正）

一　工事落成月日

二　工事設計（機械、建物及送電線路ノ位置、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線線ノ種類、太サ及絶縁ニ關スル事項）

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ届出ヅベシ

第十五條　第十一條第一號ノ專用有線施設ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日內ニ第十二條第一項第一號乃至第三號及前條第一項各號ノ事項ヲ關東遞信官署遞信局長ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第十二條第一項第二號ノ事項ニ限リ關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ（同上改正）

第十六條　專用有線施設ヲ讓渡セントスルトキハ第十一條但書ノ規定ニ該當スルモノヲ讓渡人ト同種ノ事業者ニ讓渡スル場合ヲ除クノ外當事者連署ノ上關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クベシ（同上改正）

前項ノ許可ヲ受ケタル專用有線施設ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第十一條但書ノ規定ニ該當スルモノヲ讓渡人ト同種ノ事業者ニ讓渡シタルトキハ七日內ニ當事者連署ノ上關東遞信官署遞信局長ニ届出ヅベシ（同上改正）

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ專用有線施設ヲ繼承シタルトキハ七日內ニ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ届出ヅベシ

第十七條　公衆通信ノ用ニ供スル專用有線施設ハ關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ廢止シ又中止スルコトヲ得ス（同上改正）

前項以外ノ專用有線施設ヲ廢止シタルトキハ七日內ニ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ届出ヅベシ（同上改正）

第十八條　專用有線施設ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外十日內ニ線路及機器ヲ撤去スベシ其ノ施設ノ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同ジ

第十九條　市街地ニ限リ道路ニ架設スル專用有線施設線路ハ左ノ制限ニ依ルベシ但シ特別ノ事由アルモノハ大使ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラザルコトヲ得（同上改正）

一　道路ノ兩側ニ跨ラズシテ其ノ一側ニノミ架設スベシ

二　道路ノ一側ニ電信線、電話線又ハ電氣信號線ヲ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スベシ若其ノ一側ニ架空强電流電線ヲ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スベシ

第二十條　專用有線施設ノ電線ハ特ニ大使ノ認可ヲ受ケタルモノヲ除クノ外架空强電流電線路ノ支持物ニ添架スルコトヲ得ズ但第十一條第二號ニ依ルモノニシテ市街地外ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラズ（同上改正）

第二十一條　第三十條ノ規定ニ依ル專用有線施設ヲ施設セントスル者ハ大使ノ認可ヲ受ケ架空强電流電線ヲ其ノ專用有線施設ノ電線ニ供用スルコトヲ得

第二十二條　專用有線施設ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通報信號ニ障害ヲ與ヘザル樣離隔スベシ其ノ隔離六十センチメートル滿タザルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クベシ

第二十三條　專用有線施設ノ電線ヲ架空强電流電線ト交叉シ又ハ接近シテ架設スルトキハ左ノ制限ニ依ルベシ

一　架空强電流電線ト交叉スルトキハ其ノ電線ノ下部ニ架設スベシ但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓ノ電線ト交叉スル場合ニ限リ其ノ上部ニ架設スルコトヲ得

二　低壓又ハ高壓ノ電線ト交叉若ハ接近スルトキハ其ノ相互ノ間隔一メートル以上ヲ離隔スベシ但シ工事上已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ距離ヲ六十センチメートル迄ニ短縮スルコトヲ得

三　特別高壓電線ト交叉スルトキハ特別高壓電線ノ最大電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ特別高壓電線ト專用有線施設ノ電線トヲ離隔スベシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ト專用有線施設ノ電線トノ間ニ施設スル保護金屬線ヨリ六十センチメートル以上ヲ離隔スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

（イ）特別高壓電線ヲ最大電壓六萬ヴオルト以下ノ場合ハ其ノ間隔二メートル以上

（ロ）特別高壓電線ノ最大電壓六萬ヴオルトヲ超過スル場合ハ一萬ヴオルト又ハ其ノ端數ヲ加フル每ニ二十センチメートル以上ヲ加フ

四　特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サノ一倍以上タルベシ但シ

特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ三メートル迄ニ短縮スルコトヲ得

第二十四條 專用有線施設ノ電線ヲ架空强電流電線ト交叉シ又ハ接近シテ架設シタルトキハ電信線又ハ電話線ノ機械ニ接續スル各端ニ於テ五百ミリアムペア以下ニテ動作スル熱線輪、交流三百ヴオルトニテ放電スル避雷器及七アムペア以下ニテ鎔解スル可鎔遮斷器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉又ハ接近ノ場合ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第二十五條 屋内ニ布設スル專用有線施設ノ電線ハ强電流電線ト十分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スベシ

第二十六條 專用有線施設ノ線路支持物ニハ施設者名及支持物番號ヲ明示スベシ

第二十七條 專用有線施設ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ二メートル以内（他ノ電線ガ强電流電線ナルトキハ二・五メートル以内）ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事着手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ニ通知スベシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ又ハ撤去スルトキ亦同ジ

第二十八條 滿洲電信電話株式會社ハ必要ト認ムルトキハ大使ノ認可ヲ受ケ其ノ施設ニ係ル架空又ハ地下ケーブルノ心線ヲ電氣通信令第三條第三號ニ依リ施設スル專用有線施設ノ電線トシテ使用セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該專用有線施設ノ施設者ハ滿洲電信電話株式會社ニ電線使用料ヲ支拂フベシ（同上改正）

前項ノ電線使用料ノ金額及其ノ支拂手續ハ滿洲電信電話株式會社ニ於テ大使ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム（同上改正）

第二十九條 電氣通信令第三條第一號ノ專用有線施設ニ關シテハ第七條、第八條、第十一條乃至第十九條及第二十六條ノ規定ヲ適用セズ

第三十條 電線路ニ高周波電流ヲ通ズル專用有線施設ニ關シテハ第十一條但書ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ專用有線施設ニシテ一萬サイクル以上ノ高周波電流ヲ通ズルモノナルトキハ第十條、第三十一條第一項及第二項第三十二條、第三十六條、第三十七條、第五十九條、第五十九條ノ二、第六十八條、第六十八條ノ三乃至第六十九條ノ二及第七十條ノ規定ヲ準用ス但シ第三十二條ニ規定スル呼出符號又ハ呼出名稱ニ付テハ關東遞信官署遞信局長ニ於テ其ノ必要アリト認ムル場合ニ限リ之ヲ指定ス（昭和九、九、二八第四六號改正 昭和一一、八、一第四三號改正）

前項ノ專用有線施設ニ關シテハ第十四條第二項及前條ノ規定ヲ適用セズ

大使ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二項ノ專用有線施設ニ使用スル電力及高周波電流發生裝置ヲ制限ス（昭和九、九、二八第四六號改正）

第三章 專用無線施設（同上改正）

第一節 通則

第三十一條 專用無線施設ヲ施設セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル願書（別記第一號樣式）ヲ陸上ノ施設ニ付テハ大使官ニ、船舶又ハ航空機ノ施設ニ付テハ關東遞信官署遞信局長ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ亦同ジ（昭和一一、八、一第四三號改正）

一 施設ノ目的（施設ヲ必要トスル事由ヲ附記スベシ）

二 機器裝置場所（船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ船舶ノ名稱又ハ航空機ノ登錄記號ノ名稱アルトキハ其ノ名稱共）

三 工事設計

四 通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）

五 船舶又ハ航空機ニ施設スルモノナルトキハ當該船舶又ハ航空機ノ所屬、形態及航行ニ關スル事項ノ概要竝ニ定繫港又ハ定置場（關東州ニ於ケル主ナル碇泊港又ハ碇泊場ヲ定繫港又ハ定置場ト稱スベシ）

六 實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類及方法（實驗者ノ氏名ヲ附スベシ）

七 落成期限

大使又ハ關東遞信官署遞信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ電氣通信令第三條第四號ニ規定スル施設ヲ爲サントスルトキハ第一項ノ書類ノ外同令同條第三項ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル理由ヲ證明スベキ書類ヲ添附スベシ（同上改正）

第一項第五號、第六號（實驗ノ種類及方法ニ限ル）又ハ第七號ノ事項ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ屆出ヅベシ（同上改正）

第三十二條 專用無線施設ノ使用電波ノ型式及周波數、呼出符號又ハ呼出名稱竝ニ運用ニ關スル制限ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ指定ス

第三十三條 專用無線施設ノ施設者名義ヲ變更セントスルトキハ陸上ノ施設ニ付テハ大使、船舶又ハ航空機ノ施設ニ付テハ關東遞信官署遞信局長ノ許可ヲ受クベシ（同上改正）

前項ノ許可ヲ受ケントスルトキハ當事者ノ連署シタル願書ヲ差出スベシ此ノ場合ニ於テ相續其ノ他ノ事由ニ因リ當事者連署シ得ザルトキハ之ヲ證明スベキ書類ヲ添附スベシ

第三十四條 專用無線施設ヲ許可シタルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ告示ス其ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

一 施設者名

二 施設ノ目的

三 機器裝置場所（船舶ナルトキハ船舶ノ名稱及定繫港、航空機ナルトキハ航空機ノ登錄記號及定置場）

四 呼出符號又ハ呼出名稱

五 空中線電力

六 使用電波ノ型式及周波數

七 通信執務時間（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗時間）

第三十五條 專用無線施設ノ裝置工事落成シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ屆出ヅベシ（同上改正）

第三十六條 專用無線施設ハ第六十九條ノ規定ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ交付ヲ受ケタル後ニ非ザレバ其ノ使用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第三十七條 專用無線施設ノ使用ヲ開始シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ屆出ヅベシ第三十八條ノ規定ニ依リ使用中止屆出後又ハ第六十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ使用停止後更ニ之ガ使用ヲ開始スルトキ亦同ジ（同上改正）

第三十八條 專用無線施設ヲ廢止セントスルトキハ七日以前ニ其ノ旨ヲ關東逓信官署逓信局長ニ屆出ヅベシ專用無線施設ノ使用ヲ中止セントスルトキ亦同ジ(同上改正)

第三十八條ノ二 專用無線施設ヲ廢止シタルトキハ直ニ空中線ヲ取外シ特ニ指示シタル場合ヲ除クノ外十日内ニ送信裝置、受信裝置及之ニ專用ノ附屬設備ヲ撤去スベシ專用無線施設ノ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同ジ

第二節 機器及裝置

第三十九條 專用無線施設ニ使用シ得ル電波ノ型式ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ五種トス

一 A一電波

二 A二電波

三 A三電波

四 A四電波

五 B電波(對數減衰率〇・一以下ノモノ)

前項第二號及第五號ノ電波ノ可聽周波數ハ百回以上ナルコトヲ要ス

第三十九條ノ二 專用無線施設ノ發射電波ハ必要ナラザル電波ヲ能フ限リ伴ハザルモノナルコトヲ要ス

第三十九條ノ三 專用無線施設ノ使用電波ノ周波數(單位ハ一秒時ニ於ケルサイクルトス以下kcヲ以テ示ス)ハ能フ限リ常ニ之ヲ正確且安定ナラシムルコトヲ要ス

第四十條 專用無線施設ノ送信裝置及受信裝置ハ周波數ノ變更竝ニ送信、受信相互ノ切替ヲ敏速ニ行ヒ得ルモノナルコトヲ要ス專用無線電話ニシテ公衆通信ノ用ニ供スルモノニ在リテハ同時送受話方式ナルコトヲ要ス

第四十條ノ二 專用無線施設ノ空中線電力ハ所要通達距離ニ照シ最小ナルコトヲ要ス

第四十條ノ三 專用無線施設ノ受信裝置ハ同調銳敏ナルモノニシテ其ノ空中線ニ誘發スル高周波電流ガ他ノ無線電信又ハ無線電話ノ通信ヲ妨害セザルモノナルコトヲ要ス

第四十條ノ四 專用無線電信ノ機器ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外和文及歐文ヲ送受シ得ルモノニシテ一分時ニ和文ハ八十五字、歐文ハ二十五語以上ヲ送受シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十一條 專用無線電信ノ送信裝置ハB電波ヲ發射セザルモノナルコトヲ要ス但シ實驗專用無線電信又ハ船舶ニ施設スル電源用變壓器入力三百ワット未滿ノ專用無線電信ニシテ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ(同上改正)

第四十二條 專用無線施設ノ送信裝置及受信裝置ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外別表第一號ノ區別ニ依リ各該當ノ型式及周波數ノ電波ヲ送受シ得ルモノナルコトヲ要ス

船舶又ハ航空機ニ施設スル專用無線施設ノ送信裝置及受信裝置ニ付テハ關東逓信官署逓信局長ノ許可ヲ受ケ之ヲ前項ニ定ムル電波ノ外通信上必要ナル型式及周波數ノ電波ヲ送受シ得ルモノト爲スコトヲ得(同上改正)

第四十三條 專用無線施設ノ裝置ニハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外避雷其ノ他ノ保安上必要ナル設備ヲ施シ且機器及其ノ裝置ノ保守上必要ナル計器及豫備品竝ニ送信裝置、受信裝置及電源設備ノ接續圖面ヲ備付クベシ

第四十四條 專用無線施設ヲ施設スルトキハ其ノ通信室内ニ正確ナル時計ヲ備付クベシ關東州船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法(以下船舶安全法ト稱ス)第四條第一項第一號及第二號ニ掲グル船舶(同條第二項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ免除サレタルモノヲ除ク以下無線強制船舶ト稱ス)ニ施設スルモノニ在リテハ秒針ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ時計ハ無線通信士ヲシテ之ヲ毎日一回以上グリニッヂ標準時ニ照合セシムベシ

第四十四條ノ二 無線電信強制船舶ニ施設スル專用無線電信ノ通信室ニハ非常燈ヲ備付クベシ

第四十四條ノ三 船舶ニ專用無線電信ヲ施設スルトキハ通信室ト航海船橋トノ間ニ送話管、電話其ノ他ノ通信設備ヲ施スベシ航空機ニ專用無線施設ヲ施設スル場合ニ於テ無線通信士席ガ操縱士席ヨリ離隔スルトキ其ノ兩席間ニ付亦同ジ

第四十四條ノ四 船舶ニ施設スル專用無線施設ニシテ一五〇kc以下ノ周波數又ハ四〇〇〇kc以上ノ周波數ヲ發射シ得ル裝置ヲ有スルモノハ之ニ少クトモ千分ノ五ノ正確度ヲ有スル周波數計又ハ之ニ相當スルモノノ備付アル事ヲ要ス

第四十五條 無線電信強制船舶ニ施設スル專用無線電信ノ主送信裝置ハA二電波若ハB電波ノ周波數ガ五〇〇kcナル場合ニ於テ空中線電力七十五ワット以上ナルカ又ハ晝間百九十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナル事ヲ要ス

第四十六條 船舶ニ施設スル專用無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スル補助設備ヲ裝置スベシ

一 獨立ノ電源ヲ有スルコト

二 獨立ノ高電壓發生裝置ヲ有スルコト

三 連續シテ六時間以上使用シ得ルコト

四 送信裝置ハA二電波又ハB電波ノ周波數ガ五〇〇kcナル場合ニ於テ空中線電力五十ワット以上ナルカ又ハ晝間百五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト但シ無休ノ聽守ヲ要セザル專用無線電信ニ在リテハ空中線電力二十五ワット以上ナルカ又ハ晝間九十五キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナルコト

五 受信裝置ハ眞空管式ニシテ周波數五〇〇kcノA二電波又ハB電波ヲ受信シ得且鑛石檢波器ニ依リテモ受信シ得ルコト

六 直ニ全能力ヲ以テ使用シ得ルコト

前項ノ補助設備ハ最高滿載吃水線上或ルベク高ク船舶ノ上部安全ナル場所ニ裝置スルコトヲ要ス

主裝置前二項ノ條件ヲ具備スルトキハ補助設備ヲ裝置セザルコトヲ得無線電信強制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スル專用無線電信ニシテ公衆通信ノ用ニ供セザルモノニ在リテハ關東逓信官署逓信局長ニ於テ船體ノ構造上補助設備ヲ裝置スルコトヲ不適當ト認メタルトキ亦同ジ(同上改正)

第四十七條 關東州船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル以上ノ通達距離ヲ有スルモノナル事ヲ要ス

ル船舶設備規程（以下「設備規程」ト略ス）第百四十六條ノ規定ニ依リ總噸數五千噸以上ノ旅客船ニ裝置スル無線方位測定機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　關東遞信官署遞信局ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト但シ遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ（同上改正）

二　二八五kc乃至五一五kcノ周波數帶ニ於テ成ルベク正確ニ眞方位ヲ測定シ得ルコト

三　良好ナル感度ヲ有スルコト

前項ノ無線方位測定機ヲ航海船橋又ハ通信室以外ノ場所ニ裝置シタル場合ハ其ノ裝置場所ト航海船橋及通信室トノ間ニ送話管、電話其ノ他ノ通信設備ヲ施スベシ

無線方位測定機ノ較正曲線ハ裝置後速ニ之ヲ作成シ關東遞信官署遞信局長ニ提出スベシ（同上改正）

第四十七條ノ二　船舶ニ施設シタル專用無線電信ニ裝置スル警急自働受信機ハ左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　關東遞信官署遞信局ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルコト但シ遞信省電氣試驗所ノ型式試驗ニ依リ其ノ型式ノ證明ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ（同上改正）

二　警急符號ニ依リ起動シタルトキハ航海船橋、通信室及主任無線通信士室ニ備付ノ可聽警報裝置ヲ連續的ニ動作セシメ之ガ停止ハ通信室ニ備付ノ開閉器ニ依リテノミ爲シ得ルコト

第四十七條ノ三　船舶設備規程第三十六條ノ規定ニ依リ船舶ニ備フル救命艇ニ裝置スル無線電信設備ハ特ニ許可又ハ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　周波數五〇〇kcノA二電波又ハB電波ヲ送受シ得ルコト

二　連續シテ三時間以上使用シ得ルコト

三　送信裝置ハA二電波又ハB電波ノ周波數ガ五〇〇kcナル場合ニ於テ空中線電力十ワット以上ナルカ又ハ載間五十キロメートル以上ノ通達距離ヲ有スルコト

四　受信裝置ハ眞空管式ニシテ且鑛石檢波器ニ依リテモ受信シ得ルコト

五　機器ハ機械的振動ニ堪フルコト

六　操艇ノ爲送受信ニ妨害ヲ受ケザルコト

七　有效ナル蔽圍設備ヲ有スルコト

第七節　無線通信士

第四十八條　專用無線施設ノ通信ニ從事スル者（以下「無線通信士」ト略ス）ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ相當資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス但シ電氣通信令第三條第七號ニ依リ氣象通信若ハ報時通信ノ受信ニ專用スル目的ヲ以テ施設シタル專用無線施設又ハ實驗專用無線施設ノ通信ニ從事スル者其ノ他之ニ準ズベキ者ニシテ特ニ關東遞信官署遞信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ（同上改正）

主トシテ外國各港間ノミヲ航行スル船舶其ノ他外國ニ在ル船舶ニ施設シタル專用無線施設ニシテ前項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザル特殊ノ事由アルモノニ在リテハ關東遞信官署遞信局長ノ認可ヲ受ケ關東州ノ目的港ニ到著スル迄國際電氣通信條約附屬一般無線通信規程第十條ニ依リ外國主管廳ニ於テ交付シタル第一級、第二級又ハ特別證明書ヲ所持スル者ヲシテ無線通信士資格檢定規則ニ規定スル第一級、第二級又ハ第三級ノ資格ヲ有スル者ノ爲シ得ル通信ニ從事セシムルコトヲ得外國ニ在ル航空機ニ施設シタル專用無線電信ニ付亦同ジ（同上改正）

第四十九條　船舶ニ施設シタル專用無線電信ニシテ通信執務時間第一種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ一年以上、通信執務時間第二種ニ屬スルモノノ主任無線通信士ハ六月以上船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信ニ於テ其ノ通信ノ實務ニ從事シタル者ナルコトヲ要ス

第四十九條ノ二　航空機ニ施設シタル專用無線電信ノ主任無線通信士ハ航空機無線電信ニ於テ通信ノ實務ニ從事シ又ハ航空機ニ乘務シタル經歷アル者ナルコトヲ要ス

第五十條　船舶ニ施設シタル專用無線電信ニハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外別表第二號ニ依リ無線通信士ヲ配置スベシ

陸上又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設及船舶ニ施設シタル專用無線電話ニ配置スベキ無線通信士ニ付テハ關東遞信官署遞信局長ニ於テ其ノ資格及員數ヲ指定スルコトアルベシ（同上改正）

第五十一條　專用無線施設ノ施設者其ノ無線通信士ヲ選任又ハ解任シタルトキハ其ノ都度別記第二號樣式ニ依リ之ヲ關東遞信官署遞信局長ヘ屆出ヅベシ但シ遞任ノ場合ハ履歷書、體格檢査證書及無線通信士資格檢定合格證書寫ヲ添附スベシ（同上改正）

第五十二條　大使ハ專用無線施設ノ無線通信士ガ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナリト認ムルトキハ之ガ解任ヲ命ズルコトアルベシ（同上改正）

第五十二條ニ　無線通信士ハ本章第六節ノ檢査吏員ヨリ無線通信士資格檢定合格證書ノ呈示ヲ求メラレタルトキハ遲滯ナク之ヲ呈示スベシ

第四節　通信執務時間及聽守時間

第五十三條　專用無線施設ノ通信執務時間ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ區別ニ依ルベシ

一　船舶ニ施設スル專用無線電信

第一種　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員二百人以上ノモノニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ　無休

第二種甲　遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニシテ旅客定員百人以上二百人未滿ノモノ又ハ近海ノ航行區域ヲ有スル總噸數五千噸以上ノ船舶ニシテ旅客定員百人以上ノモノニ施設シ公衆通信ヲ取扱フモノ　一日十六時間　通信執務時間割ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則附錄第四號表ニ規定スル區別ニ依ルベシ

第二種乙　公衆通信ヲ取扱ヒ第一種及第二種甲ニ該當セザルモノ又ハ無線電信强制船舶ニシテ第一種及二種甲ニ該當セザルモノ　一日八時間　通信執務時間割ハ國際電氣通信條約附屬一般無線通信規則附錄第四號表ニ規定スル區別ニ依ルベシ

第三種　第一種及第二種ニ該當セザルモノ　不定

二　其ノ他ノ專用無線施設　特ニ指定スル時間

專用無線施設ニ於テ必要アルトキハ通信執務時間外ニ於テモ通信ヲ爲スコトヲ得

第五十三條ノ二　船舶ニ施設シタル專用無線電信ニシテ通信執務時間第二種ニ屬スルモノニ在リテハ通信執務時間割ニ拘ラズ成ルベク當該船舶ノ入港前六時間以上連續執務スベシ

船舶ニ施設シタル專用無線電信ニシテ通信執務時間第三種ニ屬スルモノニ在リテハ當該船舶ノ航行中毎日午前八時及午後五時ヨリ各三十分間五〇〇kcノ周波數ニ依リ成ルベク聽守ヲ爲スベシ（昭一一・二・二九第八五改正）

第五十三條ノ三　無線電信强制船舶中總噸數三千噸以上ノ旅客船又ハ總噸數五千五百噸ヲ超ユル旅客船ニ非ザル船舶ニ施設シタル專用無線電信（通信執務時間第一種ニ屬スルモノヲ除ク）ニ在リテハ當該船舶航行中通信執務時間ニ該ラザル時間ニ於テ無線通信士ヲシテ五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲サシムベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲サシメ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル聽守ハ警急自働受信機ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第五節　運用

第五十四條　專用無線施設ノ使用ハ左ノ各號ニ從フコトヲ要ス但シ船舶又ハ航空機ノ遭難通信（以下遭難通信、海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全上緊急ノ性質ヲ有スル通信（以下警急通信及航行上危險警戒ニ必要ナル通信（以下安全通信ト稱ス）ニ關スル場合竝ニ船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ニ於テ報時、氣象報、水路告示、傳染病情報其ノ他海上又ハ空中ニ於ケル生命財産ノ保全ニ必要ナル事項ニ關スル一般艦船又ハ一般航空機宛公報ノ放送ヲ受信スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

二　船舶又ハ航空機ニ施設シタルモノノ使用ハ航行中ニ限ルコト

三　實驗專用無線施設ニ在リテハ他ノ無線電信又ハ無線電話ノ通信ニ支障ナキトキニ限ルコト

第五十五條　實驗專用無線施設ニ依ル機器ノ實驗ニハ擬似空中線同路ヲ使用スベシ但シ特ニ電波（B電波ヲ除ク）ノ發射ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ（昭一一・八・一勅令三號改正）

第五十五條ノ二　實驗專用無線施設ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ無線電信又ハ無線電話トノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ他ノ實驗專用無線施設トノ間ニ彼我ノ施設者名、機器裝置場所、裝置方式、空中線電力、使用周波數、感度又ハ實驗時刻ヲ照復スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依ル通信ニハ祕密ノ意義ヲ有スル語辭ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五十五條ノ三　實驗專用無線施設ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ他ノ無線電信又ハ無線電話ニ依ル發信ノ再送信ニ使用スルコトヲ得ズ

第五十六條　專用無線施設ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ其ノ施設者ニ於テ施設ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

一　遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ニ關シ他ノ無線電信又ハ無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

二　氣象若ハ時刻ノ承合、方位測定又ハ機器調整ノ爲他ノ無線電信又ハ無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

三　大使ノ指定シタル電信局又ハ電話局ノ指示ニ從ヒ之ト交信ヲ必要トスルトキ（同上改正）

四　軍事通信ノ必要ニ依リ軍用ノ無線電信又ハ無線電話トノ間ニ交信ヲ必要トスルトキ

五　船舶ニ施設シタル專用無線施設ニ於テ關東局施設ノ海港檢疫若ハ港内取締事務用ノ無線電信又ハ無線電話ヨリ當該事務ノ必要ニ依リ交信ヲ求メラレタルトキ（同上改正）

六　漁船ニ施設シタル專用無線施設ニ於テ漁業監督官廳用船舶ノ無線電信若ハ無線電話ヨリ漁業監督事務上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキ又ハ關東局所屬水産事業指導用ノ無線電信若ハ無線電話トノ間ニ漁獲ニ關シ交信ヲ必要トスルトキ（同上改正）

前項第四號ニ依ル海軍無線電信トノ間ノ交信ハ別ニ告示スル海軍用電報取扱規約ニ準據スベシ

第五十七條　船舶ニ施設シタル專用無線電信ノ補助設備ハ直ニ全能力ヲ以テ使用シ得ル狀態ニ保持スベシ

前項ノ狀態ハ當該船舶ノ航行中毎日一回以上之ヲ確メ其ノ都度之ヲ船長又ハ航海船橋ニ於ケル當直職員ニ通知スベシ

第五十七條ノ二　船舶ニ施設シタル專用無線電信ニシテ警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ爲スモノニ在リテハ當該船舶航行中毎日一回其ノ機能ヲ試驗スベシ

警急自働受信機ニ依リ聽守ヲ爲サントスルトキハ之ヲ空中線ニ接續シテ其ノ機能ヲ試驗シ可働狀態ニ在ルコトヲ確ムベシ

前二項ノ試驗ヲ爲シタルトキハ其ノ都度試驗ノ結果ヲ船長又ハ航海船橋ニ於ケル當直職員ニ通知スベシ

第五十八條　專用無線施設ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外グリニッヂ標準時ニ依ル毎時ノ十五分及四十五分ヨリ各三分間（以下吃緊時間ト稱ス）B電波及周波數四六〇kc乃至五五〇kcノ其ノ他ノ電波ニ依ル發信ヲ爲スベカラズ

船舶ニ施設シタル專用無線電信ハ當該船舶ノ航行中其ノ通信執務時間及第五十三條ノ三ノ規定ニ依リ聽守ヲ爲スベキ時間ヲ通

ジ沈默時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ

船舶ニ施設シタル無線電信ト交信ノ目的ヲ以テ陸上ニ施設シタル專用無線電信ハ沈默時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ當該時間ガ通信執務時間外ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條ノ二 船舶ニ施設シタル專用無線電信ハ當該船舶ノ航行中前條第二項ノ規定ニ依ルノ外通信執務時間中五〇〇kcノ周波數ニ依リ聽守ヲ爲スベシ但シ通信中又ハ他ノ周波數ニ依ル聽守中ニシテ設備ノ關係上其ノ聽守ヲ爲シ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十九條 大使ノ指定シタル電信局ニ於テ無線電信ニ依リ專用停信符號 ——·—·—·—·— ヲ發信シタルトキハ更ニ專用復信符號 ·—·—·—·—·— ヲ發信スル迄又關東長官ノ指定シタル電話局ニ於テ無線電話ニ依リ「專用停止」ヲ發信シタルトキハ更ニ「專用解除」ヲ發信スル迄其ノ通達距離內ニ在ル總テノ專用無線施設ニ於ケル通信ハ之ヲ停止スベシ但シ遭難通信、緊急通信及安全通信ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ(同上改正)

第五十九條ノ二 前條ノ規定ハ緊急ノ場合ニ於テ軍用ノ無線電信又ハ無線電話ヨリ同樣ノ發信ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ノ使用周波數ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外別表第三號ニ依ルベシ

第六十一條 專用無線電信ノ通信ハモールス符號ニ依リ其ノ方法ニ付テハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ從フベシ

一 呼出ヲ爲サントスルトキハ之ニ先チ受信機ヲ最良ノ感度ニ調整シ他ノ通信ヲ妨グルコトナキヤ否ヲ確ムヘシ

二 呼出ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 對手(被呼者トス)呼出符號 三回以下
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回以下

三 應答ハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ但シ直ニ通信事項ヲ受信シ得ザル特殊ノ事由アルトキハ可送符號ニ代フルニ可待符號 —·—·—· 及概定可待時間ヲ送信スベシ

(イ) 對手(呼出者トス)呼出符號 三回以下
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 一回
(ニ) 可送符號 —·—· 一回

四 第二號ノ呼出ヲ爲スモ被呼者ノ應答ナキトキハ二分間以上ノ間隔ヲ以テ更ニ二回呼出ヲ爲シ尙應答ナキトキハ十五分間(航空機ニ施設シタル專用無線電信ニ在リテハ五分間)以上ヲ經タル後ニ非ザレバ再ビ其ノ呼出ヲ爲スベカラズ

五 自己ノ通達距離內ニ在ル無線電信ヲ探呼セントスルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 探呼符號 —·—·—·—· 三回以下
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回以下
(ニ) 可送符號 — 一回

六 被呼者ノ應答アリタルトキハ直ニ所要ノ通信ヲ開始シ其ノ終ニ左ノ符號ヲ送信スベシ

(イ) 終信符號(和文)(歐文) ·—·—·—·— 一回
(ロ) 自己呼出符號 一回

七 被呼者通信ヲ了解シタルトキハ直ニ解信符號 ·—·—·— ヲ送信スベシ

八 相互ノ通信完了シタルトキハ互ニ結了符號 ·—·—·—·— 及呼出符號ヲ交換スベシ

九 實驗專用無線電信ノ通信ニシテ對手者ノ呼出ヲ必要トセザルモノニ在リテハ先ヅ自己ノ發射セントスル周波數及其ノ他ノ必要ト認ムル周波數ニ依リ一應聽守シ他ノ通信ヲ妨ゲザルコトヲ確メタル後左ノ符號ヲ順次送信シタル上更ニ一分間聽守ヲ行ヒ他ノ無線電信又ハ無線電話ヨリ停止ノ要求ナキ場合ニ限リ調整符號 ·—·—·— ノ發信ヲ開始シ其ノ終ニ終信符號 ·—·—·— 及自己呼出符號ヲ送ルベシ此ノ場合ニ於テ調整符號 ·—·—·— ノ發信ハ三分間ヲ超ユベカラズ專用無線電信ノ裝置工事、周波數測定又ハ機器調整ノ爲發信ヲ必要トスル場合亦同ジ

(イ) 實驗符號 ·—·—·— 三回
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回

第六十二條 專用無線電信ニ於テ遭難通信ヲ發信スルトキハ周波數五〇〇kcノA二電波又ハB電波ヲ以テ左ノ符號ヲ順次送信シ引續キ遭難ノ場合又ハ航空機ノ名稱、位置、狀況其ノ他救助ニ必要ナル事項ヲ送信スベシ

(イ) 遭難符號 ·—·—·—·— 三回
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回

前項ノ遭難通信ニハ特ニ必要ナシト認メタル場合ヲ除クノ外警急符號(十二長點ヨリ成リ各長點ノ長サハ四秒時ニ兩長點ノ間隔ハ一秒時トス)ヲ前置スベシ此ノ場合ニ於テハ事情ノ許ス限リ該符號ト遭難符號トノ間ニ二分間ノ間隔ヲ置クコトヲ要ス

船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線電信ニ於テハ當該船舶又ハ航空機ノ遭難ニ際シ其ノ位置判明セザルトキハ無線方位測定機ヲ有スル他ノ無線電信ヲシテ位置ヲ測定スルヲ得シムル爲事情ノ許ス限リ自己ノ呼出符號ヲ連續送信スベシ

第六十二條ノ二 專用無線電信ニ於テ遭難通信ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ他ノ一切ノ通信ヲ中止シテ該遭難通信ヲ受信シ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外應答傍受其ノ他遭難通信ノ爲最善ノ措置ヲ爲スベシ

前項ニ依リ應答スルトキハ左ノ符號ヲ順次送信シテ之ヲ爲スベシ

(イ) 對手呼出符號 三回
(ロ) 前置符號 —·—· 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回
(ニ) 解信符號 ·—·— 三回
(ホ) 遭難符號 ·—·—·—·— 一回

第六十三條 船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線電信ニ於テ緊急通信ヲ爲ス爲他ノ無線電信ヲ呼出サントスルトキハ其ノ呼出ノ前ニ緊急符號 ―・―・―・― ―・―・―・― ―・―・―・― ヲ三回送信スベシ

專用無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ直ニ一切ノ通信（遭難通信ヲ除ク）ヲ中止シ少クトモ三分間繼續聽守スベシ此ノ場合ニ於テハ緊急通信行ハレザルカ又ハ該通信ガ終了シタルコトヲ確認シタル後ニ非ザレバ再ビ通信ヲ開始スルコトヲ得ズ

第六十四條 船舶ニ施設シタル無線電信ニ於テ航行上危險警戒ニ必要ナル事項ノ通報ヲ入手シタルトキハ別ニ指定スル無線電信局及附近ニ在ル船舶ニ對シ之ヲ通報スベシ

前項ノ船舶ニ對スル通報ハ周波數五〇〇kcノA二電波又ハB電波ヲ以テ該通報ヲ入手シタル即刻（沈黙時間中ナルトキハ其ノ終末ニ）左ノ符號ヲ順次送信シタル上通報ノ種類（例ヘバ、遭難、警戒、暴風雨等）ヲ冠シ該通報ヲ二回送信シ更ニ次ノ沈默時間ノ終末及別ニ告示スル時刻ニ各二回送信スベシ

(イ) 安全符號 ― ― ― 三回
(ロ) 前置符號 ―・―・― 一回
(ハ) 自己呼出符號 三回

專用無線電信ニ於テ前項ノ發信ヲ認メタルトキハ其ノ發信中一切ノ通信（遭難通信及警戒通信ヲ除ク）ヲ中止スベシ

第六十五條 前五條ノ規定ハ專用無線電話ニ依ル通信ニ之ヲ準用ス但シ左ノ符號ハ各下記ノ語辭ニ代フベシ

一 遭難符號 「メーデー」又ハ「遭難」
二 緊急符號 「パン」又ハ「緊急」
三 安全符號 「セキュリテ」又ハ「警報」
四 前置符號 「コチラハ」

第六十五條ノ二 專用無線施設ハ遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲ス場合ニ限リ特ニ必要ナル型式若ハ周波數ノ電波又ハ電力ヲ使用スルコトヲ得

第六十五條ノ三 專用無線電信ニ於テ遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲ス場合送信速度ハ原則トシテ一分時ニ和文ハ七十字、歐文ハ十六語ヲ超エザルコトヲ要ス

第六十六條 船舶ニ施設シタル專用無線電信ハ大使ノ指定スル無線電信局ノ通達距離內ニ入リタルトキハ當該電信局ヨリノ自己ノ概略方位及距離竝ニ進行方向ヲ之ニ通知スベシ其ノ通達距離ヲ去ラントスルトキ亦同ジ（同上改正）

第六十七條 專用無線施設ハ船舶又ハ航空機ニ施設シタル無線電信又ハ無線電話ヨリ機器調整上必要ナル交信ヲ求メラレタルトキハ支障ナキ限リ他ノ通信ニ妨害ヲ與ヘザルコトヲ確メタル上之ニ應ズベシ

第六十八條 大使ハ無線通信監視局ヲ設ケ專用無線施設ノ使用ノ適否及通信上ノ秩序ヲ監視セシム（同上改正）

第六十八條ノ二 無線通信監視局ハ公衆通信上、軍事上又ハ無線電信若ハ無線電話ノ混信防遏上ノ必要ニ應ジ專用無線施設ニ對シ其ノ使用電力、電波ノ型式若ハ周波數又ハ交信ノ順位若ハ送信速度ヲ指示シ其ノ他臨機ノ措置ヲ命ズルコトヲ得

第五十九條ノ規定ハ無線通信監視局ニ於テ其ノ通達距離內ニ在ル總テノ專用無線施設ニ對シ通信ノ停止ヲ命ズル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條ノ三 無線通信監視局ニ於テ專用無線施設ノ通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ當該無線通信士ニ對シ其ノ通信ヲ停止セシム

第六十八條ノ四 無線通信監視局ニ於テ專用無線施設ノ通信ニ關シ前二條ノ規定ニ依リ必要ナル通信ヲ發スルトキハ自局呼出符號ニ無線通信監視符號 ―・―・―・― （無線電信ニ依ル場合）又ハ「監視」（無線電話ニ依ル場合）ヲ冠シ一般通信ト之ヲ區別ス

第六節 檢査

第六十九條 關東遞信官署遞信局長第三十五條、第五十一條又ハ第六十九條ノ二第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ檢査吏員ヲ派遣シ機器及其ノ裝置竝ニ無線通信士ノ資格及員數ヲ檢査セシメタル上檢定證書ヲ交付ス但シ特ニ必要ナシト認ムルトキハ檢査ヲ省略スルコトアルベシ（同上改正）

前項ノ檢査吏員ニ於テ當該專用無線施設ノ使用開始上特ニ必要アリト認ムルトキハ直ニ假檢定證書ヲ交付ス

第六十九條ノ二 關東遞信官署遞信局長專用無線施設ノ機器及其ノ裝置ガ規定ノ條件及許可ヲ受ケタル工事設計ニ適合セザルコトヲ認メ又ハ其ノ無線通信士ガ規定ノ資格及員數ニ適合セザルコトヲ認メタルトキハ當該施設ノ施設者（船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ其ノ施設者又ハ當該船舶ノ船長若シクハ航空機ノ機長）ニ其ノ旨ヲ通知シタル上前條ノ檢定證書若ハ假檢定證書ヲ返還セシメ又ハ檢査不合格通知書ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ當該施設ハ直ニ其ノ使用ヲ禁止スベキモノトス（同上改正）

前項ノ場合ニ於テ專用無線施設ノ施設者機器及其ノ裝置ヲ改修シ又ハ無線通信士ヲ相當配置シタルトキハ其ノ旨ヲ關東遞信官署遞信局長ニ屆出ヅベシ（同上改正）

第六十九條ノ三 關東遞信官署遞信局長ハ專用無線施設ノ檢査ノ結果ニ付當該施設者ニ對シ指定又ハ通知ヲ爲スヲ必要アリト認メタル場合ニ於テ檢査吏員ヲノミ第七十二條ノ無線施設檢査簿ニ之ヲ記入セシムルコトアルベシ

第七節 雜則

第七十條 專用無線施設ノ施設者ハ檢定證書、無線通信士ノ氏名及資格、電氣通信令罰則竝ニ施設目的ノ要綱ヲ通信室內見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第七十一條 專用無線施設（氣象及報時ノ受信ニ專用スルモノヲ除ク）ノ施設者ハ無線通信日誌ヲ設備シ無線通信士ヲシテ左ノ事項ヲ記錄セシメ日誌使用後二年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

一 無線通信士ノ氏名、資格及服務方法
二 他ノ無線電信又ハ無線電話ト通信ノ都度左ノ事項
(イ) 通信ノ開始及終了ノ月日時刻
(ロ) 對手ノ無線電信又ハ無線電話ノ名稱（場合ニ依リ觀測、呼出符號、呼出名稱、機器、機械、裝置、電波等ヲ附記スベシ）
(ハ) 自己及對手ノ無線電信又ハ無線電話ノ使用周波數
(ニ) 通信ノ種別（專用護信、電報託送、氣象通信、遭難通信等ノ種別ヲ記載スベシ）
(ホ) 對手ノ無線電信又ハ無線電話トノ間ノ概定距離

(ト)(ヘ) 通信狀況（電信及通信ノ有無等ヲ附記スベシ）

對手ノ無線電信又ハ無線電話ヨリ通知ヲ受ケタル事項ノ大要（船舶又ハ航空機ノ位置、針路等後日ノ參考トナルベキ事項ヲ記載スベシ）

三 船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ當該ノ船舶又ハ航空機ノ航程（發、寄港又ハ立寄地名及其ノ月日時刻ヲ記載スベシ）

四 船舶ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ當該船舶ノ航行中每日正午及午後八時ニ於ケル位置

五 補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器ノ保守狀況（機器ニ故障アリタルトキハ其ノ狀況及原因竝ニ措置顛末ヲ記載スベシ）

六 補助設備電源用二次電池ヲ充電シタルトキハ其ノ充電時間、充電電流及充電前後ノ電壓

七 發射電波ノ周波數ノ偏差ヲ測定シタルトキハ其ノ結果（偏差甚ダシキトキハ其ノ措置顛末ヲ附記スベシ）

八 遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲シタルトキハ其ノ事實之ニ關スル措置顛末

九 電氣通信令及之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル專用無線施設又ハ外國ノ無線電信若ハ無線電話ヲ認メタルトキハ其ノ事實

十 船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ外國ニ於テ其ノ裝置若ハ使用ニ關シ臨檢若ハ制限セラレタルトキハ其ノ事實竝ニ之ニ關スル措置顛末

十一 實驗專用無線施設ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

十二 前各號ノ外參考トナルベキ事項

第七十二條 專用無線施設ノ施設者ハ別記第三號樣式ノ無線施設檢査簿ヲ設備シ檢査ノ都度之ヲ檢査吏員ニ呈示スベシ

專用無線施設者關東逓信官署逓信局長ノ指示ニ依リ措置シタルトキハ其ノ措置顛末ヲ無線施設檢査簿ニ記錄スベシ

無線施設檢査簿ハ其ノ使用後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

第七十三條 專用無線施設（氣象及報時ノ受信ニ專用スルモノヲ除ク）ノ施設者ハ無線通信日誌及無線施設檢査簿ニ依リ左ノ各號ノ事項ヲ簡明ニ抄錄シ別記第四號樣式ノ表紙ヲ附シ一月每ニ（船舶ニ施設シタル專用無線施設ニシテ警戒船舶ノ航行一月以上ニ及ブモノハ之ヲ離エ入港ノ時ニ）關東逓信官署逓信局長ニ提出スベシ

一 無線通信士ノ氏名、資格及服務方法

二 船舶又ハ航空機ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ當該船舶又ハ航空機ノ航程ノ概要

三 陸上ニ施設シタル專用無線施設ニ在リテハ一日平均ノ交信度數、交信延時分及交信シタル對手ノ無線電信又ハ無線電話ノ數

四 通信概況（對手ノ無線電信又ハ無線電話、通信成績等ヲ記載スベシ）

五 關東逓信官署逓信局長ヨリ檢査ノ結果ニ付指示ヲ受ケタル事項及之ニ對スル措置顛末（同上改正）

六 補助設備及警急自働受信機ノ故障ノ有無其ノ他機器保守狀況

七 實驗專用無線施設ニ在リテハ實驗ノ方法、經過及結果

八 前各號ノ外參考トナルベキ事項

第七十四條 關東逓信官署逓信局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ無線通信日誌、無線施設檢査簿又ハ其ノ寫ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ（同上改正）

第七十五條 專用無線施設ノ施設者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ都度狀況ヲ具シ其ノ旨ヲ關東逓信官署逓信局長ニ屆出ヅベシ（同上改正）

一 外國ニ於テ特ニ無線電信又ハ無線電話ノ裝置又ハ其ノ使用ヲ制限セラレタルトキ但シ其ノ制限ガ告示セラレタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 遭難通信、緊急通信又ハ安全通信ヲ爲シタルトキ

三、電氣通信令及之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル專用無線施設又ハ外國ノ無線電信若ハ無線電話アリト認メタルトキ

第七十六條 第三十一條第四項、第三十五條、第三十七條、第三十八條又ハ第六十九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ差出ス書類ハ電報ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四章 雜則

第七十七條 電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ電氣通信令第十一條、第十五條及本令第九條、第十九條乃至第二十七條ノ規定ヲ準用ス正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ電信局トノ間ニ施設セントスルモノニ關シテハ前項ノ外第七條、第八條、第十一條乃至第十四條、第十六條乃至第十八條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス電線路ニ依リ火災ノ他ノ通報ヲ爲ス公衆用信號ヲ施設セントスルモノニ關シテハ第一項ノ外第七條、第十五條、第十六條第二項及第三項、第十七條第二項竝ニ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 電線路ニ高周波電流ヲ通ジテ爲ス通報信號ノ施設ニ關シテハ電氣通信令第十一條、第十五條竝ニ本令第七條、第九條、第十一條（但書ノ規定ヲ除ク）第十二條第一項及第二項、第十三條、第十四條、第十六條、第十七條第二項、第十八條乃至第二十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ通報信號施設ニシテ一萬サイクル以上ノ高周波電流ヲ通ズルモノナルトキハ前項ノ準用規定（第十一條、第十三條及第十四條第三項規定ヲ除ク）ノ外電氣通信令第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第十六條及第十七條竝ニ本令第三十條第四項、第三十一條第一項及第二項、第三十二條、第三十六條、第三十七條、第六十八條、第六十九條、第六十九條ノ二及第七十條ノ規定ヲ準用ス但シ第三十二條ニ規定スル呼出符號ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ（第三十九條第六項ノ規定ニ依ル）

第七十九條 電氣通信令第十一條及第十五條竝ニ本令第十條、第五十八條乃至第五十九條、第六十二條乃至第六十四條、第六十五條ノ三及第六十八條乃至第六十八條ノ四ノ規定ハ關東州ニ定繫港又ハ定置場ヲ有セザル船舶又ハ航空機ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ニ、本令第三章第二節乃至第六節ノ規定ハ船舶安全法第十四條ノ規定ニ該當スル船舶ニ裝置シタル無線電信ニ（無線電信ニ關スル條約及同條約附屬取扱等ニ別段ノ規定アル事項ニ付テハ其ノ規定ニ依ル）之ヲ準用ス（同上改正）

第八十條 電氣通信令第三條、第五條、第七條、第九條、第十一條、第十二條及第十四條乃至第十七條竝ニ本令第三章第一節、第二

節及第五節乃至第七節ノ規定ハ無線標識施設ニ之ヲ準用ス（同上改正）

第八十一條 官署事務ノ專用ニ供スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ付テハ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 本令ニ依リ大使ニ提出スベキ書類ハ總テ關東逓信官署逓信局長ヲ經由スベシ（昭和一一・八・一第四三號改正）

附 則（昭和八・九・一第二八號）

本令ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地電氣通信令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年十二月三十一日以前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ許可ノ效力ヲ有スル專用無線施設ハ其ノ發射スル電波ノ種類ニ關シテハ陸上ニ施設シタルモノハ昭和九年十二月三十一日迄、船舶ニ施設シタルモノハ昭和十四年十二月三十一日迄第三十一條第二號ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

（第一號）

施設ノ區別		發射電波ノ型式及周波數 kc	受信電波ノ型式及周波數 kc
陸上ニ施設スル專用無線施設	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數	特ニ指定スル電波ノ型式及周波數	
船舶ニ施設スル專用無線電信	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB	一〇〇乃至二〇〇〇(2)
	同	同	A一及A二又ハB
	三六五kc乃至一五〇〇kcノ周波數帶及一五〇〇kc以下ノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二又ハB	三七五 四二五(1) 五〇〇(3)
	同	同	三七五(1) 五七五 一五〇〇 二五〇 三六〇(3) 四三〇
	同	A一	A一及A二又ハB
	同	同	一〇〇乃至二〇〇〇(2)

（表中括弧內ノ數字ハ註ノ番號ヲ示スモノナリ）

附 則（昭和九・九・二八第四六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條、第四十四條ノ二、第四十七條及第四十七條ノ三ノ規定ハ關東州船舶安全令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ非ザル船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ニ付テハ第七十九條ノ規定ニ拘ラズ關東州船舶安全令施行ノ日迄仍從前ノ例ニ依ル

船舶ニ施設シタル專用無線施設ニシテ本令施行前ニ施設ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ效力ヲ有スルモノ送信周波數、無線通信士ノ資格及員數、通信執務時間及聽守時間ニ關シテハ第四十二條、第五十條第一項、第五十三條及第五十三條ノ三ノ規定ニ拘ラズ昭和九年十二月三十一日迄從前ノ例ニ依ルコトヲ得

關東逓信官署逓信局長ハ專用無線施設ニシテ特殊ノ事由アルモノニ付テハ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得（昭和一一・八・一第四三號改正）

船舶ニ施設スル專用無線電話	一五〇〇kc乃至一七一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	一六五〇	A三及A二又ハB	一〇〇乃至二〇〇〇				
航空機ニ施設スル專用無線電信	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A二(4)	三三三 五〇〇(5)	A一及A二又ハB	一九〇乃至五五〇				
航空機ニ施設スル專用無線電話	三二五kc乃至五一五kcノ周波數帶ヲ發受シ得ル送受信裝置ヲ有スルモノ	A三	三三三	A三及A二又ハB	一九〇乃至五五〇				

（註）

(1) 無線電信强制船舶ニ非ザル船舶ニ施設スルモノニ在リテハA二電波又ハB電波一三六四kcヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(2) 時刻、氣象、航行上ノ危險警戒ニ關スル放送等ノ受信上必要アルモノニ付テハ最小周波數ヲ一五kcト爲スコトヲ得

(3) 公衆通信用周波數トス

(4) 外國（滿洲ヲ除ク）ニ航行スル航空機ニ在リテハA一電波及A二電波ヲ發射スルモノナルコトヲ要ス

(5) 海洋ノ上空ヲ航行スル航空機ニ施設スルモノニ限ル

（第二號）

無線電信ノ種別		無線通信士最少限資格及員數			
		第一級	第二級	第三級	聽守員級
通信執務時間無休ノモノ		一人	一人	一人	一人
通信執務時間一日十六時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一	一		
	其ノ他ノモノ			一	

通信執務時間一日八時間ノモノ	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間四十八時間ヲ超ユルモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一			二
	當該船舶ノ一港ヨリ他港迄ノ航續時間八時間ヲ超ユルモノ四十八時間以内ノモノニシテ無休ノ聽守ヲ要スルモノ	一			一
	其ノ他ノモノ		一		
通信執務時間不定ノモノ	總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ施設シタルモノ			一	
	其ノ他ノモノ		一		

（備考）聽守員級ノ配置ヲ要スルモノニシテ警急自働受信機ヲ裝置スル場合ハ之ガ配置ヲ要セズ

（第三號）（昭和一一、八、一第四三號改正）

（一）船舶ニ施設シタルモノ

（表中括弧内ノ數字ハ註ノ番號ヲ示スモノナリ）

通信ノ區別	呼出及應答 A一	呼出及應答 A二	呼出及應答 A三	呼出及應答 B	其ノ他 A一	其ノ他 A二	其ノ他 A三	其ノ他 B
	kc	kc	kc	kc	kc	kc	kc	kc
施設者所屬ノ無線電信又ハ無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ	一四三 三七五 四一〇 五〇〇 一三六四	三七五 四一〇 五〇〇 一三六四	一六五〇	三七五 四一〇 五〇〇 一三六四	一二五 三七五 四一〇 一三六四	三七五 四一〇 一三六四	一六五〇 一七〇〇	三七五 四一〇 一三六四
	四一四〇 六二一〇	四一四〇 六二一〇	四四四〇 六六五〇		四一四〇 六二一〇	四一四〇 六二一〇	四四四〇 六六五〇	
電信局又ハ電話局トノ間ノ通信上必要アルトキ	一四三 五〇〇 四一四〇 五五二〇 六二一〇 八二八〇 一二四二〇	五〇〇 四一四〇 五五二〇 六二一〇 八二八〇 一二四二〇	一六五〇 四四四〇 六六五〇 八八八〇 一三三〇〇 一七七〇〇	五〇〇	一二五 一三〇 一三六(1) 一四三(2) 三七五 四一〇 四二五 四五四 五〇〇(3) 一三六四 一六〇〇 四一三〇 四一四〇 五五二〇 五五四〇 六二一〇 六二三〇 八二六〇 八二八〇 一一〇四〇 一一〇八〇 一二四二〇 一二四六〇 一六五二〇 一六五六〇	三七五 四一〇 四二五(1) 四五四 五〇〇(3) 一三六四 一六〇〇 四一三〇 四一四〇 五五二〇 五五四〇 六二一〇 六二三〇 八二六〇 八二八〇 一一〇四〇 一一〇八〇 一二四二〇 一二四六〇 一六五二〇 一六五六〇	一六五〇 一七〇〇 四四四〇 六六五〇 八八八〇 一三三〇〇 一七七〇〇	三七五 四一〇 四二五(1) 五〇〇(3) 一三六四

通信ノ區別	呼出及應答						
	A 二	A 三	A 一	A 二	A 三		
方位測定通信ヲ行フトキ	三三三 五〇〇					三七五 五〇〇	三七五 五〇〇
施設者所屬ノ無線電信若ハ無線電話相互間ニ特定事業用通信ヲ行フトキ又ハ電信局若ハ電話局トノ間ノ通信上必要アルトキ	三三三 五〇〇(7) 五六六〇 kc	三三三 五六六〇 kc	三三〇 三三三(6) 三四〇 五〇〇(3)(7) 五六六〇 五六九〇 一一一〇 一六七五〇 kc	三三〇 三三三(6) 三四〇 五〇〇(3)(7) 五六六〇 五六九〇 一一一〇 一六七五〇 kc	三三三(6) 五六六〇 五六九〇 一一一〇 一六七五〇 kc	四一〇 五〇〇(5)	四一〇 五〇〇(5)
海港檢疫又ハ港內取締事務用無線電信トノ間ニ通信ヲ行フトキ	四一〇 五〇〇(5)		四一〇 一三六四	四一〇 一三六四	四一〇 一三六四	三七五 五〇〇(4)	三七五 五〇〇(4)
漁船ニ施設シタル專用無線電信ニ於テ漁業監督官廳用ノ船舶無線電信若ハ無線電話又ハ關東廳所屬水產事業指導用無線電信若ハ無線電話トノ間ニ通信ヲ行フトキ	五〇〇 一三六四	一六五〇 四四四〇	五〇〇 一三六四	一三六四(1)	一三六四(1) 一六五〇 一七〇〇 四四四〇	三七五 五〇〇(4)	三七五 五〇〇(4)
方位測定通信ヲ行フトキ	三三三 五〇〇		三三三 五〇〇(3)	三三三 五〇〇(3)			

(二) 航空機ニ施設シタルモノ

(註)

(1) 通常通信周波數トス但シ原則トシテ一三六kc及四二五kcハ船舶內電信局トノ間ノ通信ニ、一二・五kc及四一〇kcハ陸上通信局トノ間ノ通信ニ使用スルモノトス

(2) 呼出及應答ニ伴フ通信ノ準備ニ使用スルモノトス

(3) 特ニ規定アル場合ヲ除クノ他ノ通信ニ混信ヲ生ゼズ且當該通信(第六十六條ノ規定ニ依ル通信其ノ他ガ數分間ニ亘リテ繼續スルモノニ在リテハ之ニ準ズルモノトス)ガ數分間以內ニ實行スルコトヲ確認スル場合ニ限リ使用スルコトヲ得

(4) 三七五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限リ呼出應答ヲ妨害セザル條件ノ下ニ使用スルコトヲ得

(5) 四一〇kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル

(6) 五分間以內ノ通信ヲ行フ場合ニ限ル

(7) 船舶無線電信又ハ船舶無線電信ト交信ヲ爲ス陸上無線電信トノ間ニ通信ヲ行フ場合ニ限ル

(8) 三七一五kcノ周波數ヲ發射シ得ザルモノニ限ル但シ方位測定業務ヲ行フ陸上電信局トノ間ノ呼出應答ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(第一號樣式) (昭和一一・八・一部四三號改正)

甲 船舶無線ノ例(航機ニ施設スルモノニ在リテハ之ニ準ズルモノトス)

專用無線電信(專用無線電話)施設願

年　月　日

住　所

「何」汽船株式會社

社　長　氏　名　㊞

關東遞信官署遞信局長　氏　名　殿

當社所屬汽船「何」丸ニ專用無線電信 專用無線電話)施設致度專用通信施設規則第三十一條ニ依リ別紙書類相添ヘ出願候也

施設事項書

一 施設ノ目的

(航行ノ安全ニ備ヘ施設者所屬海運事業用船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供シ尙電報送受ノ爲電信局トノ間ニ於テ施設者ノ專用ニ供スルヲ以テ目的トス)

二 施設ヲ必要トノル事由

(海難ニ際シ人命救助ニ資シ併テ海運事業經營ノ敏活ヲ計リ尙關東州船舶安全令ニモ從ハンガ爲本施設ヲ必要トス)

三 機器裝置船舶

船舶「何」丸(船名ニハ傍劃ヲ附シ肯綮文ニ依ル船名ヲモ附記スルコト)

四 工事設計(主設備、補助設備每ニ記入スルコト)

(一) 通信方式

單信式
ブレイクイン式
二重通信式
同時送受話式
等

秘密通信式

(二) 電話所要通話距離(主設備ニ付テハ之ヲ要セズ)
(三) 電源設備(左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト)

區別	種類	容量	箇數	電壓	電流	回轉數	製造者	備考
「何」用原動機								
「何」用流發電機								
「何」用蓄電池	(チユード)(ルクレ型等)	六時間放電率ニ於ケルモノ						共用スル場合ハ其ノ使用スル最大電力ヲ記入スルコト

(四) 送信(送話)裝置
(イ) 空中線電力(何)キロワット(ワット)
(ロ)(ハ) 電波ノ型式及周波數(電信電波ノ型式及周波數ヲ記入スルコト)
方式(ウエルチトスパーク式、自動傳信式、手動式、水晶制御式、真空管式等)
(火花式ノ場合)

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	備考
「何」流電動機									

(ホ)(ヘ)(ト) 送信(送話)可能周波數(自例「何」ヘロサイクル至「何」ヘロサイクル)
周波數變更裝置(手動式、自動式等)
製造者
各機器ノ種類(左表ニ依リ定格ヲ記入スルコト)

(真空管式ノ場合)

區別	種類	箇數	容量	電壓	電流	相及周波數	回轉數	製造者	用途
高周波發電機									
變壓器			一次二次						
火花間隙						(火花周波數ヲ記入スルコト)			
「何」用流電動機									
「何」用變壓器									
「何」用流發電機									
整流眞空管	(名稱ヲ記入スルコト)	(一箇ノ入力)	プレートフキラメント						
發振眞空管	(同)	(同)	プレートフキラメント						
變調眞空管	(同)	(同)	プレートフキラメント						
增幅眞空管	(同)	(同)	プレートフキラメント						

水晶發振子						（發振周波數ヲ記入スルコト）		
送話器								

（五）受信（受話）裝置
（イ）方式（オートダイン式、スーパーヘテロダイン式等）
（ロ）使用眞空管數「何」箇
（ハ）增幅器
高周波「何」段（眞空管名）
中間周波「何」段（同）
低周波「何」段（同）
（ニ）受信（受話）可能周波數 自「何」キロサイクル 至「何」キロサイクル
（ホ）製造者
（六）空中線及饋電線（各空中線毎ニ記入スルコト）
形狀（T型、逆L型等）
大サ
引込部長サ「何」メートル
水平部長サ「何」メートル
水平部條數「何」條
高サ「何」メートル（最高積載吃水線上ヨリ水平部迄ノ高サ）
（七）無線方位測定設備

（イ）方式（型式證明番號）
（ロ）空中線設備
（ハ）航海船橋及通信室トノ連絡裝置
（ニ）受信裝置、增幅裝置（五）ニ準ジ記入スルコト）
（八）救命艇內無線電信設備（一）乃至（五）ニ準ジ記入スルコト）
（九）警急自働受信設備
（イ）型式證明番號
（ロ）受信裝置、增幅裝置（五）ニ準ジ記入スルコト）
（ハ）可聽警報設備
五　通信執務時間
六　通信室ニ於ケル特殊ノ設備
（一）航海船橋トノ連絡裝置
（二）時計
（三）非常燈
七　工事地及工事者
八　落成期限
九　船舶關係事項

（一）船舶番號（登錄中ニシテ登錄未濟ノトキハ其ノ旨記入スルコト）
（二）汽船帆船ノ別
（三）旅客船、貨物船、漁船等ノ別
（四）信號符字
（五）旅客定員數
（六）航行區域
（七）總噸數
（八）船體ノ大サ（長サ及幅）
（九）就航方面
（一〇）船籍港
（一一）定繫港（關東州ニ於ケル主タル碇泊港ヲ定繫港トスルコト）
（一二）所有者
十　添附圖面
（一）空中線、通信室、機械室、二次電池ノ位置ヲ示セル船體ノ平面圖及斷面圖
（二）電源設備接續圖
（三）送信（送話）裝置接續圖
（四）受信（受話）裝置接續圖
（五）送受信（送受話）相互連絡關係圖
（六）空中線ノ形狀及大サヲ示セル圖面
（七）電線配置圖（電線ノ種類及太サヲ記入スルコト）
（八）無線方位測定設備ノ接續圖
（九）警急自働受信設備ノ接續圖
（十）救命艇內無線電信設備ノ接續圖

乙　陸上無線ノ例

專用無線電信（專用無線電話）施設願

年　月　日

住所
氏　名　㊞

滿洲國特命全權大使　氏　名　殿

別紙施設事項書ノ通專用無線電信（專用無線電話）施設致度專用通信施設規則第三十一條ニ依リ別紙書類相添へ出願候也

施設事項書

一　施設ノ目的
（「何」電信局トノ間ニ電報送受ノ爲施設者ノ專用ニ供スルヲ以テ目的トス
「何々」間ニ於テ當社經營ノ「何」事業ノ用ニ供スルヲ以テ目的トス
無線電信（無線電話）ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ專用スルヲ以テ目的トス
「何」無線電信局ノ發スル報時通信ノ受信ニ專用スルヲ以テ目的トス）
二　施設ヲ必要トスル事由
（詳記スルコト）
三　機械裝置場所
（一）「何」市「何」町「何」番地「何」構內
（二）發射空中線ノ正確ナル地理的位置（實驗專用無線施設ヲ除ク
（三）受信空中線ノ正確ナル地理的位置（無線羅計施設ニ限ル）

四　工事設計（主設備、補備設備毎ニ記入スルコト）

（製圖場所ニ關係以上ノ場合ニハ各別ニ記入スルコト　特ニ併示セザルモノハ船舶無線ノ例ニ依リ記入スルコト）

(一)　通信方式

（無線標識設ニ在リテハ發射方式（無指向式、指向式、回轉式、可變指向式等）無線電話及無線電信ノ場合ニ在リテハセイ（聲音セラレタルモノ）ヲ記入スルコト）

(二)　臺間所要通證距離

(三)　電源設備

(四)　送信（送話）裝置

(五)　受信（受話）裝置

(六)　空中線及接地

(イ)　電柱

種類及形式

高サ

柱數

(ロ)　空中線

（船信用及受信用ニ分チ使用（無指向性、枠型、短縮指向性等）數量ヲ記入シ難キ（警察電信）ニ於テ線種、形狀、寸法等ヲ記入スルコト）

(ハ)　空中線饋電線（ロニ準ズルコト）

(ニ)　接地（ロニ準ズルコト）

(七)　空中線擬似回路（之ヲ設置スルモノニ在リテハ其ノ種類及容量ヲ記入スルコト）

(八)　發射電波ノ測定方法（受信（受話）裝置ノミノ場合ハ之ヲ要セズ）

五　通信執務時間

（實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ機器實驗ヲ必要トスル時間ヲ記入スルコト　豫メ使用期間決定スルモノニ在リテハ使用期間自「何」年「何」月「何」日至「何」年「何」月「何」日ト附記スルコト）

六　實驗ヲ目的トスルモノナルトキハ實驗ノ種類、方法及實驗者ノ略歷

七　工事者

八　落成期限

九　添附圖面

(一)　機器裝置場所及其ノ附近ノ圖面

(二)　電源設備接續圖

(三)　送信（送話）裝置接續圖

(四)　受信（受話）裝置接續圖

(五)　送受信（送受話）相互連絡關係圖

(六)　空中線及空中線饋電線ノ形狀大サヲ示セル圖面

(七)　電線配置圖（電線ノ種類及太サヲ記入スルコト）

（第二號樣式）

專用無線施設通信從事者選任（解任）届

選任又ハ解任ノ別	同上月日	資格等級	氏名	執務スベキ無線電信又ハ無線電話ノ名稱又ハ位置	通信執務時間	聽守時間	公衆通信取扱所設置ノ有無	電信局トノ間ニ歐文電報ヲ送受スル業務ノ有無及其ノ送受電報ノ種別	船舶ニ施設シタル無線電信ノ場合	
									船舶ノ出入スル各港名	船舶ノ旅客定員	船舶ノ總噸數

右及屆出候也

年　月　日

住所

氏名　㊞

關東廳遞信局長　氏　名殿

（第三號樣式）

檢査年月日	檢査地	檢査官所屬官廳	檢査官職氏名
年　月　日		檢査官吏員	檢査官吏員

指示又ハ通知事項

指示ヲ受ケタル事項ニ對スル措置顛末

無線施設檢査簿

備考

一　紙質ハ模造紙四六判六十斤以上）ヲ使用スベシ

二　百枚ヲ以テ一綴トシ表紙ヲ附スベシ

（第四號樣式）

（紙面ノ大サ横約十九糎、縱約二十七糎）

「何」年「何」月分（又ハ　自「何」年「何」月「何」日分）
至「何」年「何」月「何」日分）

無線電信（無線電話）通信日誌抄錄

（施設者）
（機器裝置場所）

昭和十九年六月三十日　印刷
昭和十九年七月　十　日　發行

（非賣品）

發行者　運輸通信省海運總局

東京都下谷區入谷町二〇四番地

印刷者　大塚印刷所

（印文會員番號　東京二七五番）
電話根岸（87）一九七九番

997
102

終